

令和7年度
男女共同参画と多様な性についての
市民アンケート調査
—調査結果報告書—

市 民

(未定稿)

令和8年（2026年）3月
横 須 賀 市

目次

1. 調査目的および調査概要等	1
(1)調査目的	
(2)調査概要	
(3)その他	
2. アンケート結果のまとめ	2
3. 集計結果	5
3-0 属性	
(1)性別【F1】	
(2)年齢【F2】	
(3)働き方等【F3】	
(4)結婚有無【F4】	
(5)中学生以下の子の有無【F5】	
(6)介護の必要な家族の有無【F5】	
3-1 用語や制度の認知度について	7
用語や制度等の認知度 【問1】	
3-2 男女共同参画（社会）に関する考え方について	17
(1)男女の地位の平等感 【問2】	
(2)「男女共同参画社会」実現のための一番の課題 【問3】	
3-3 生活の中での男女共同参画について	25
(1)男女のありようについて 【問4】	
(2)家事分担について 【問5】	
3-4 女性の職業生活における活躍の推進について	35
(1)女性が職業を持つことについて 【問6】	
(2)女性が長く働き続けるために必要なこと 【問7】	
(3)リーダーや役員への女性の参画について 【問8】	
3-5 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）について	40
(1)国や市役所等の公的な取り組みとして重要なこと【問9】	
(2)育児休業・介護休業の取得の有無 【問10】	

3-6	男性の育児や介護への参画について	42
	(1)男性が育児や介護のための休業をとることについて 【問 11】	
	(2)育児休業、介護休業を取得する男性が女性に比べ少ないことや期間が短いことについて 【問 12】	
	(3)男性が家庭生活や地域活動に積極参加するために必要なこと 【問 13】	
3-7	健康課題について	47
	(1)女性の健康課題についてであると働きやすい職場での配慮 【問 14】	
	(2)子宮癌検診、乳がん検診の受診有無 【問 15】	
3-8	市の相談窓口について	50
	市の相談窓口の認知度 【問 16】	
3-9	性別等に基づく人権侵害（DV、ハラスメント等）について	56
	(1)「人権が侵害されている」と感じる場合について 【問 17】	
	(2)セクシャル・ハラスメントを受けたことの有無 【問 18】	
	(3)セクシャル・ハラスメントを見聞きしたことの有無 【問 19】	
	(4)セクシャル・ハラスメントをなくすために必要な取り組み 【問 20】	
	(5)DV について相談できる窓口の認知度 【問 21】	
	(6)DV に対する対策や支援として重要な取り組み 【問 22】	
3-10	多様な性・性的マイノリティ（LBGTQ+）について	62
	(1)性的指向や性自認についての悩みの有無 【問 23】	
	(2)性的指向や性自認について相談を受けたことの有無 【問 24】	
	(3)身の回りの性的マイノリティ（LBGTQ+）当事者の有無 【問 25】	
	(4)性的マイノリティ（LBGTQ+）当事者への市役所が取り組むべき支援 【問 26】	
3-11	横須賀市が進める取り組みについて	65
	男女共同参画社会、多様な性が尊重される社会の実現に向けて、横須賀市が特に重点をおいて取り組むべき事項 【問 27】	
3-12	アンケート全般について	67
	その他、ご意見等 【問 28】	

1. 調査目的および調査概要等

(1) 調査目的

本市の男女共同参画及び多様な性に関する現状や市民等の意識、ニーズを把握し、次期男女共同参画プラン策定のための基礎資料とするとともに、今後の施策の方向性の検討や評価に活用することを目的とする。

(2) 調査概要

1) 調査実施時期 令和7年8月～9月

2) 調査対象

2,000人(15歳以上の79歳以下の横須賀市民) ※住民基本台帳から無作為抽出

3) 配布・回収

- ・ 発送：郵送
- ・ 回収：紙の調査票の郵送もしくはインターネット回答
(電子申請システム e-kanagawa)
- ・ 調査票の発送および回収は人権・ダイバーシティ推進課が行う
- ・ 回収件数(率) 731件(36.6%)
うち、紙での回収 60% 439件
インターネットでの回収 40% 292件

(3) その他

- ・ 調査の企画・分析は、市長室人権・ダイバーシティ推進課で実施した。
- ・ 基数となるべき実数は、各設問に対する有効回答者数である。
- ・ なお結果数値は、表章単位未満を四捨五入しているため、計と内訳の合計が必ずしも一致しない。
また、複数回答の設問では、割合の合計が100.0%を超える。

2. アンケート結果のまとめ

2-1. 用語や制度の認知度（問1）

○認知度が高い用語

- ・ジェンダー（内容も含めて知っている：68.8%）
- ・SDGs（内容も含めて知っている：62.8%）
- ・LGBTQ+（内容も含めて知っている：53.8%）

○認知度が低い用語・制度

- ・SOGI（内容も含めて知っている：5.5%、聞いたこともない：78.2%）
- ・アウティング（内容も含めて知っている：13.5%、聞いたこともない：72.1%）
- ・ジェンダー・ギャップ指数（内容も含めて知っている：18.4%、聞いたこともない：41.7%）
- ・パートナーシップ宣誓証明制度（内容も含めて知っている：29.5%、聞いたこともない：33.7%）

2-2. 男女共同参画（社会）に関する考え方（問2～）

令和3年度調査と令和7年度調査で設問形式の違いはあるものの、男女共同参画はまだ十分に進んでおらず、男性優位の状況が続いているという市民の認識は、大きく変わっていないと見られる。

○男性の方が優遇されていると感じる分野

- ・「政治の場」で男性が優遇されていると回答した割合が最も高く77.0%（「男性の方が優遇」35.7%+「どちらかといえば男性が優遇」41.3%）
- ・「社会全体」でも68.9%（17.4%+51.5%）が男性優遇と回答。
- ・「職場で」では49.5%（12.9%+36.6%）、「家庭生活」では45.2%（12.1%+33.1%）が男性優遇と回答。

○平等であると感じる分野

- ・「学校教育の場」（教育を受ける機会も含めて）では60.7%が「平等である」と回答し、最も高い割合を示した。

○男女共同参画社会の実現に向けて、最も重要な課題（上位）

- ・「性別による固定的な役割分担の考え方の解消」：27.8%
- ・「仕事と家庭の両立支援を進める」：26.7%

2-3. 生活の中での男女共同参画（問4～）

- ・「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである」に対し、69.6%（どちらかといえば反対34.7%+反対34.9%）が反対。
（令和3年度：82.1%が反対　そう思わない51.8%、どちらかといえばそう思わない30.3%）
- ・「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである」に対し、58.4%（どちらかといえば反対27.6%+反対30.8%）が反対。

2-4. 女性活躍推進（問6～）

○女性が職業を持つことについての考え

- ・「生涯にわたり、職業をもち続けるのがよい」という回答が最も多く49.2%。
- ・次いで「子どもが生まれたら仕事を辞め、子どもが成長した後再び職業をもつのがよい」が37.7%。
- ・女性が職業を持たない方がよいという意見はごく少数：0.1%

○女性が長く働き続けるために特に重要だと思うこと（上位）

- ・「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務等）」：56.0%
- ・「育児・介護休業制度の充実」：51.6%
- ・「男女間の賃金・昇進等の格差解消」：38.4%

2-5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）（問9～）

○仕事と生活を両立できるようにするための公的な取り組みとして重要なこと（上位）

- ・「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」：28.9%
- ・「両立支援の制度強化」：28.7%
- ・「社会全体に対する意識づくり」：17.2%

2-6. 男性の育児や介護の参画（問11～）

令和3年度：男性が育児休業や介護休業を「積極的に取るべき」：55.2%

令和7年度：この割合は61.7%に増加しており、男性の育児・介護への積極的な参画を望む意識が強まっている。

○男性の育児・介護休暇取得への高い賛成

- ・男性が育児や介護のために休暇をとることについて、95.6%が賛成。（積極的に取るべき61.7%+どちらかといえば、取る方がよい33.9%）

○男性が育児・介護休業を取らない主な要因（上位）

- ・職場の理解が得られないから：19.8%
- ・人手不足で代替りの人がいないから：16.2%
- ・休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから：14.9%

2-7. 健康課題（問14～）

○女性の健康課題に対する取り組みで、特に重要だと思う配慮・支援（上位）

- ・「社員全体の理解」：20.0%
- ・「出産・子育てと仕事の両立支援」：18.8%
- ・「上司の理解」：13.9%

2-8. 市の相談支援窓口について（問 16～）

○市の相談事業に関する認知度（内容も含めて知っている＋聞いたことはある）は、特に専門的な窓口で低い傾向

- ・「市民相談室」の認知度：71.2%
- ・「女性のためのDV相談」の認知度：52.0%
- ・「ぽっとかん（地域の総合窓口相談）」：43.9%
- ・「よこすかLGBTs相談」：29.4%
- ・「デュオよこすか『女性のための相談室』」：26.9%

2-9. 性別等に基づく人権侵害（DV、ハラスメント）（問 17～）

○セクシュアル・ハラスメントの経験

- ・職場や学校、地域などでセクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」と回答した人：22.6%

○セクシュアル・ハラスメントの見聞き

- ・身の回りでセクシュアル・ハラスメントの場面を「見たり、被害を聞いたりしたことがある」：41.1%

○DV相談機関の認知度

- ・「警察」が最もよく知られており、82.2%が知っていると回答。
- ・次いで「市役所」：32.9%
- ・専門機関である「配偶者暴力相談支援センター」の認知度：13.4%
- ・「相談できる機関を知らない」：11.5%

2-10. 多様な性・性的マイノリティ（LGBTQ+）（問 23～）

○自身の性的指向・性自認に関する悩み

- ・「性的指向に悩んだことがある」：2.6%、「性自認に悩んだことがある」：1.8%
- ・「悩んだことはない」：88.5%。

○性的指向・性自認に関する相談を受けた経験

- ・身の回りの人から「相談を受けたことがある」人は10.4%。

○身近なLGBTQ+当事者の存在

- ・「友人や知人にいる」が最も多く16.7%。
- ・「家族や親族にいる」は1.9%、「学校や職場にいる」は3.6%。
- ・「周囲にはいない（知らない）」と回答した人が70.4%

2-11. 横須賀市が進める取り組み（問 27）

ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進関連が上位

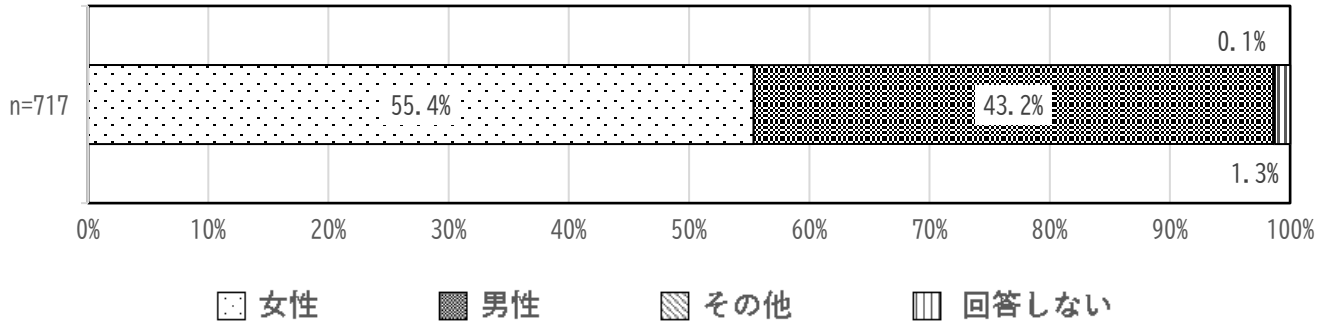
- ・多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援：50.7%
- ・子育てと両立できる環境整備（保育所、放課後の居場所等）：45.6%
- ・出産や子育てで離職した女性の再就職支援：33.0%

3. 集計結果

3-0 属性

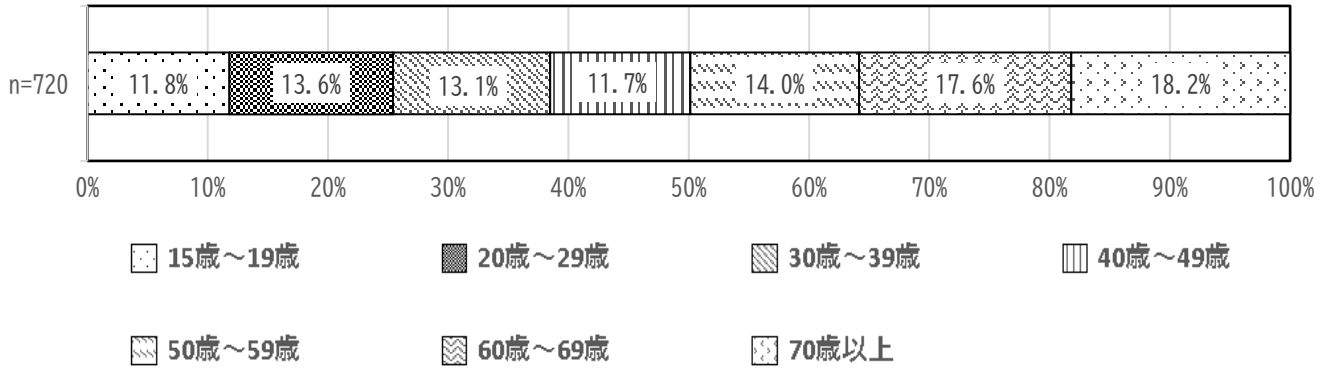
(1) 性別 【F1】

図 3-0-1



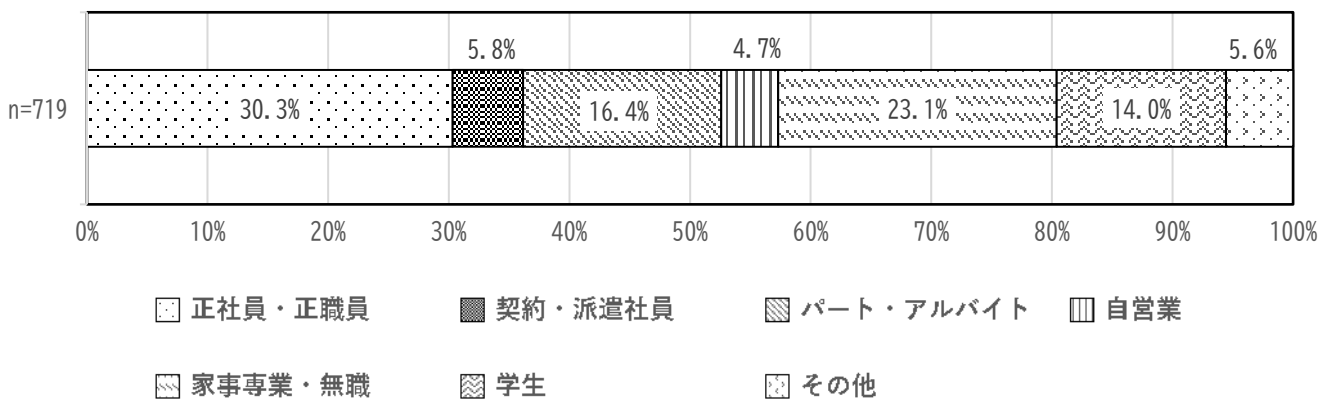
(2) 年齢 【F2】

図 3-0-2



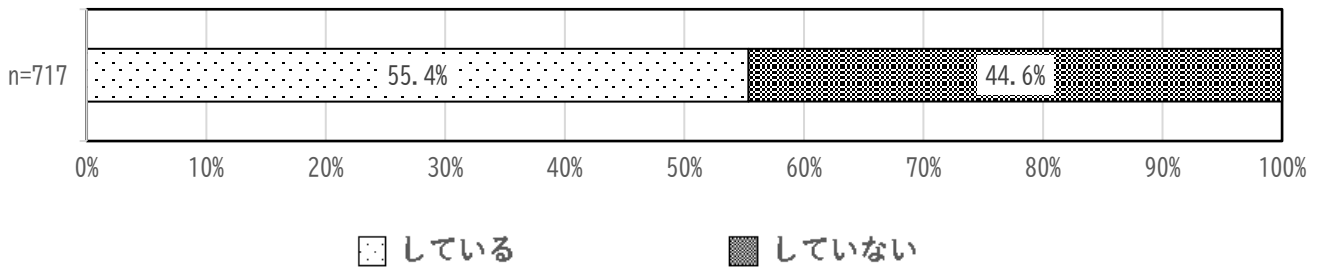
(3) 働き方等 【F3】

図 3-0-3

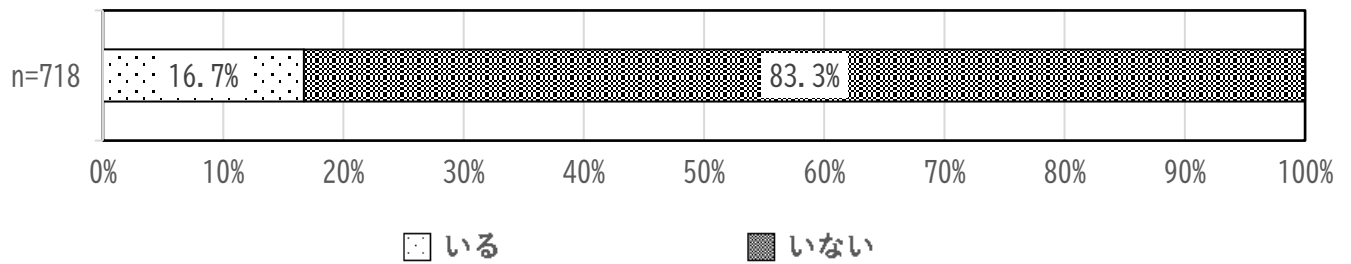


(4) 結婚有無【F4】

図 3-0-4

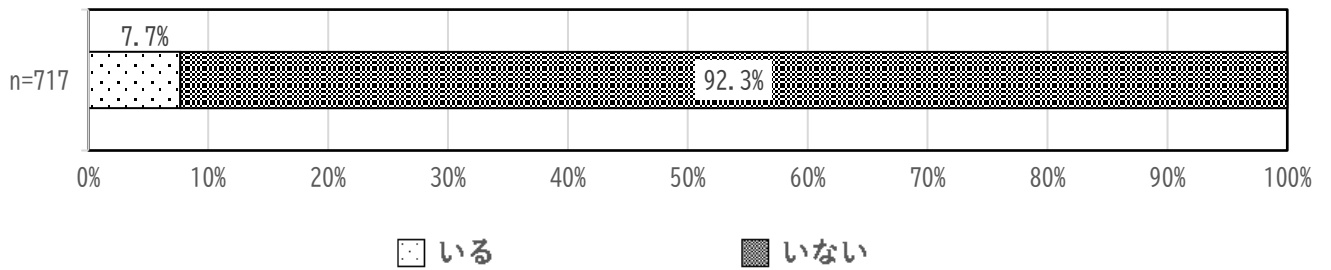


(5) 中学生以下の子の有無【F5】



(6) 介護の必要な家族の有無【F6】

図 3-0-6

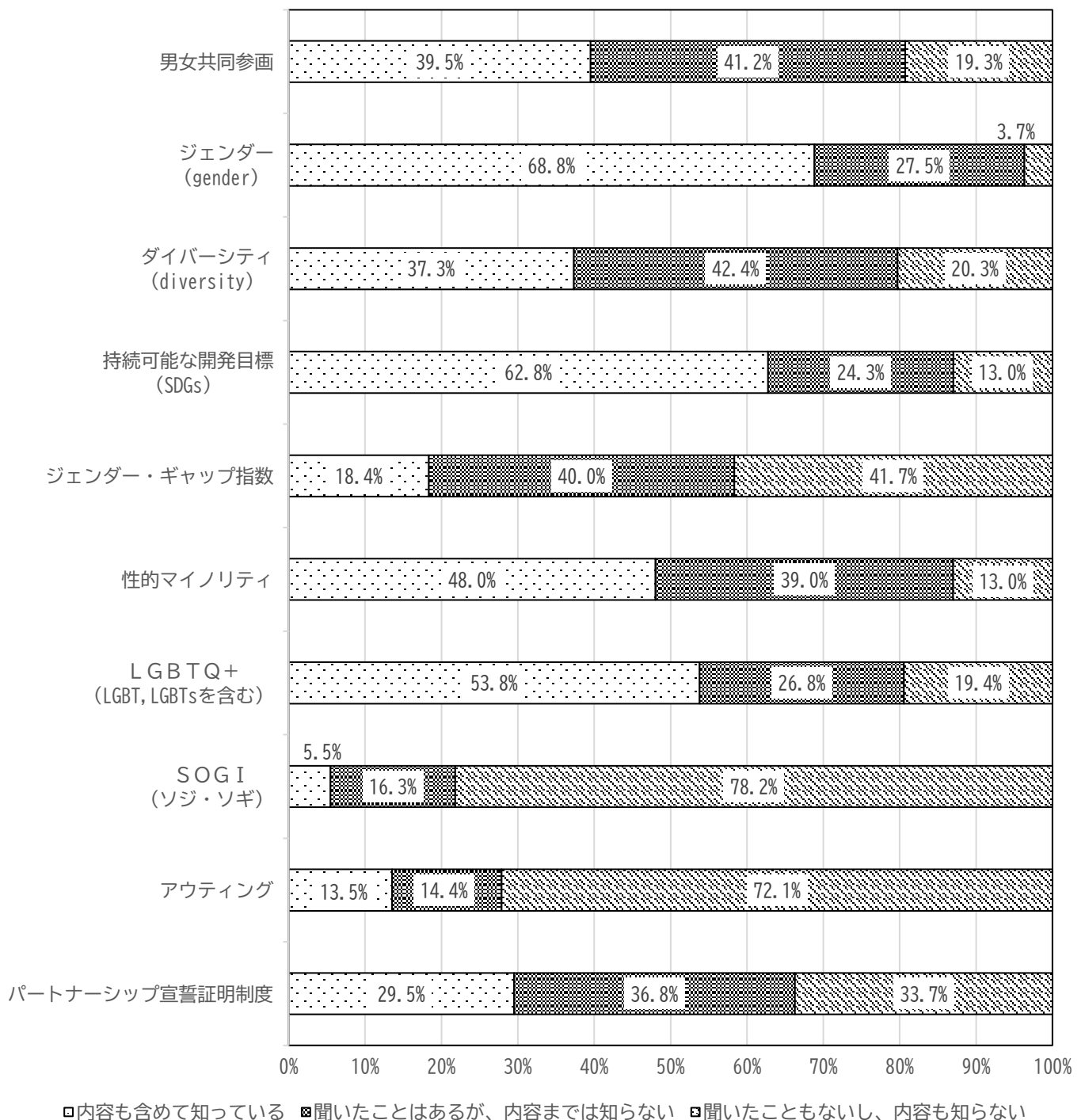


3-1 用語や制度の認知度について

問1 あなたは、次の①～⑩に掲げる用語や制度等を知っていますか。

男女共同参画、ジェンダー、ダイバーシティ、SDGs、性的マイノリティ、LGBTQ+は、「内容も含めて知っている」と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」を合わせた認知度が高かった。一方、SOGI やアウティングは、認知度が低かった。

図 3-1-1



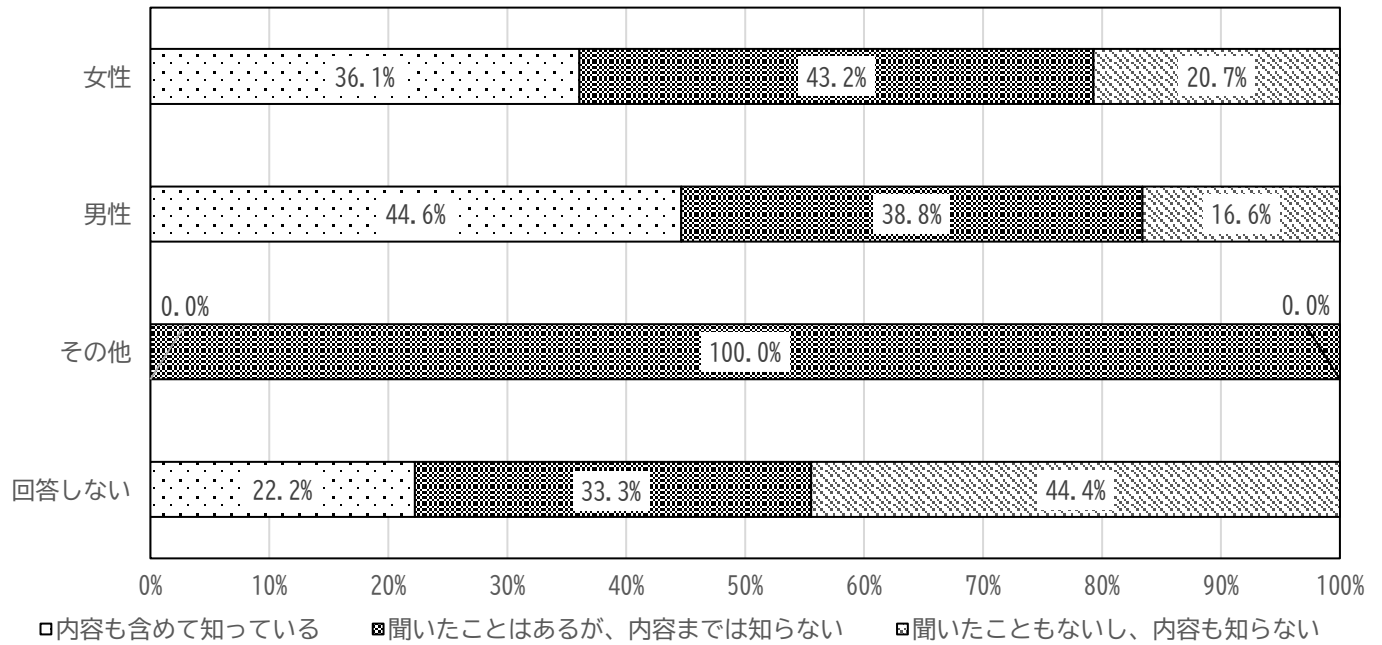
■属性別の特徴

①男女共同参画について

男女別で見ると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

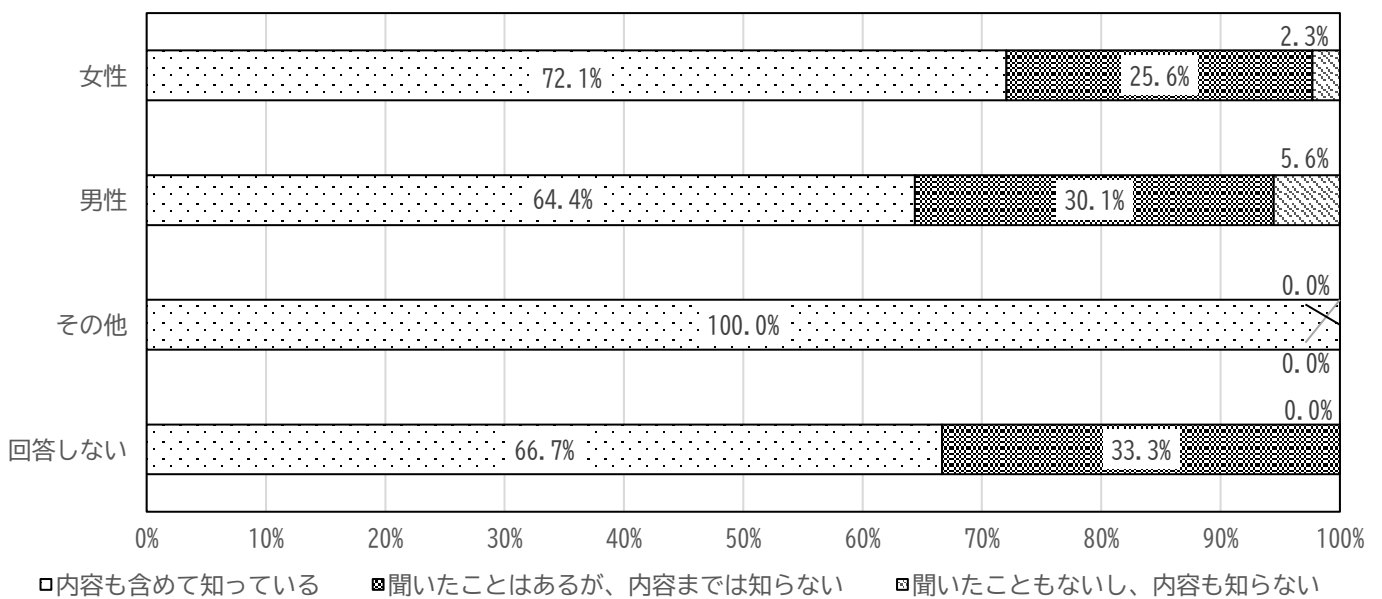
図.3-1-1-1①



②ジェンダーについて

男女別で見ると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

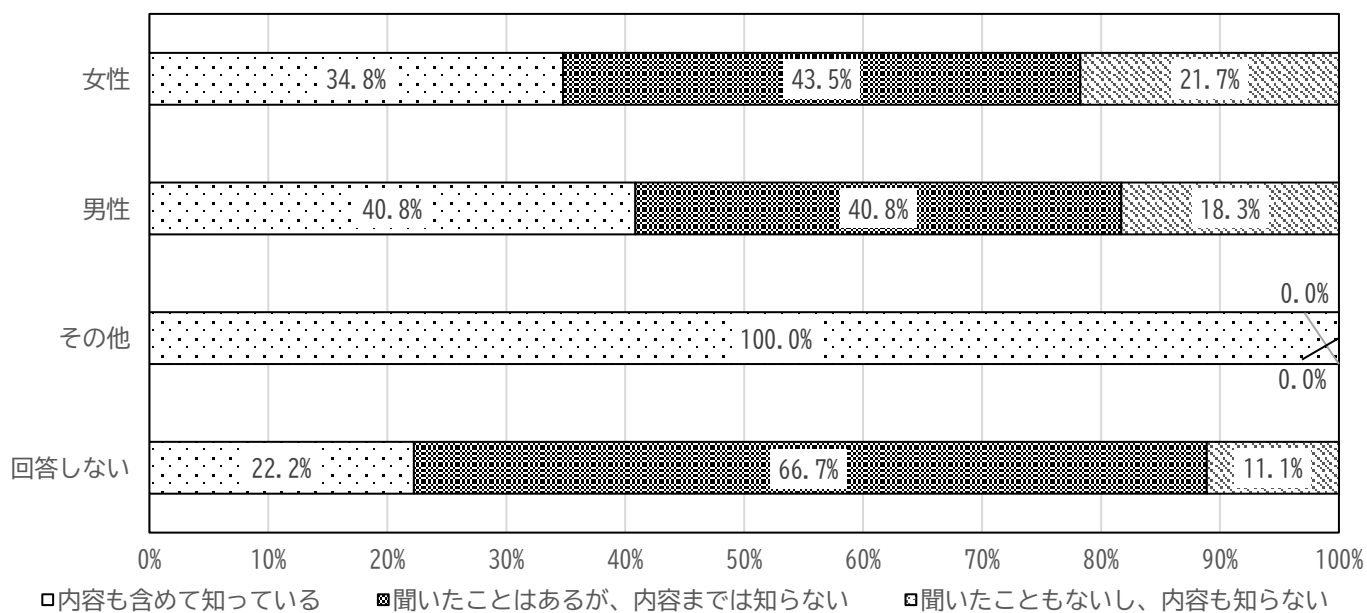


③ダイバーシティについて

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図. 3-1-1-1③

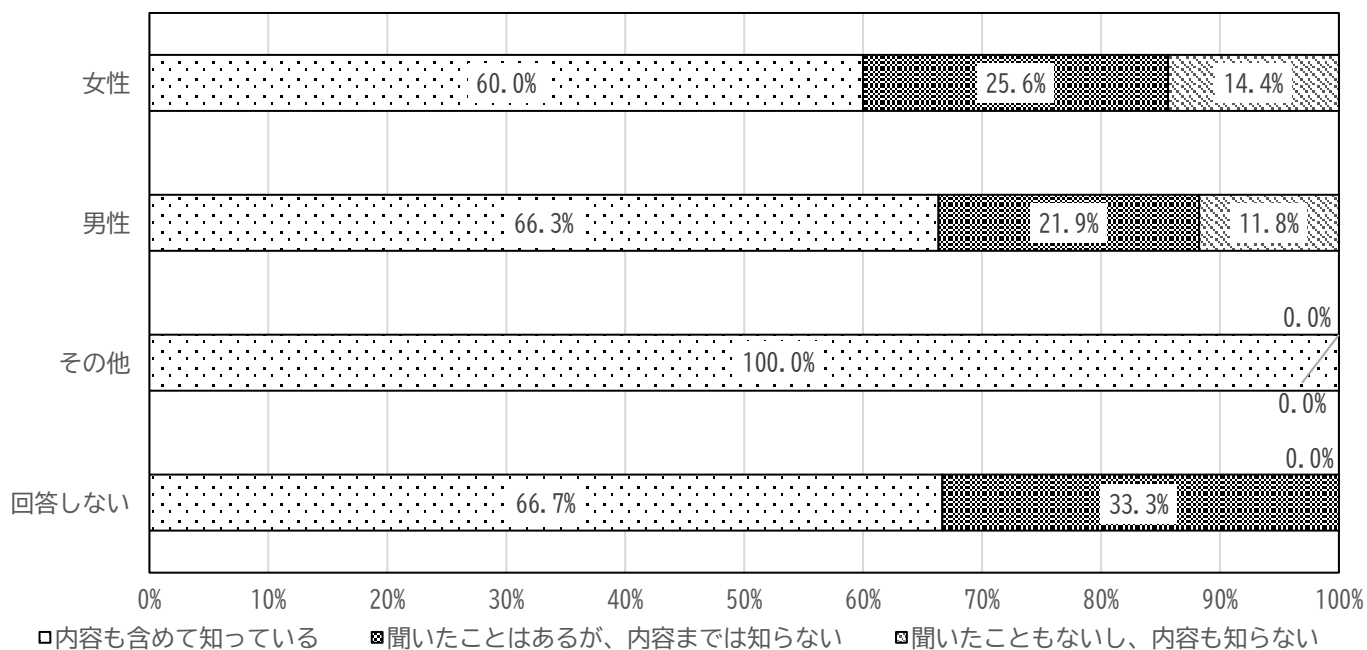


④持続可能な開発目標(SDGs)について

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図. 3-1-1-1④

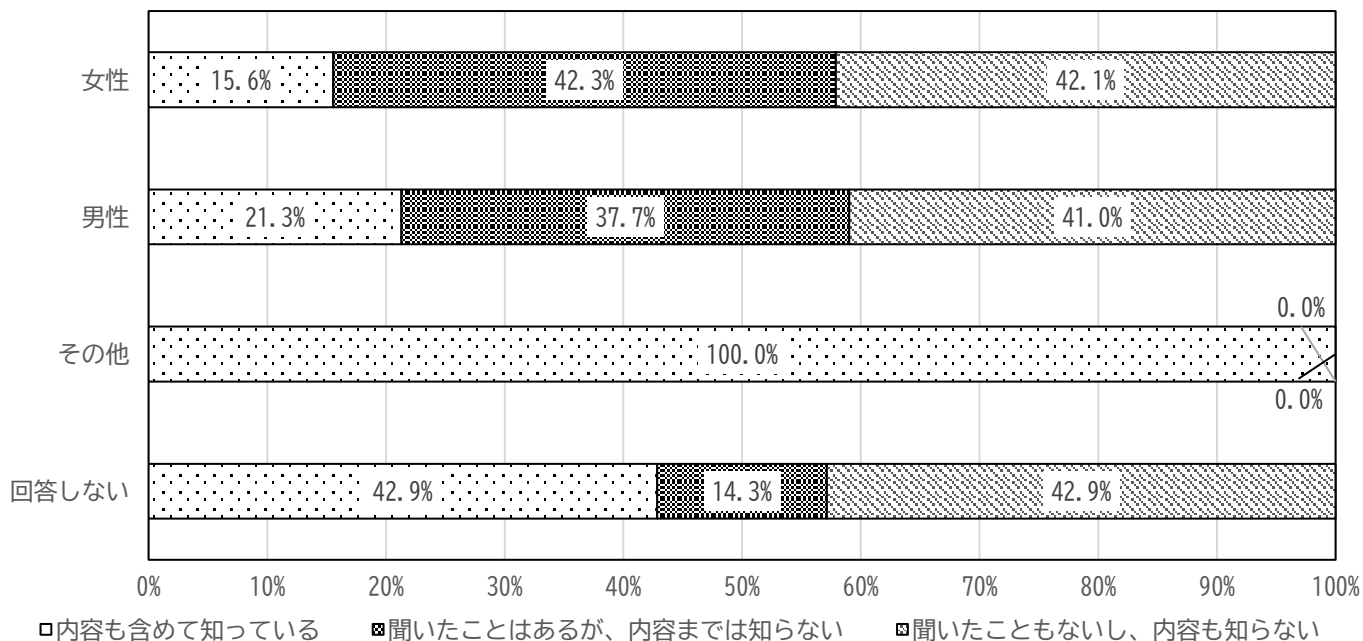


⑤ジェンダー・ギャップ指数について

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図.3-1-1-1⑤

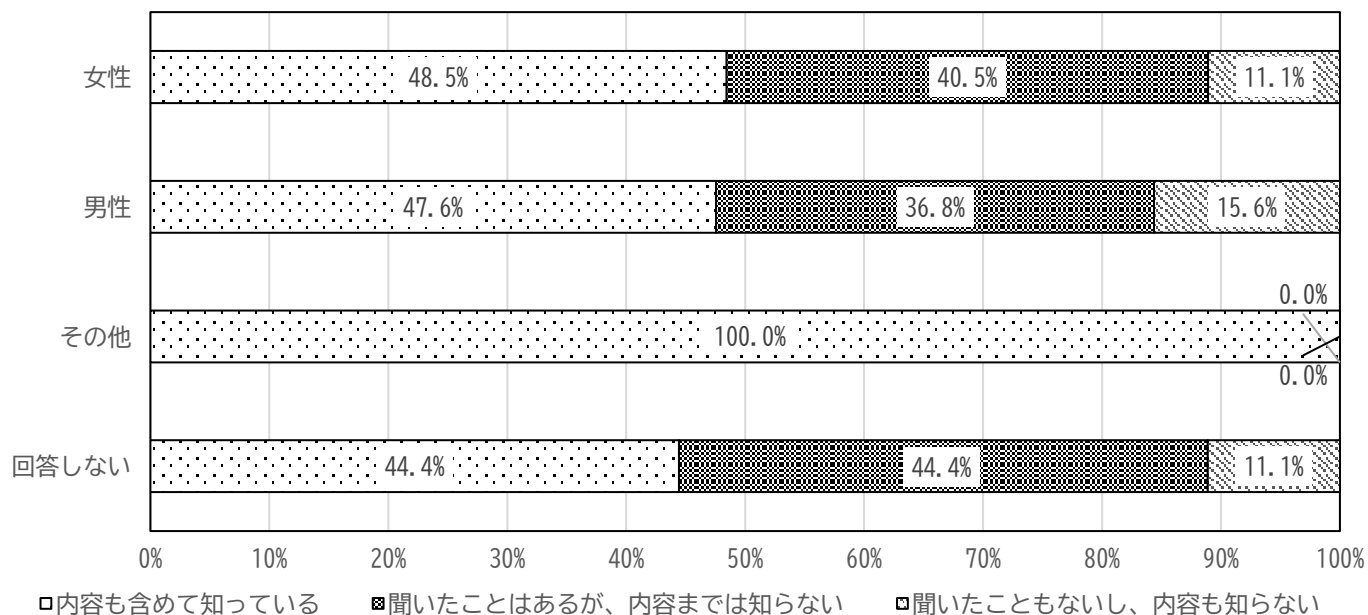


⑥性的マイノリティについて

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図.3-1-1-1⑥

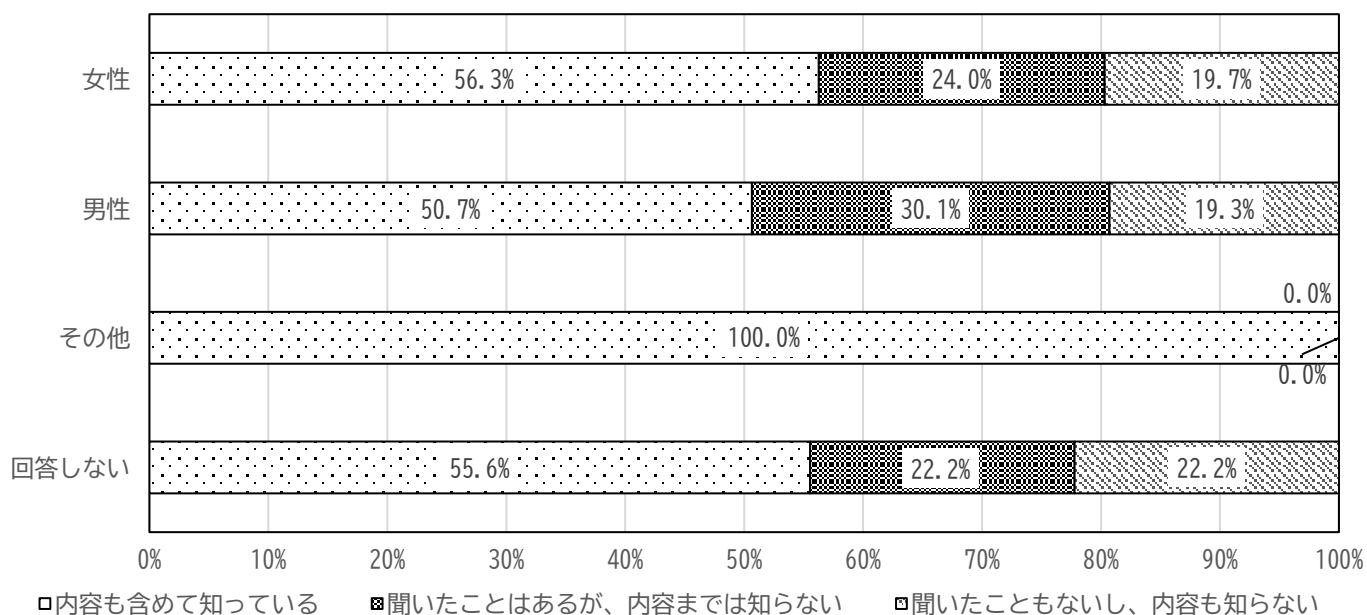


⑦LGBTQ+ (LGBT,LGBTs を含む)について

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図. 3-1-1-1⑦

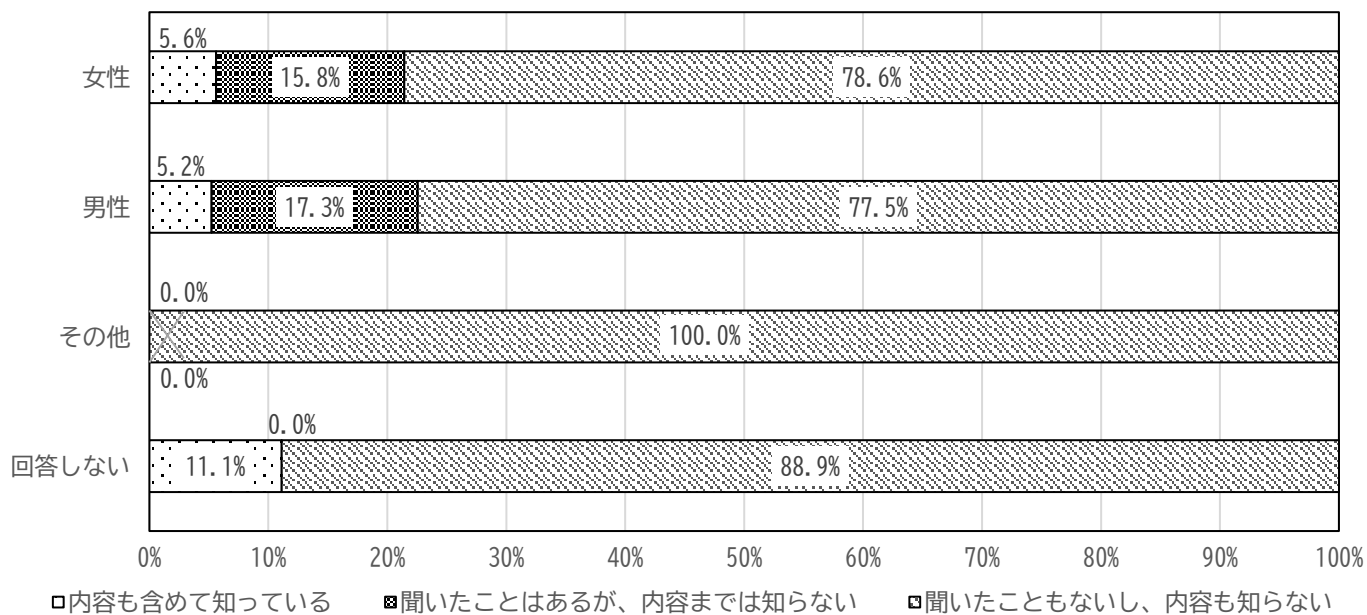


⑧SOGI(ソジ・ソギ)について

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。

F1.性別

図. 3-1-1-1⑧

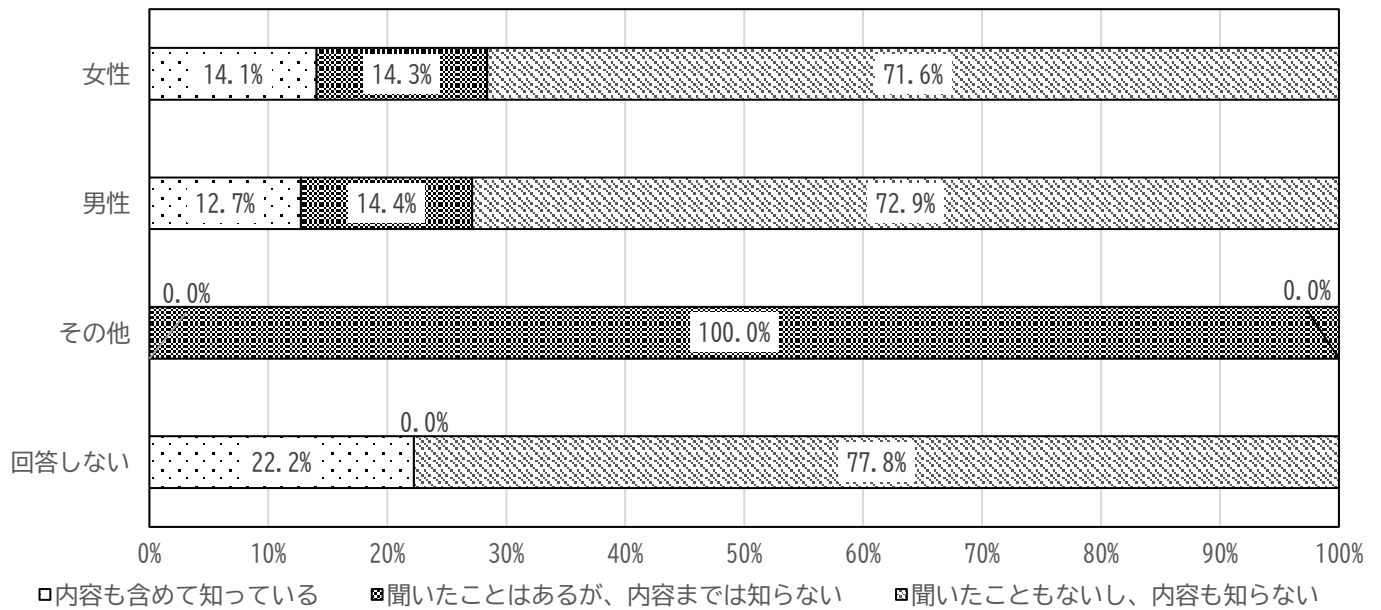


⑨アウトティングについて

男女別でみると、認知度の大きな差は見られない。年齢別では、「内容も含めて知っている」のは、女性では20代と40代が高く、男性は10代が高い。

F1.性別

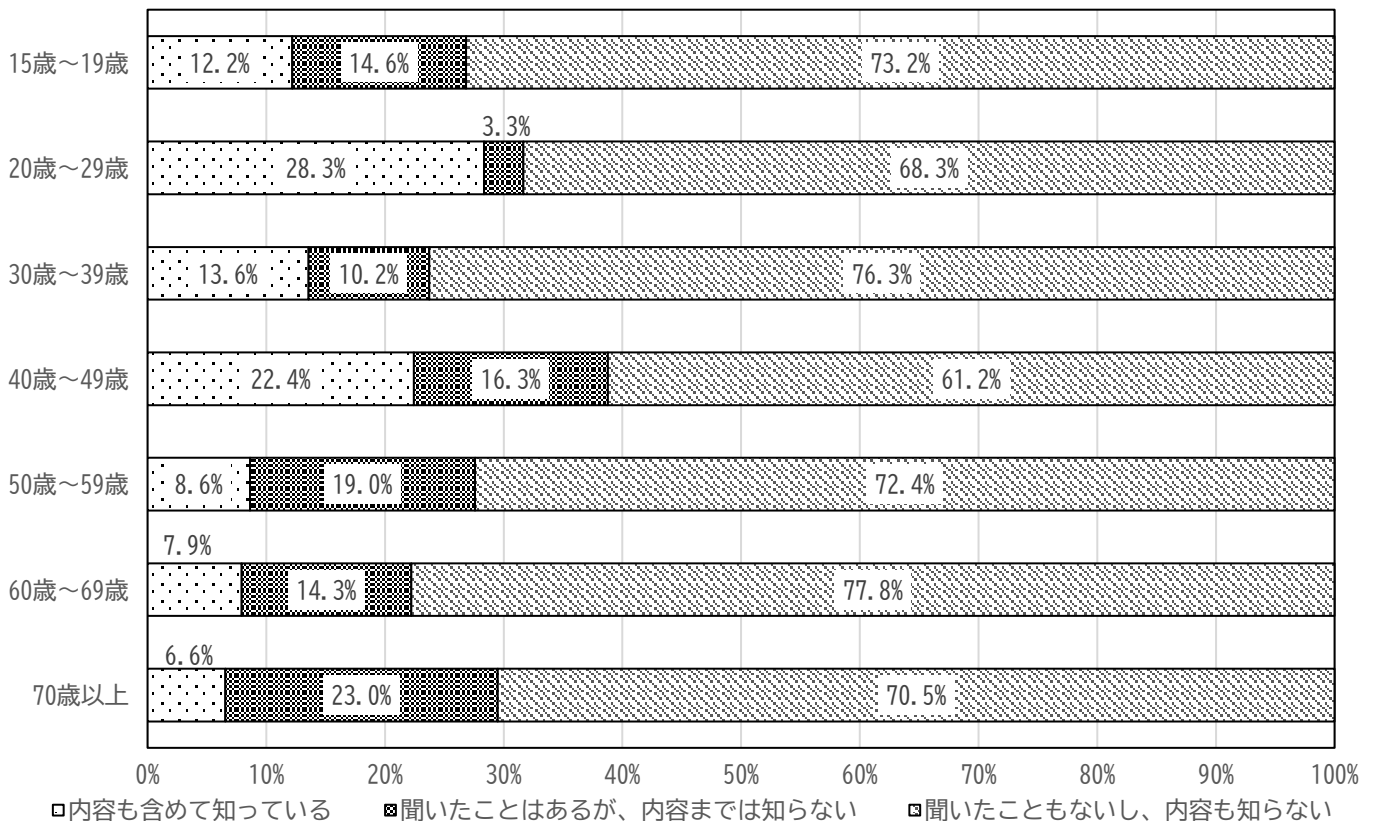
図. 3-1-1-1⑨



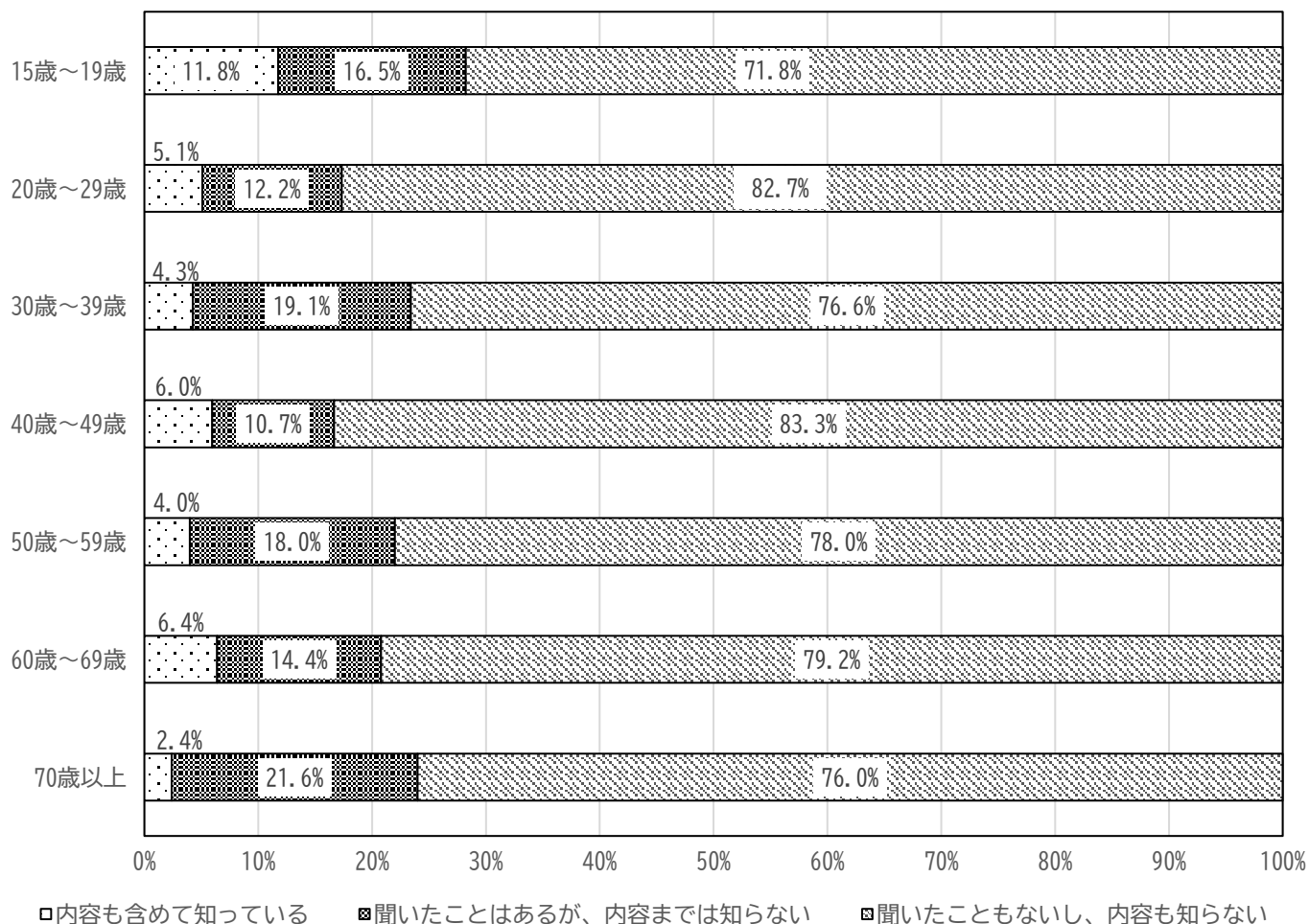
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-1-1-1×2⑨

【女性】



【男性】

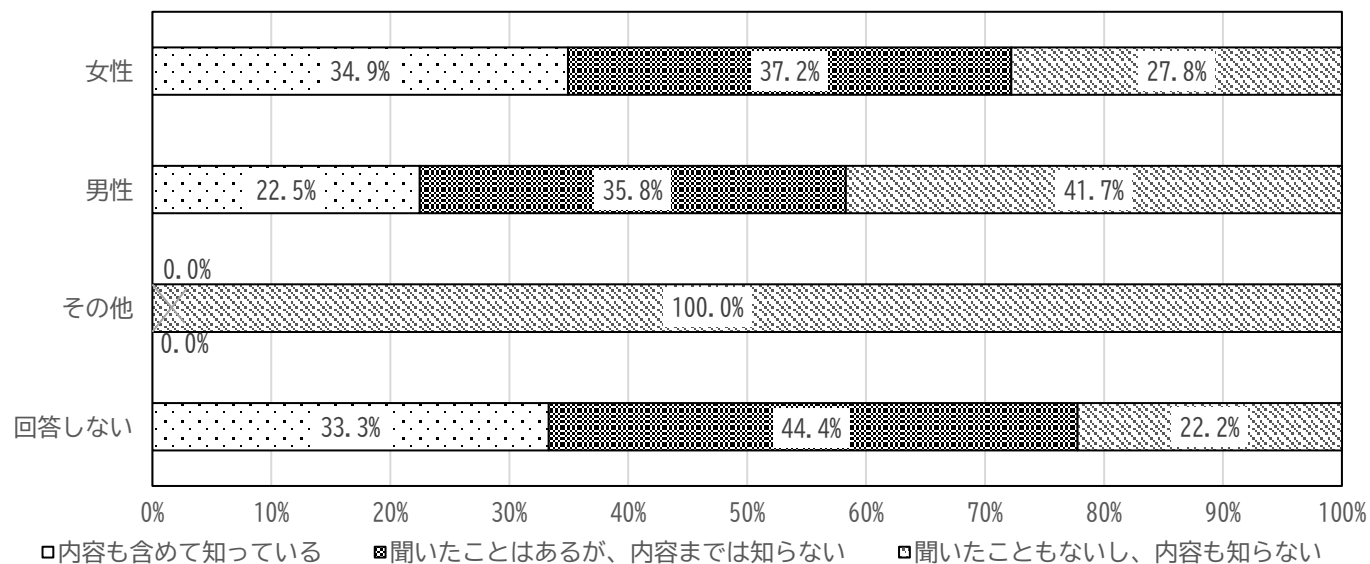


⑩パートナーシップ宣誓証明制度について

男女別でみると、認知度は女性の方が高い。年齢別にみると、女性では30代が高く、男性では40代が高い。

F1.性別

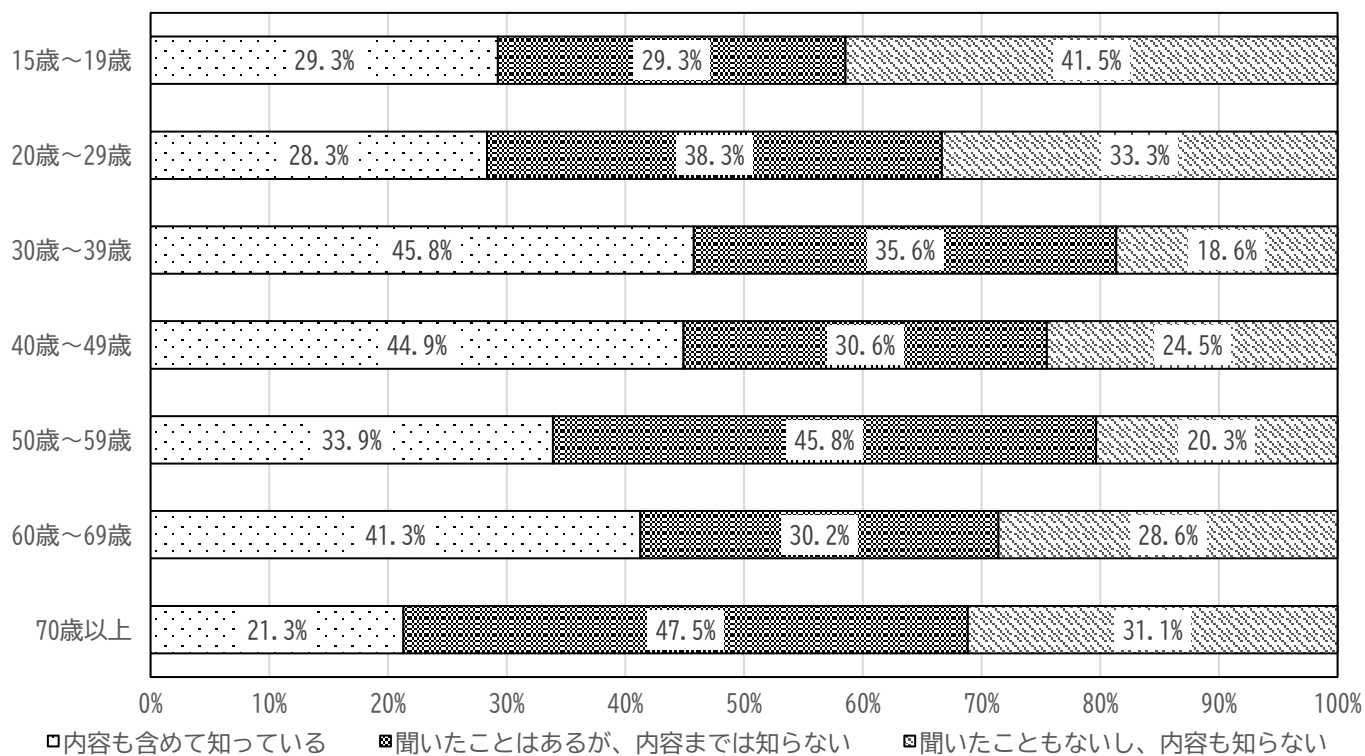
図. 3-1-1-1⑩



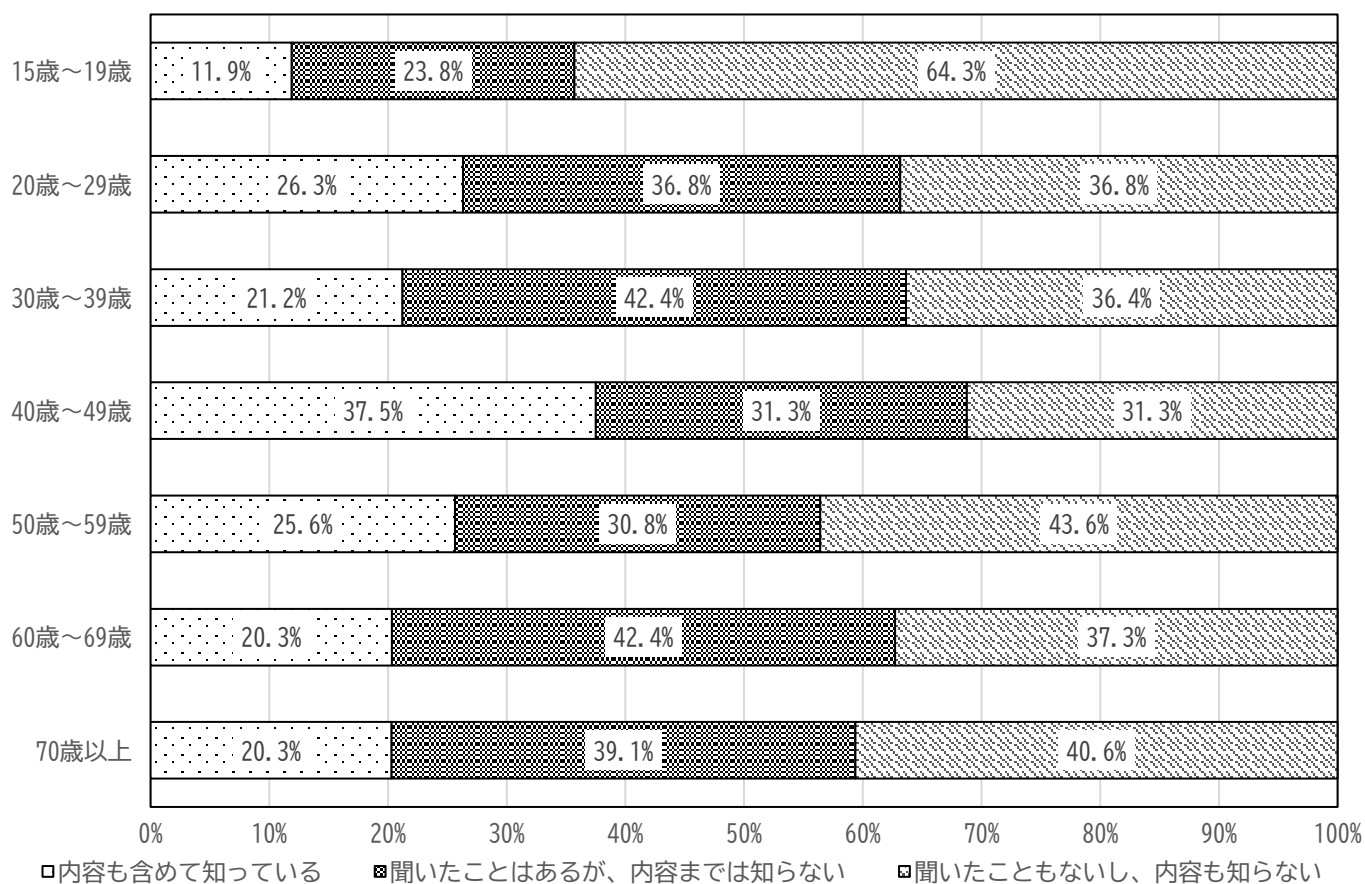
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-1-1-1×2⑩

【女性】



【男性】



■経年比較

男女共同参画					
選択肢	H28	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	54.7%	49.9%	80.5%	39.5%	80.7%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない		30.6%		41.2%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	45.3%	19.5%	19.5%	19.3%	19.3%

ジェンダー				
選択肢	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	63.0%	90.0%	68.8%	96.3%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	27.0%		27.5%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	10.0%	10.0%	19.3%	3.7%

ダイバーシティ				
選択肢	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	29.5%	70.5%	37.3%	79.7%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	41.0%		42.4%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	29.5%	29.5%	20.3%	20.3%

SDGs				
選択肢	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	44.4%	69.7%	62.8%	87.1%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	25.3%		24.3%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	30.4%	30.4%	13.0%	13.0%

ジェンダーギャップ指数				
選択肢	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	13.0%	45.7%	18.4%	58.4%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	32.7%		40.0%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	54.4%	54.4%	41.7%	41.7%

性的マイノリティ					
選択肢	H28	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	65.8%	56.9%	88.3%	48.0%	87.0%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない		31.4%		39.0%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	34.2%	11.8%	11.8%	13.0%	13.0%

LGBT, LGBTQ, LGBTQ+				
選択肢	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	62.2%	85.2%	53.8%	80.6%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	23.0%		26.8%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	14.8%	14.8%	19.4%	19.4%

SOGI				
選択肢	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	7.2%	29.9%	5.5%	21.8%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	22.7%		16.3%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	70.1%	70.1%	78.2%	78.2%

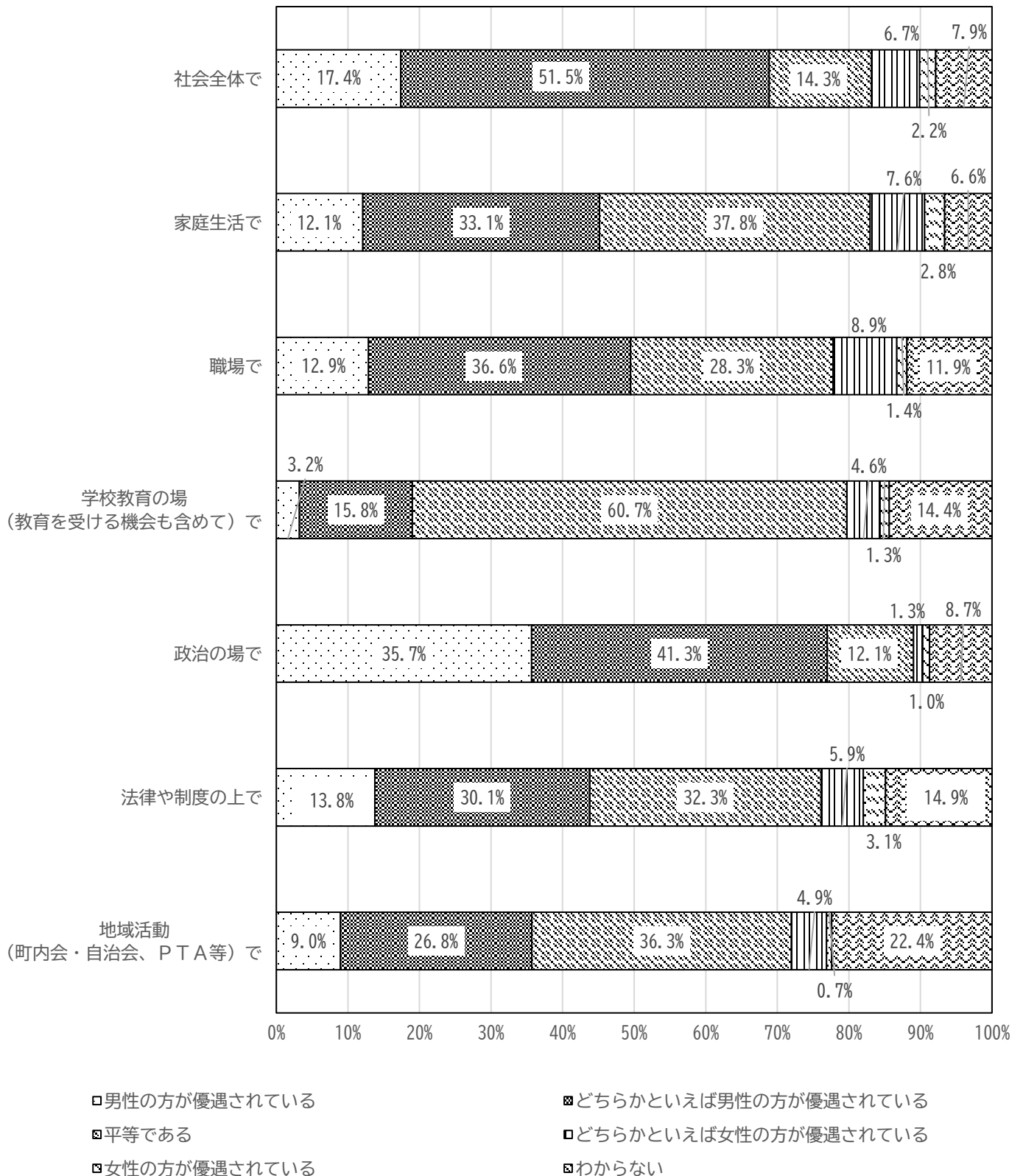
パートナーシップ宣誓証明制度				
選択肢	R3		R7	
言葉の意味（内容）も含めて知っている	38.1%	79.0%	29.5%	66.3%
聞いたことはあるが意味（内容）までは知らない	40.9%		36.8%	
聞いたこともないし意味（内容）も知らない	20.9%	20.9%	33.7%	33.7%

3-2 男女共同参画（社会）に関する考え方について

問2 あなたは、次の①～⑦の各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

「平等」は「学校教育の場」の割合が最も高く、「男性の方が優遇」は「政治の場」が最も割合が高い。「女性の方が優遇」は全ての項目で低い。

図 3-2-2



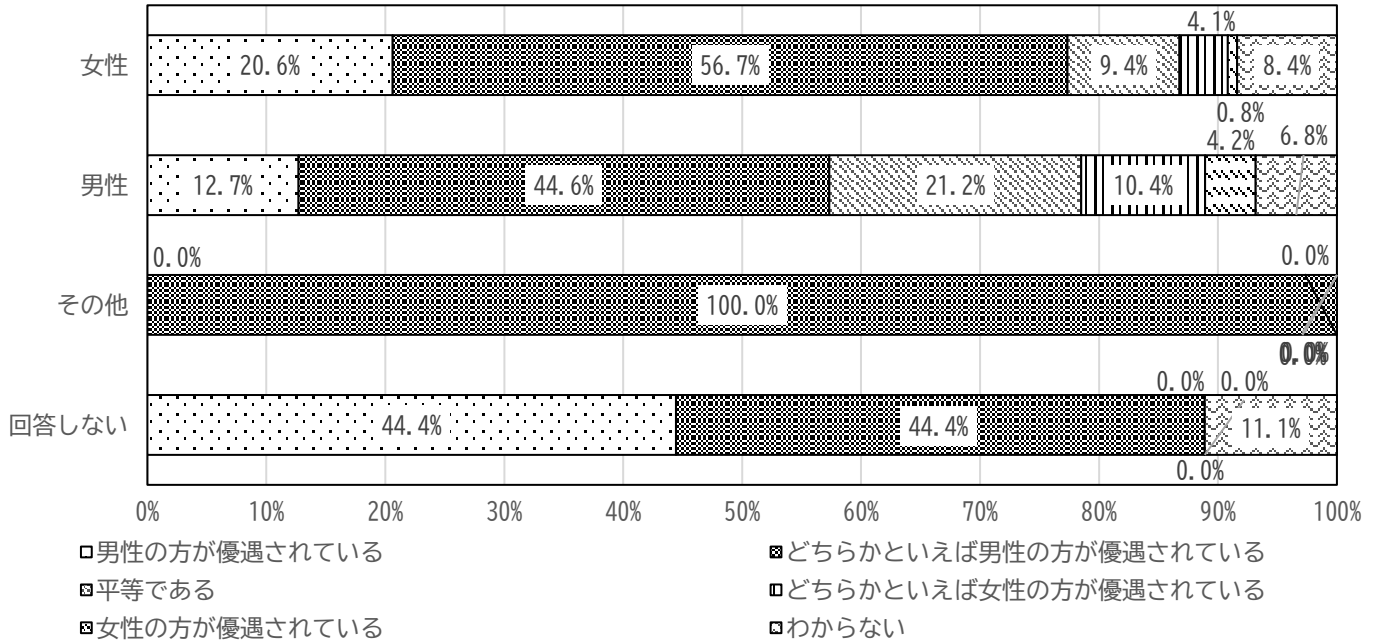
■属性別の特徴

①社会全体で

男女別、年齢別でみると、各層とも「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、年代が高いほど「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多い。男女を比較すると「男性優遇」と回答した割合は女性の方が高い。

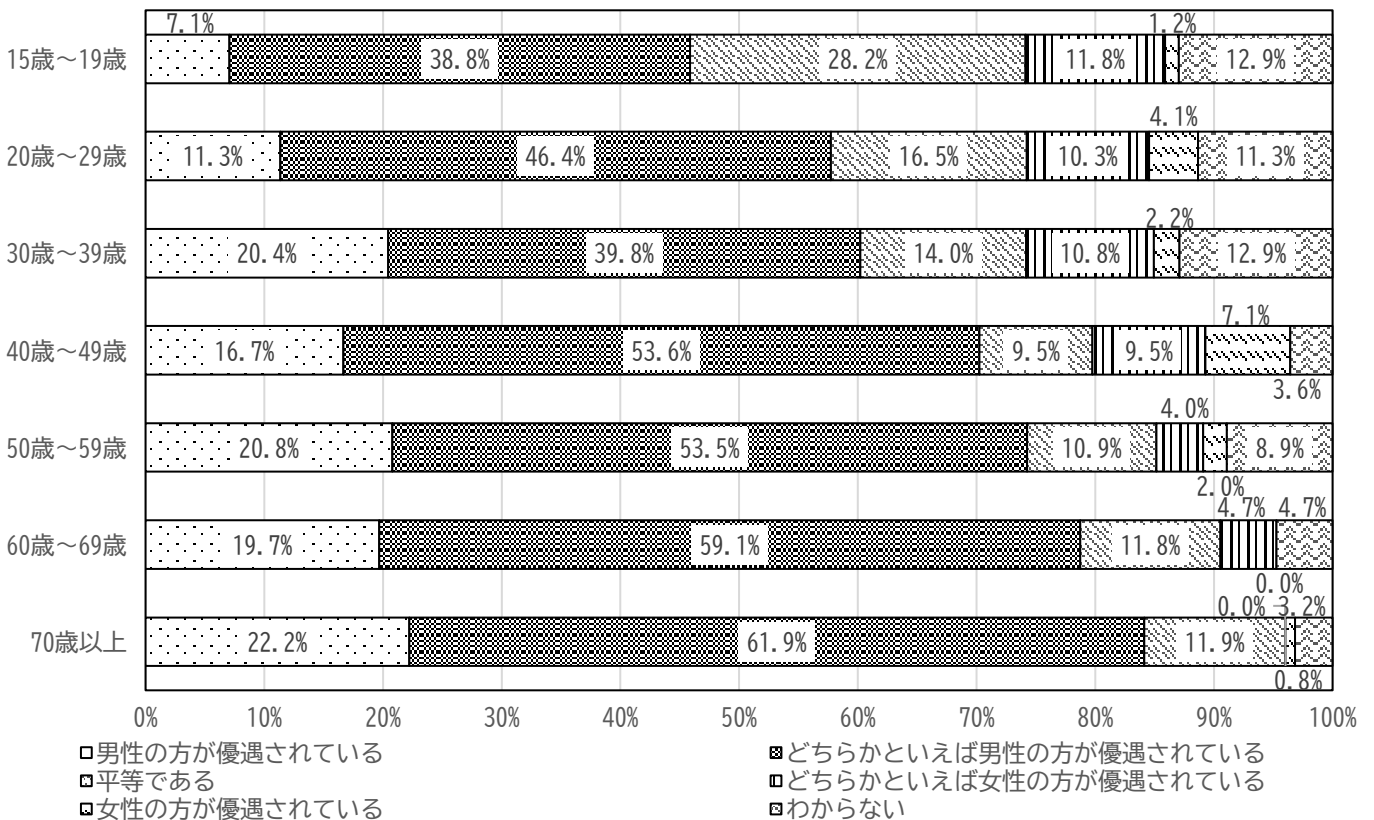
F1.性別

図. 3-2-2-1①



F2.年齢別

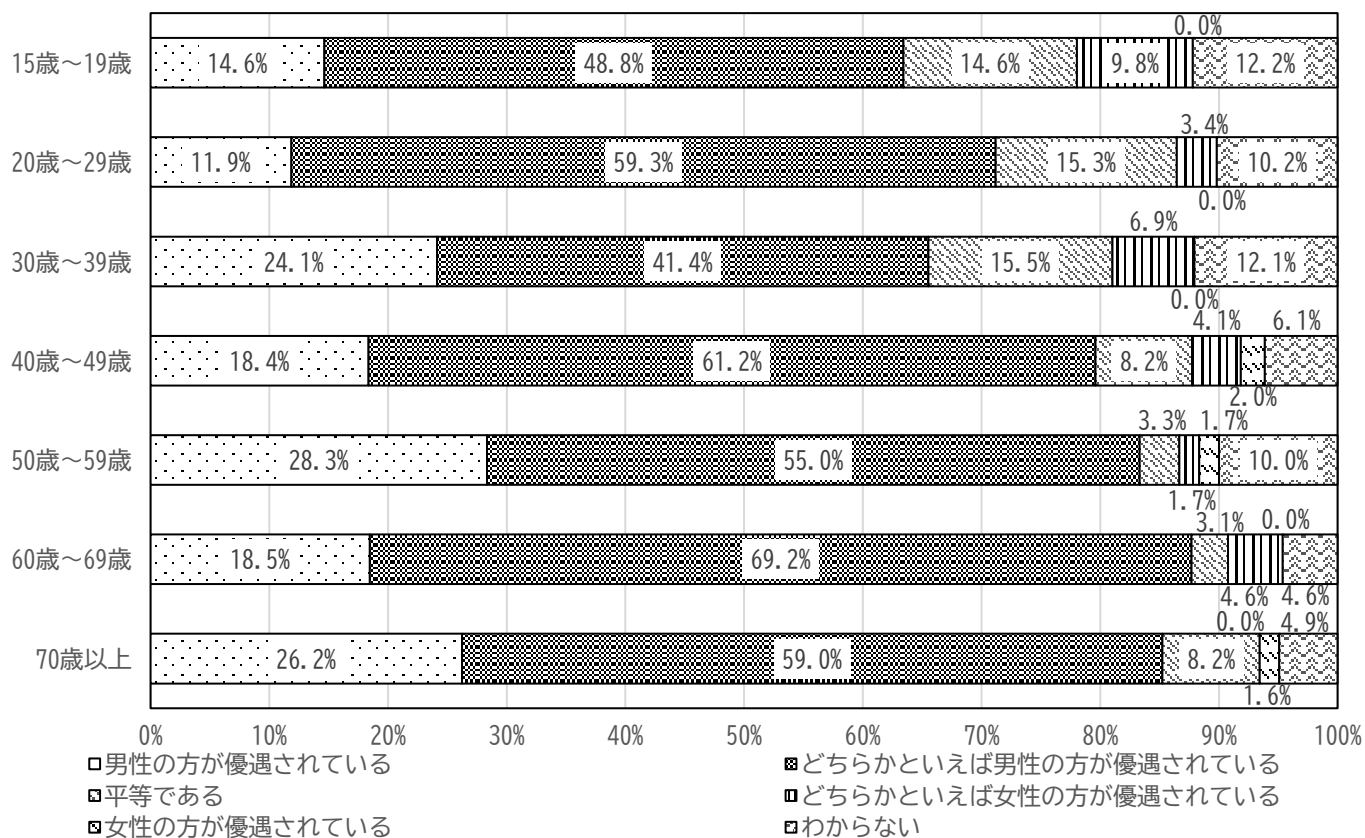
図. 3-2-2-2①



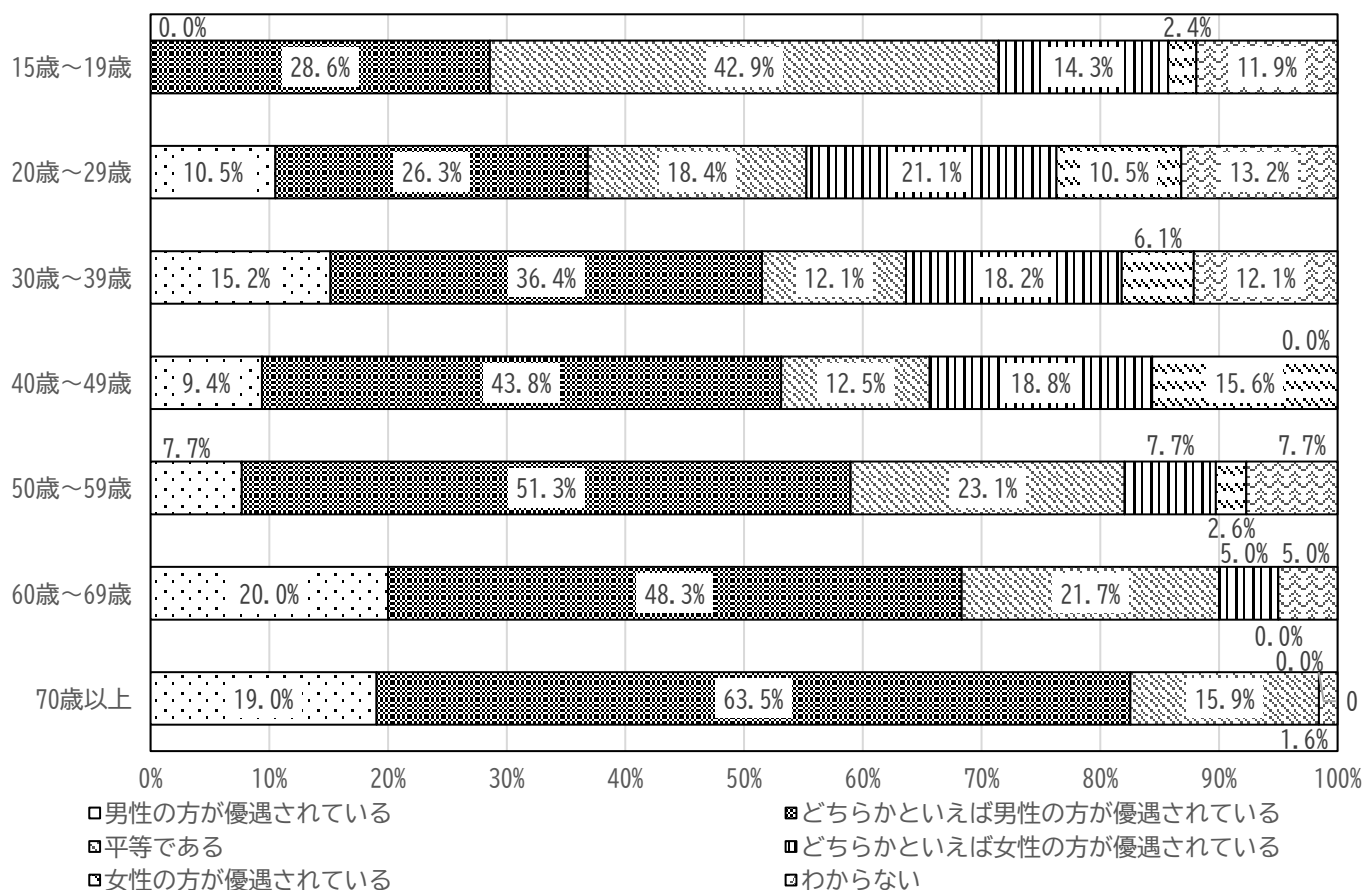
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-2-2-1×2①

【女性】



【男性】



■「社会全体で」の経年比較(参考)

【令和3年度 横須賀市男女共同参画と多様な性についてのアンケート調査】

問2：わが国では、以下の各場面で、男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画が進んでいると思いますか。

①社会全般の風潮

選択肢	割合	
そう思う	6.1%	36.1%
どちらかといえばそう思う	30.0%	
どちらかといえばそう思わない	45.3%	63.9%
そう思わない	18.6%	

【参考】令和6年度実施 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

(2) 社会全体における男女の地位の平等感

問2 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

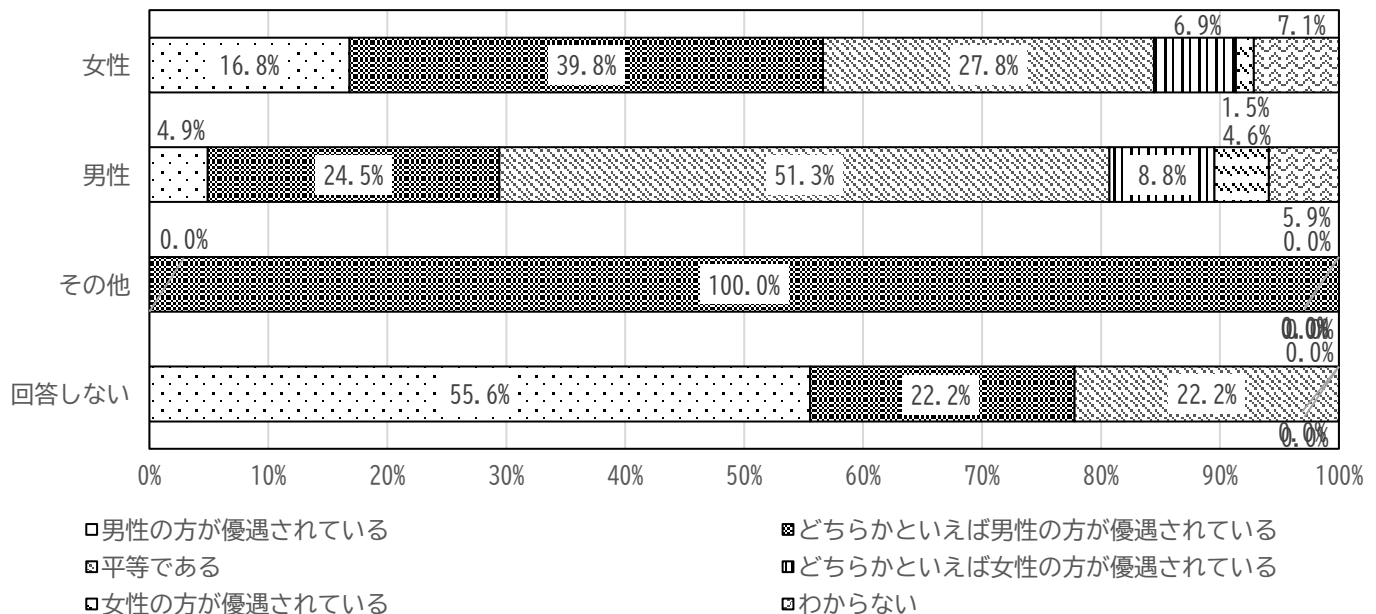
	令和4年11月		令和6年9月
<u>男性の方が優遇されている</u> (小計)	78.8%	→	74.7% ↓
・男性の方が非常に優遇されている	14.0%	→	11.9% ↓
・どちらかといえば男性の方が優遇されている	64.7%	→	62.8%
<u>平等</u>	14.7%	→	16.7% ↑
<u>女性の方が優遇されている</u> (小計)	4.8%	→	6.8% ↑
・どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.2%	→	6.1% ↑
・女性の方が非常に優遇されている	0.6%	→	0.7%

②家庭生活で

男女別で見ると、女性の方が「男性優遇」が高く、大きな差が見られる。

F1.性別

図. 3-2-2-1②

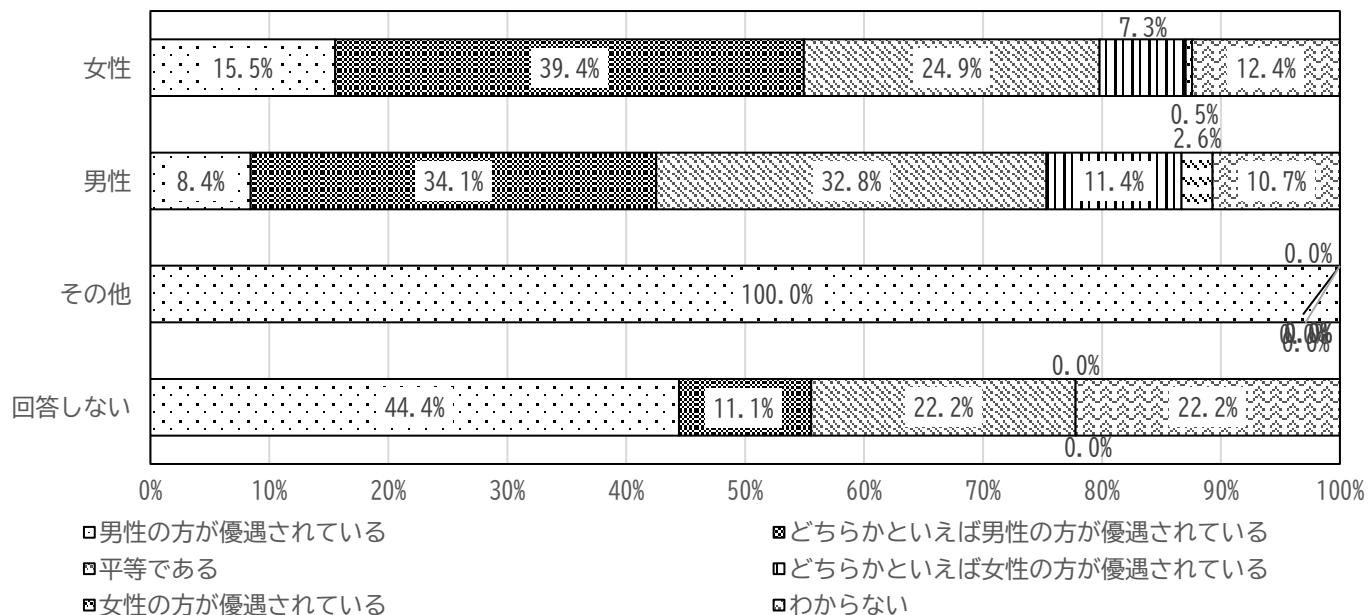


③職場で

男女別でみると、女性の方が「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、大きな差が見られる。

F1.性別

図. 3-2-2-1③

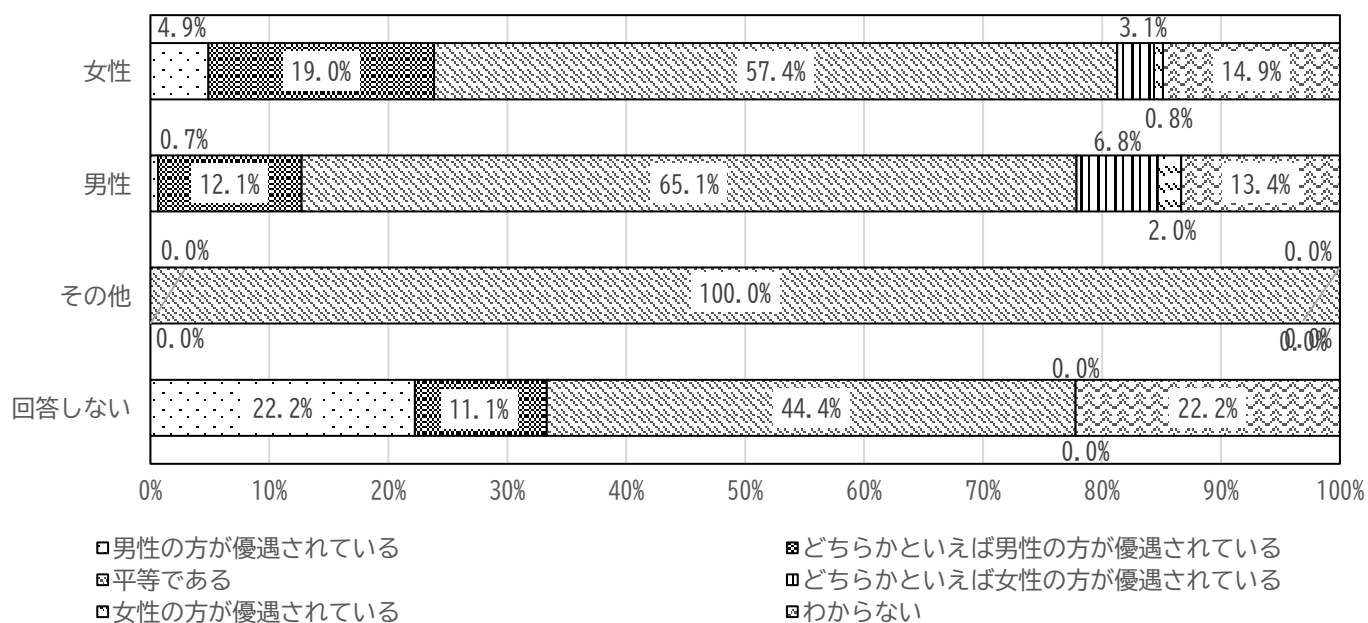


④学校教育の場で

男女別でみると、男女とも「平等」の割合が最も高い。

F1.性別

図. 3-2-2-1④

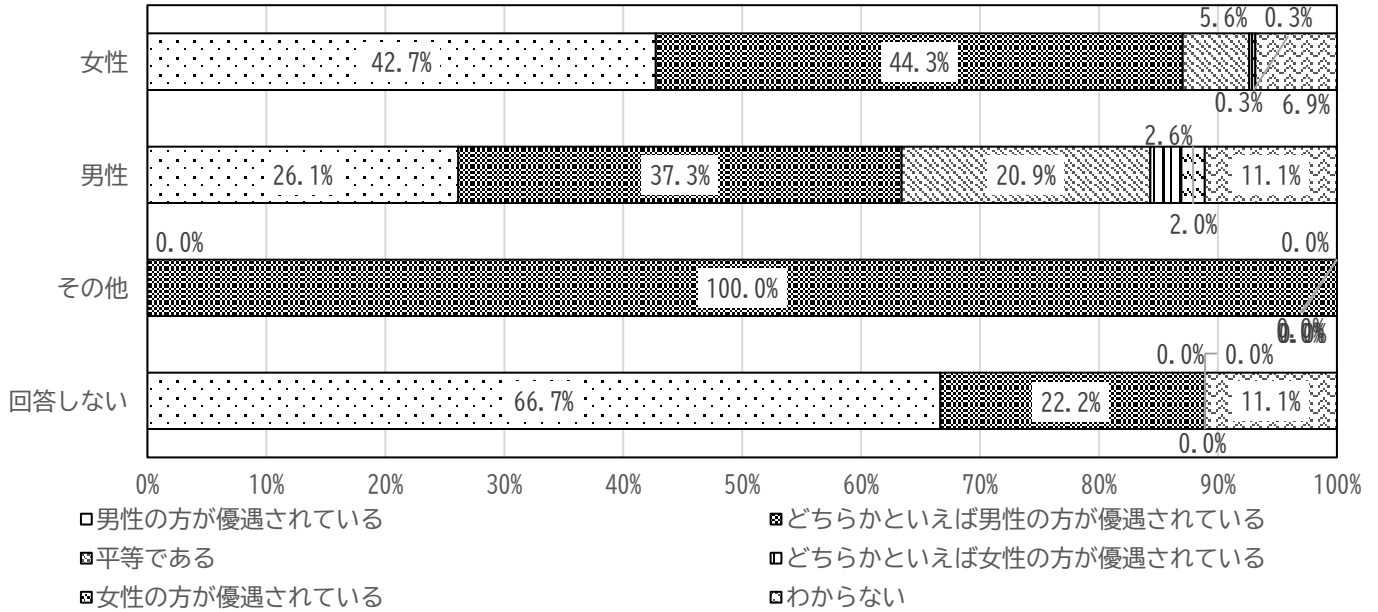


⑤政治の場で

男女別でみると、女性の方が「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、大きな差が見られる。

F1.性別

図.3-2-2-1⑤

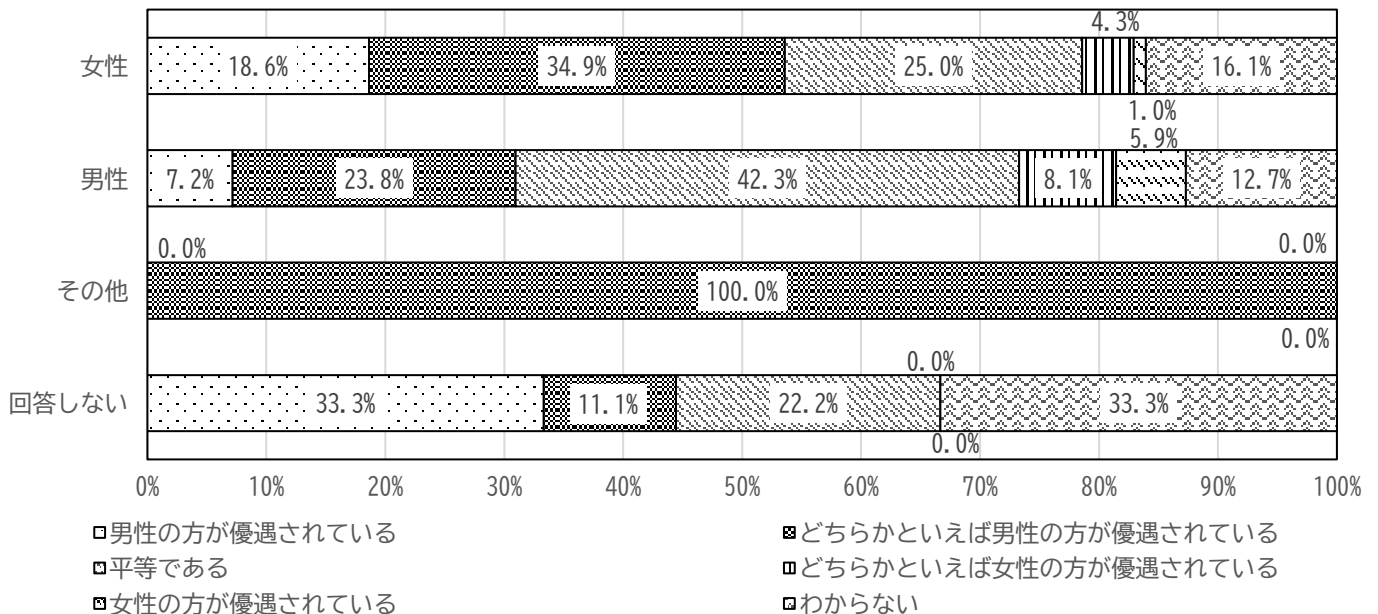


⑥法律や制度の上で

男女別でみると、女性の方が「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、大きな差が見られる。

F1.性別

図.3-2-2-1⑥

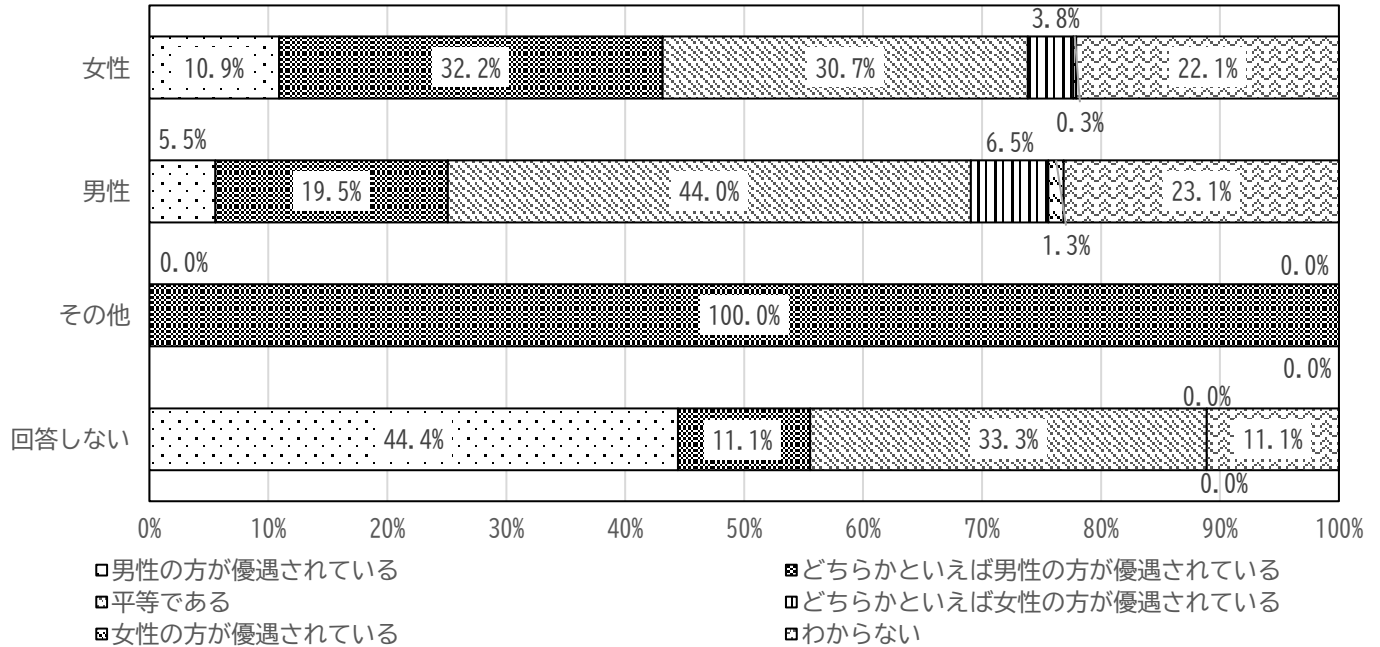


⑦地域活動で

男女別でみると、女性の方が「男性優遇～どちらかといえば男性優遇」が多く、大きな差が見られる。

F1.性別

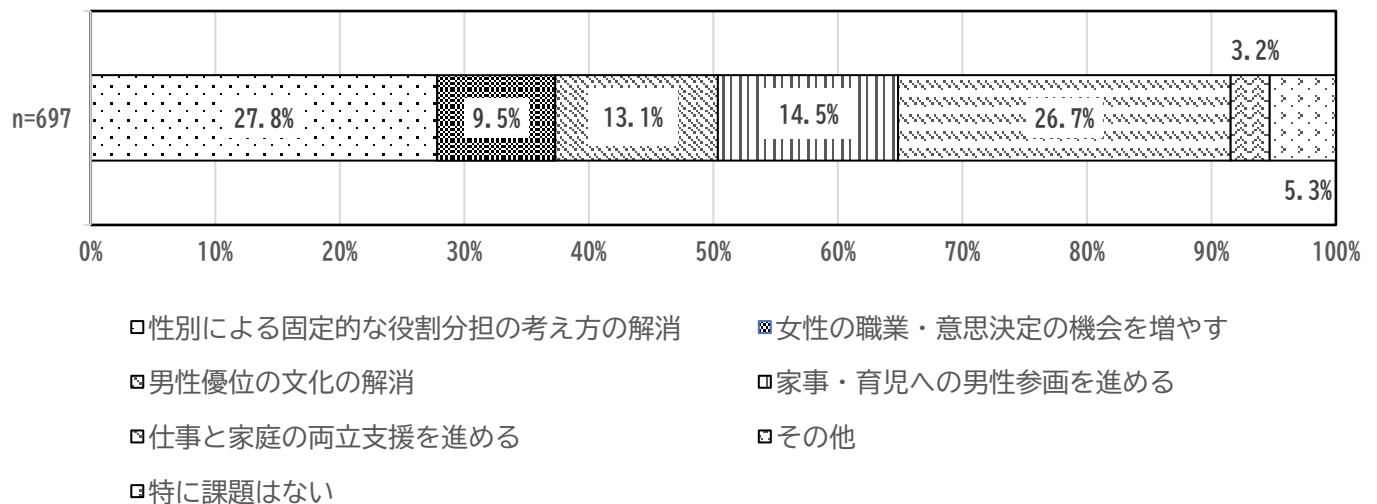
図. 3-2-2-1⑦



問3 男女共同参画社会の実現に向けて、あなたが考える1番の課題は何ですか。

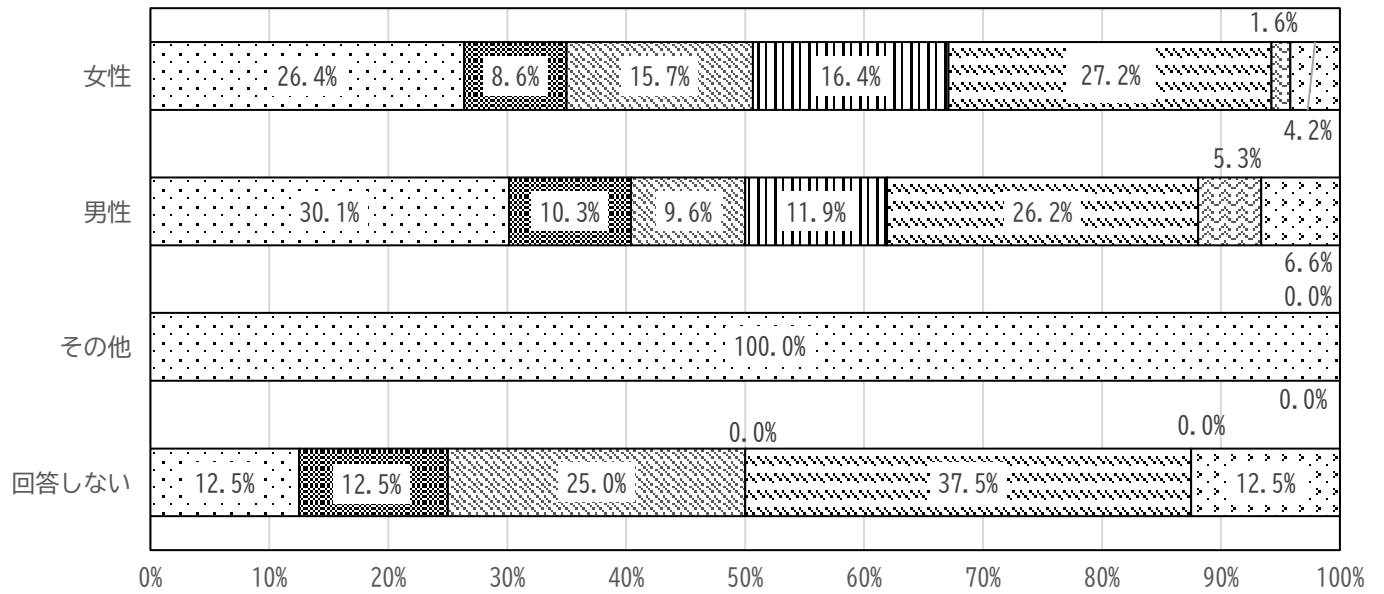
「性別による固定的な役割分担の考え方の解消」の割合が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立支援を進める」が高い。男女別でみると、女性は「仕事と家庭の両立支援を進める」が最も高く、男性は「性別による固定的な役割分担の考え方の解消平等」が最も高い。

図 3-2-3



F1.性別

図. 3-2-3-1



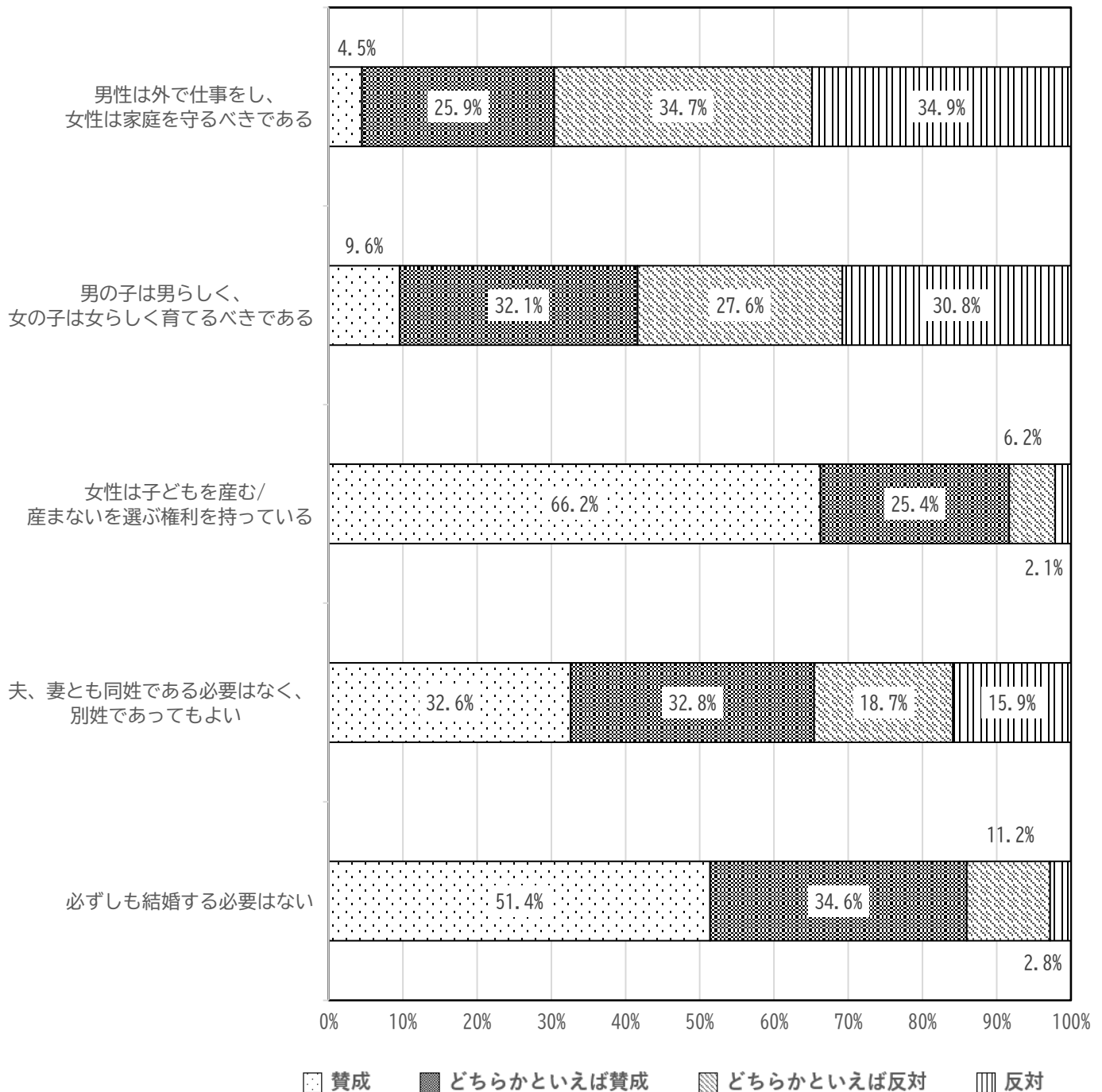
- 性別による固定的な役割分担の考え方の解消
- ▣女性優位の文化の解消
- 仕事と家庭の両立支援を進める
- 特に課題はない
- 女性の職業・意思決定の機会を増やす
- 家事・育児への男性参画を進める
- ▣その他

3-3 生活の中での男女共同参画について

問4 あなたは、次の①～⑤の意見について、どのように思いますか。

「男性は外で仕事、女性は家庭を守る」「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は「反対」の割合が高く、「女性は子どもを産む、産まないを選ぶ権利を持っている」「同姓である必要はなく、別姓であってもよい」「必ずしも結婚する必要はない」は「賛成」の割合が高い。

図 3-3-4

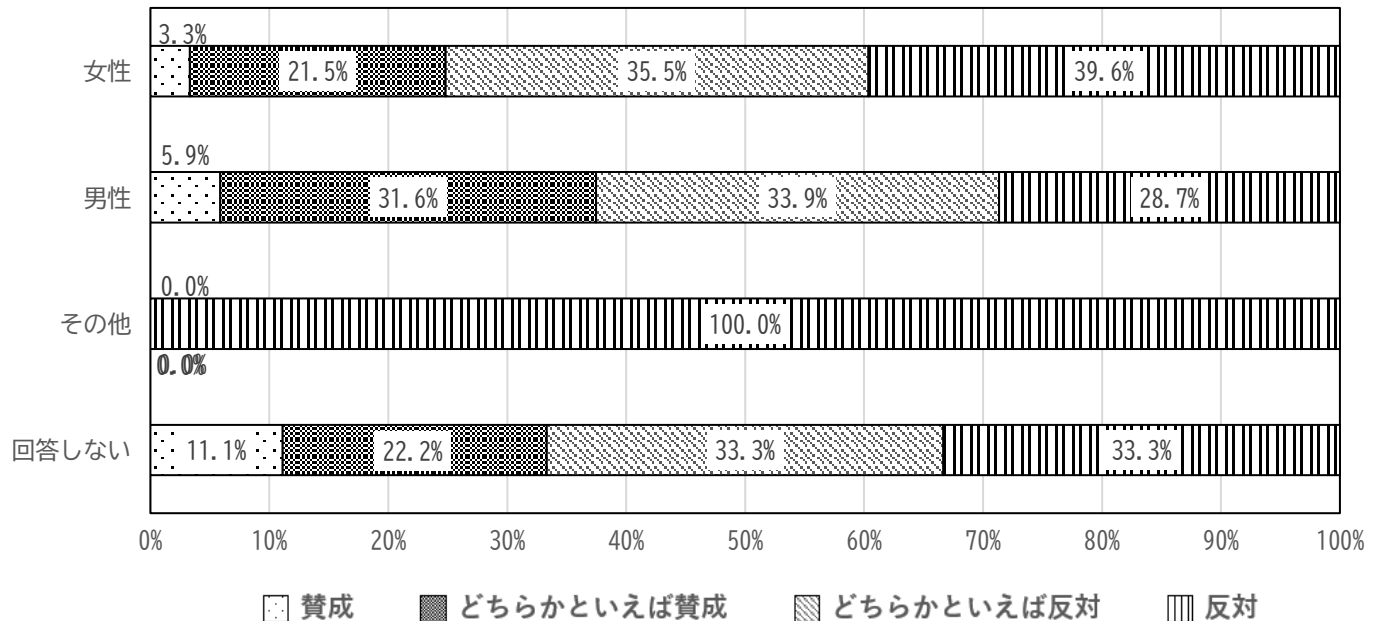


■属性別の特徴

①「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである」について男女別でみると、女性の方が「反対」が多く、大きな差が見られる。年齢別でみると10代の「反対」が最も多い。

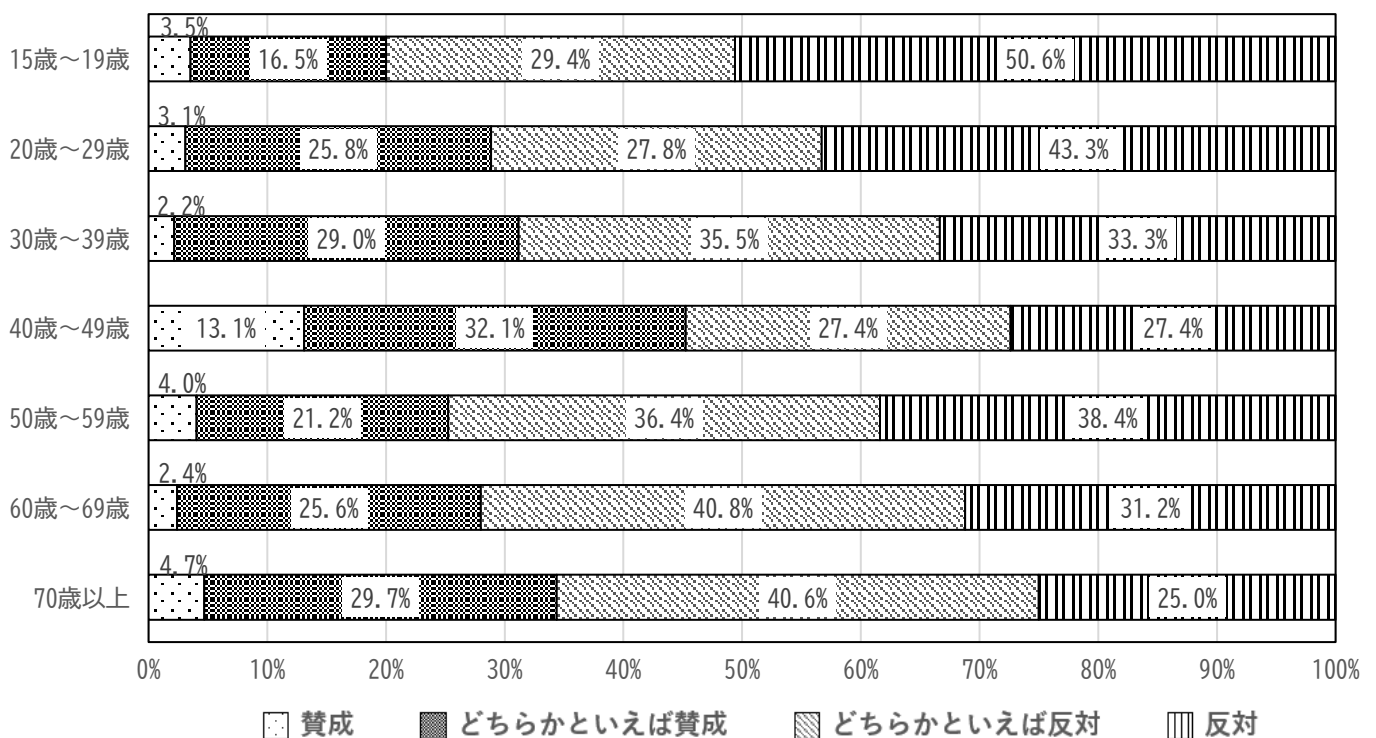
F1.性別

図. 3-3-4-1①



F2.年齢別

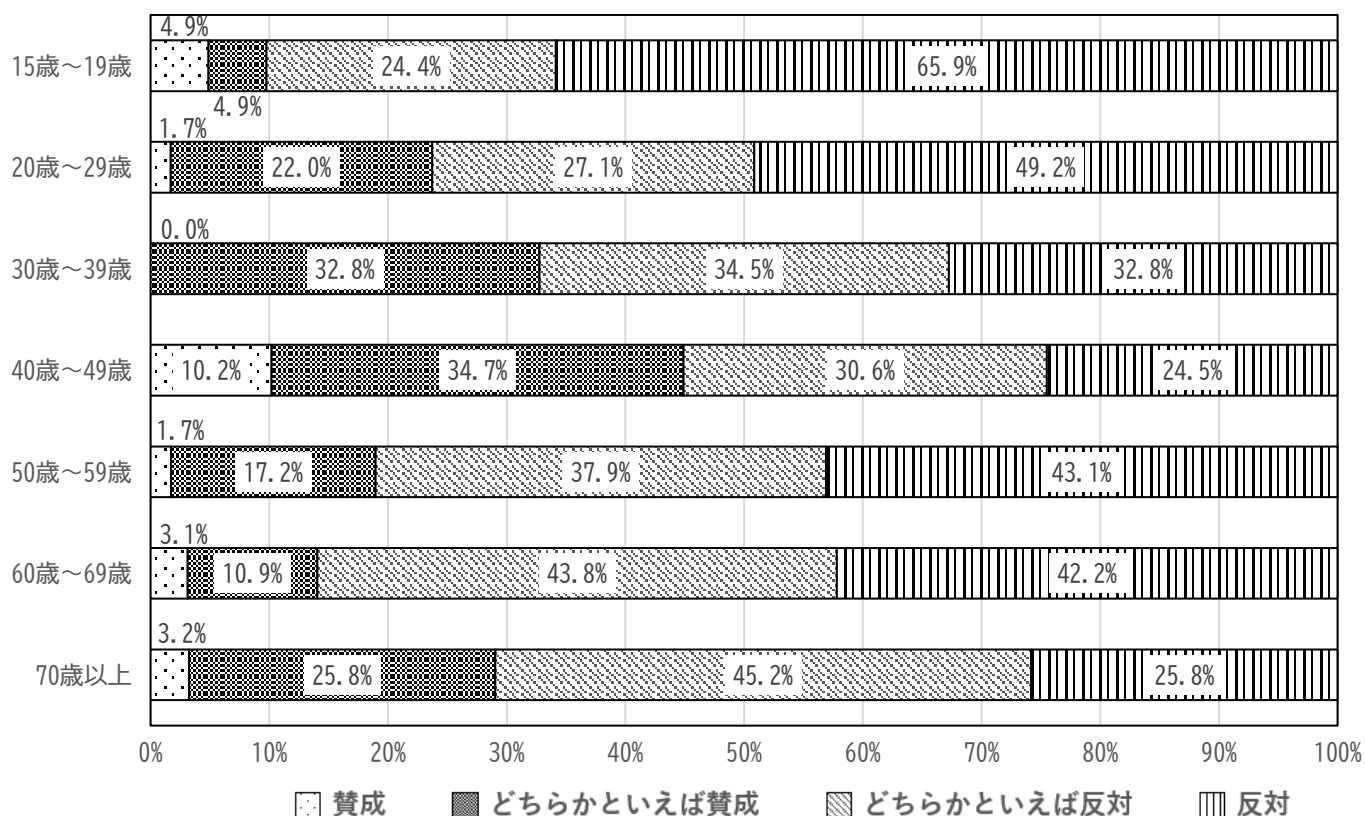
図. 3-3-4-2①



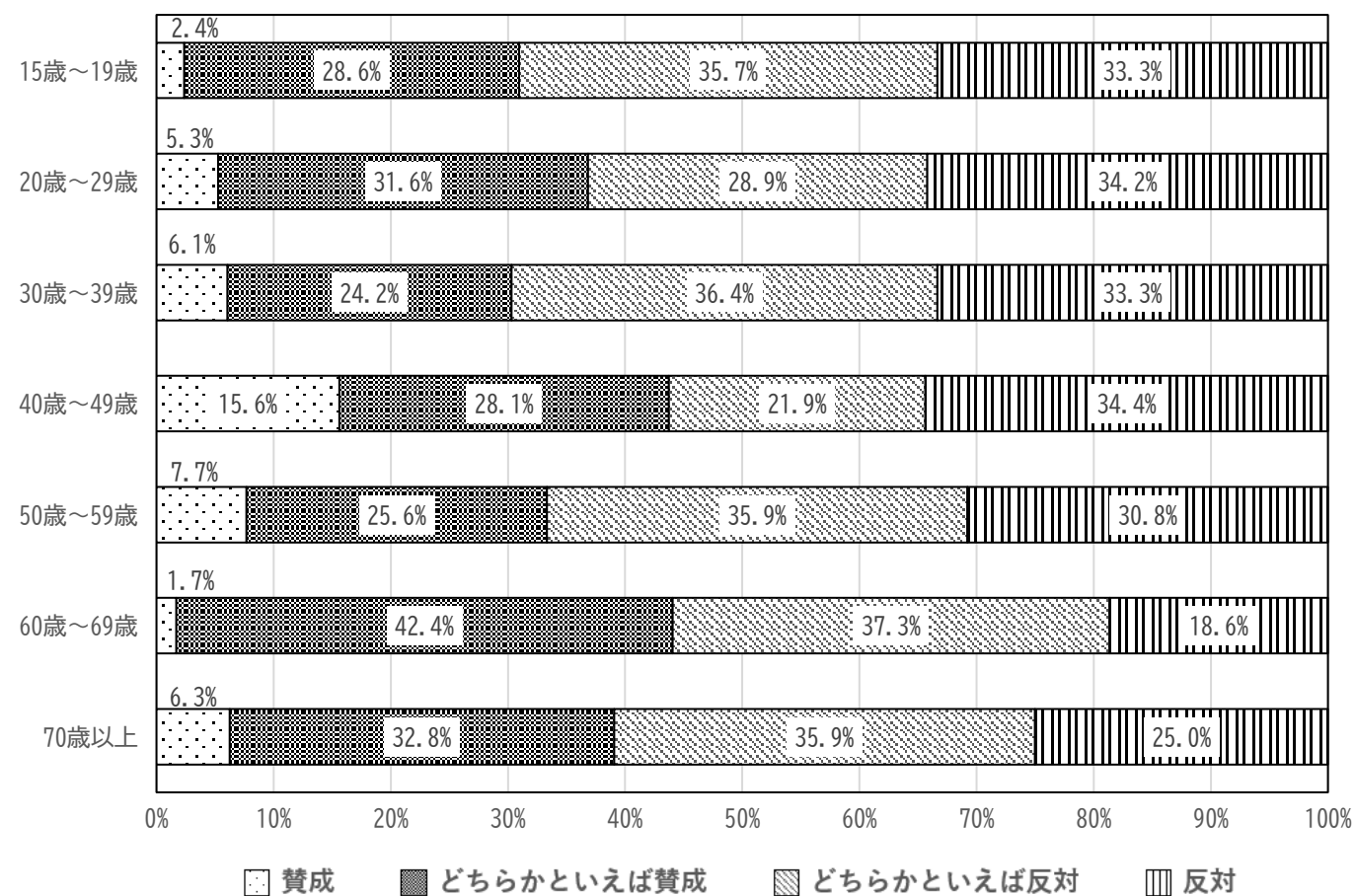
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-3-4-1×2①

【女性】



【男性】



■経年比較（参考。今回と選択肢が異なる。）

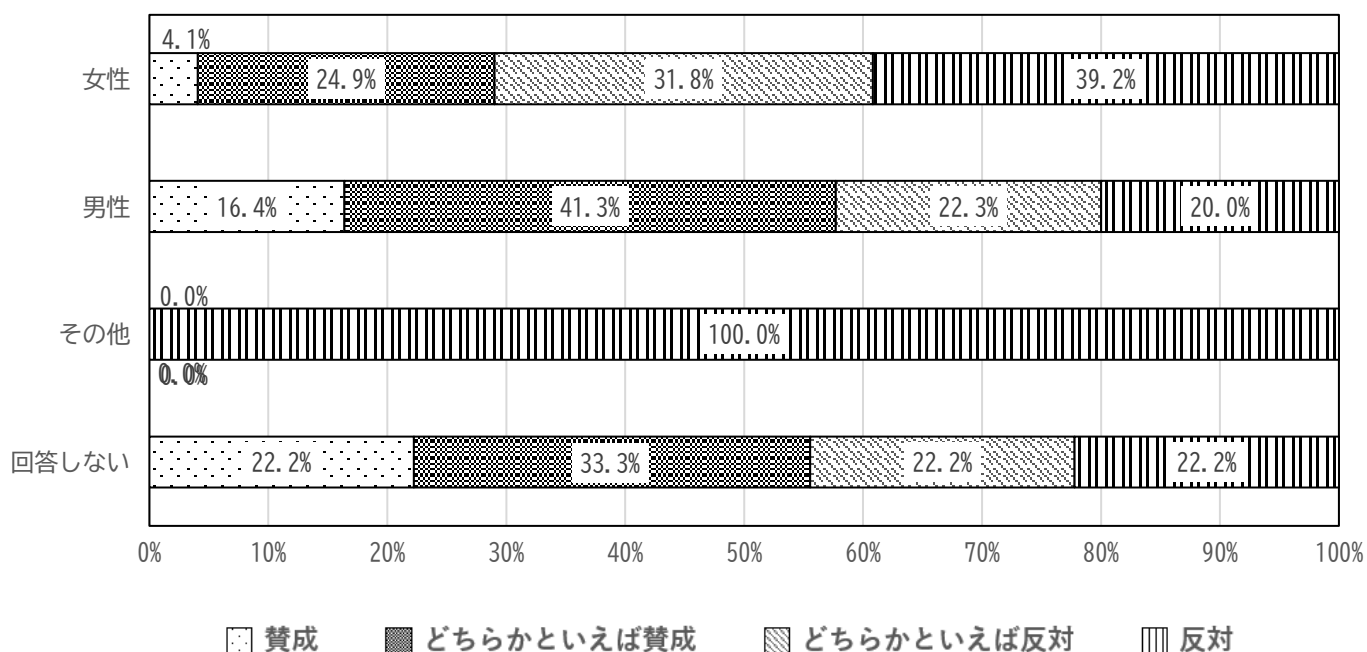
男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである			
選択肢	H28	R3	
そう思う	34.2%	2.1%	17.9%
どちらかといえばそう思う		15.8%	
どちらかといえばそう思わない	65.8%	30.3%	82.1%
そう思わない		51.8%	

②「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである」について

男女別でみると、女性の方が「反対」が多く、大きな差が見られる。子どもの有無でみると、子どもがいる人の方が「反対」が多い。

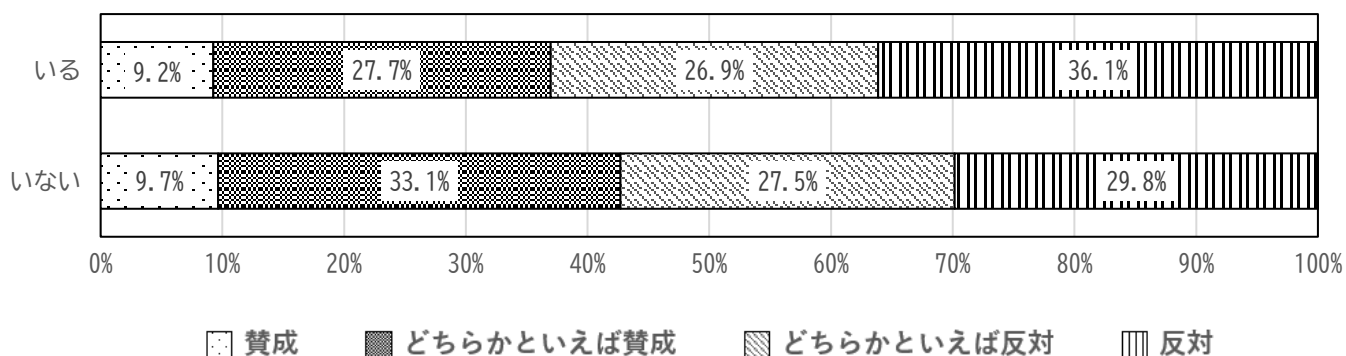
F1.性別

図. 3-3-4-1②



F5.中学生以下の子の有無別

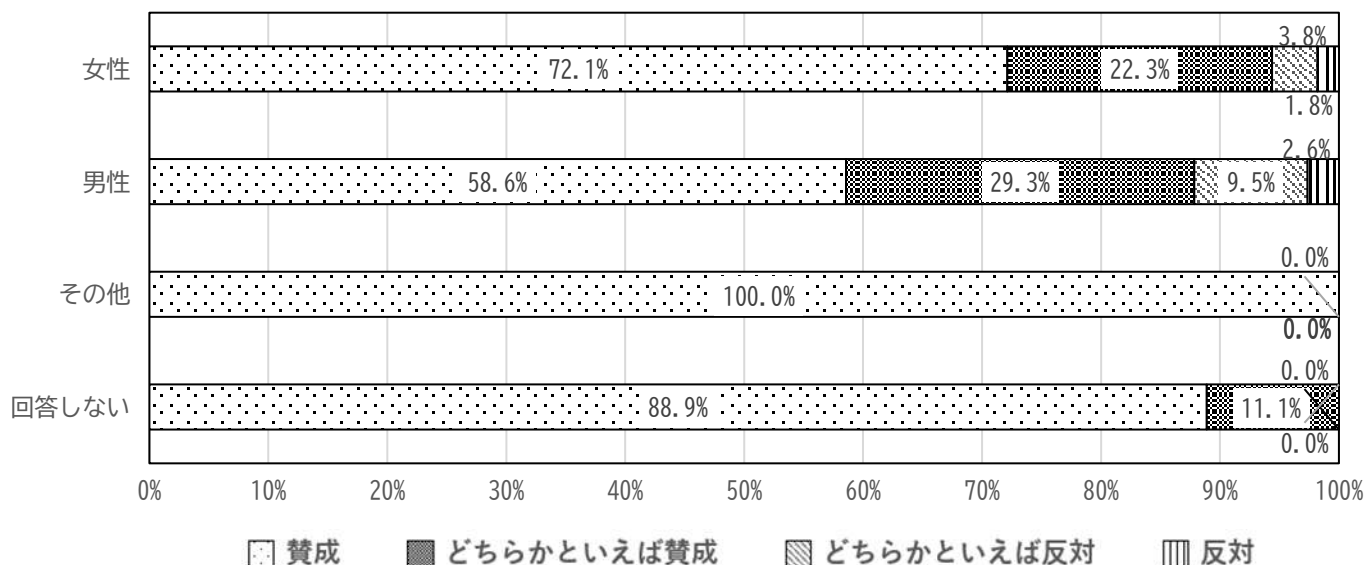
図. 3-3-4-5 ②



③「女性は子どもを産む/産まないを選ぶ権利を持っている」について
男女別でみると、女性の方が「賛成」が多い。

F1.性別

図. 3-3-4-1③

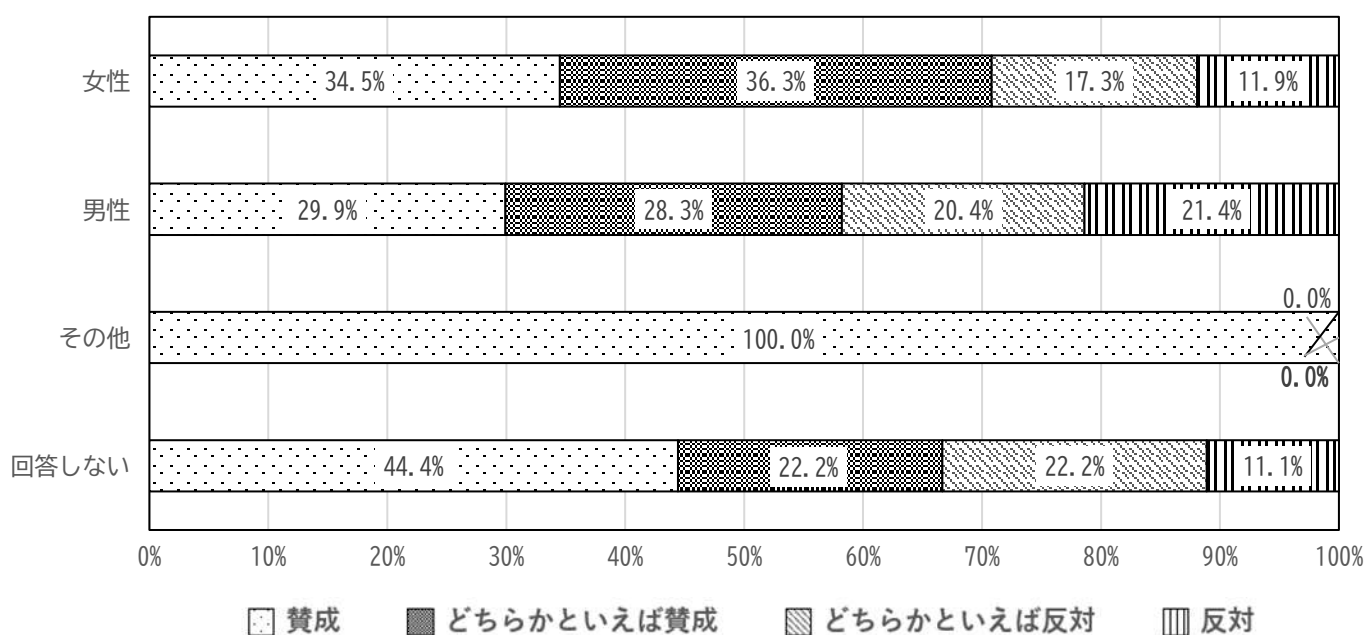


④「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」について

男女別でみると、女性の方が「賛成」が多く、大きな差が見られる。年齢別にみると、各年代とも「賛成」が多く、10代、50代が特に多い。結婚の有無でみると、していない方が「賛成」が多い。

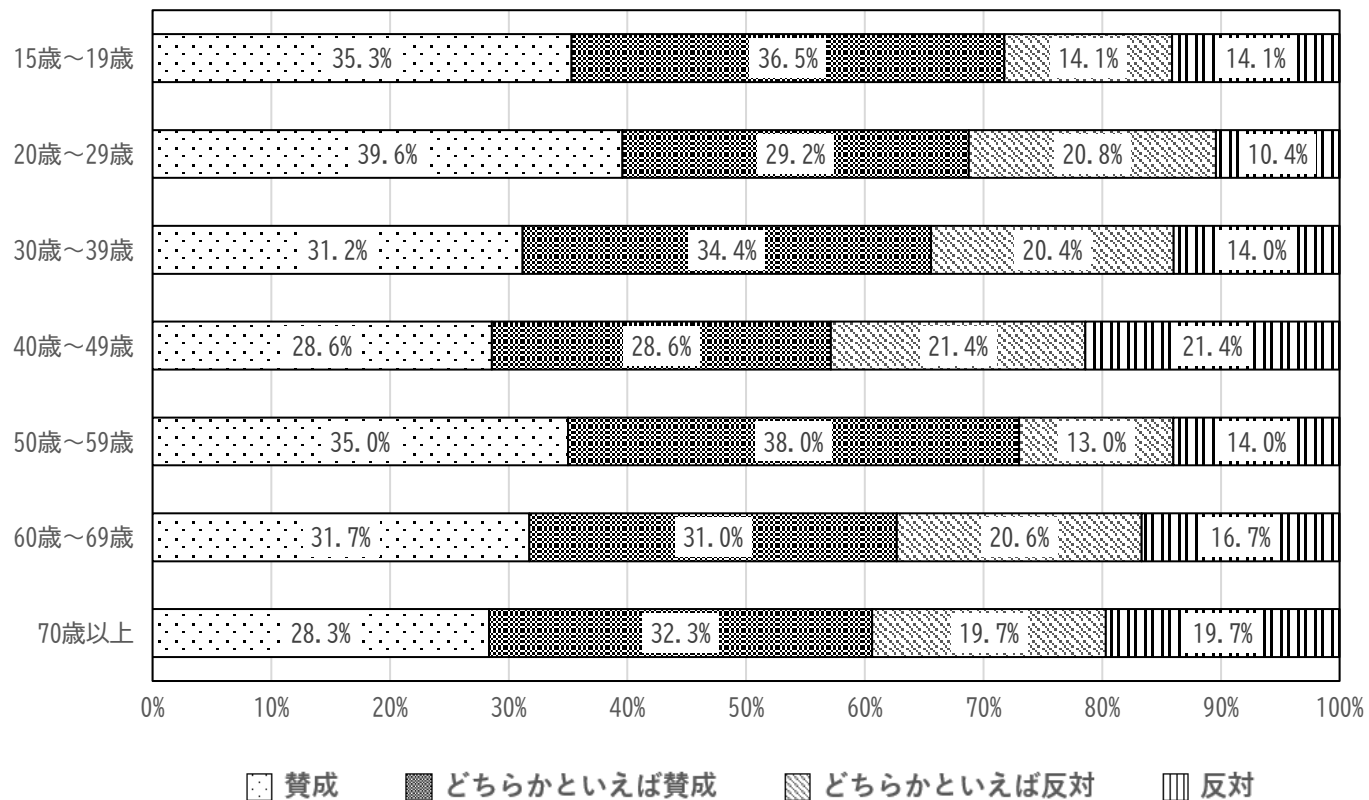
F1.性別

図. 3-3-4-1④



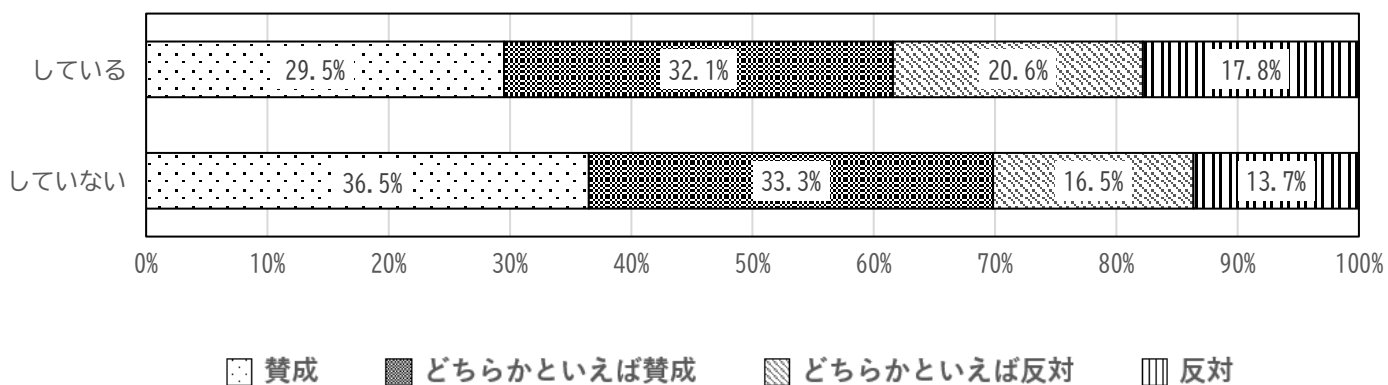
F2.年齢別

図. 3-3-4-2④



F4.結婚の有無別

図. 3-3-4-4④

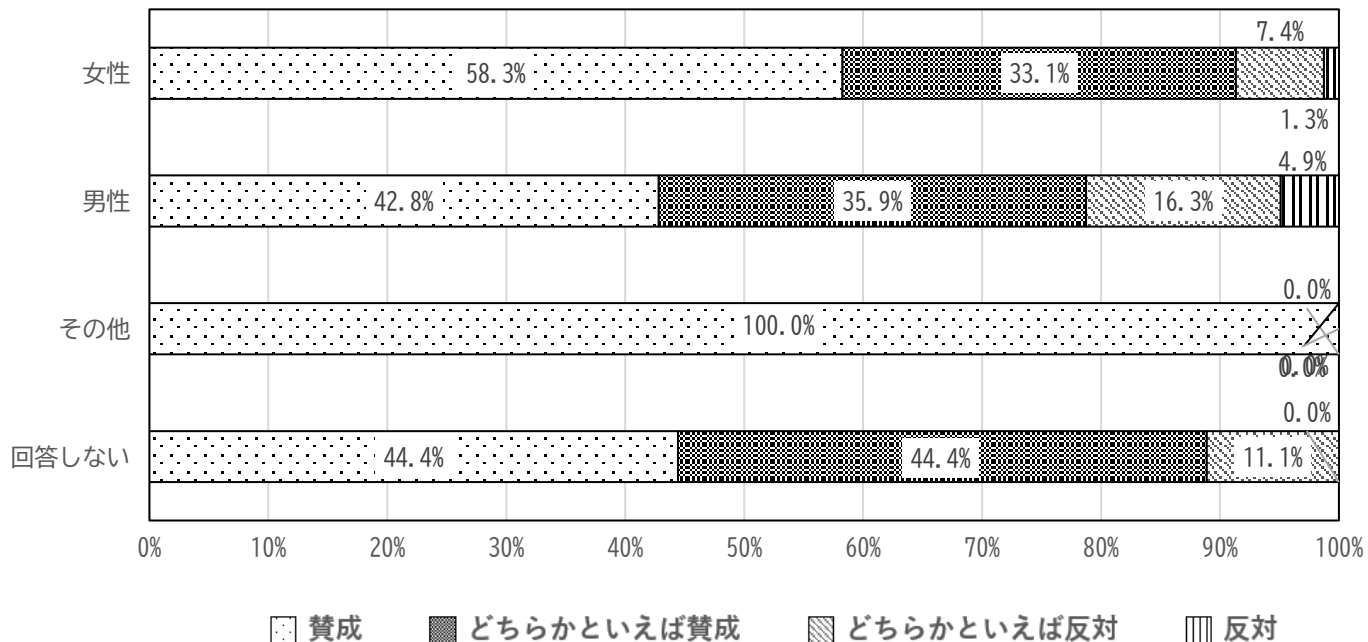


⑤「必ずしも結婚する必要はない」について

男女別でみると、女性の方が「賛成」が多く、大きな差が見られる。年齢別でみると、「賛成」は10代が最も多く、次いで30代が多い。年齢が低いほど賛成の傾向がある。

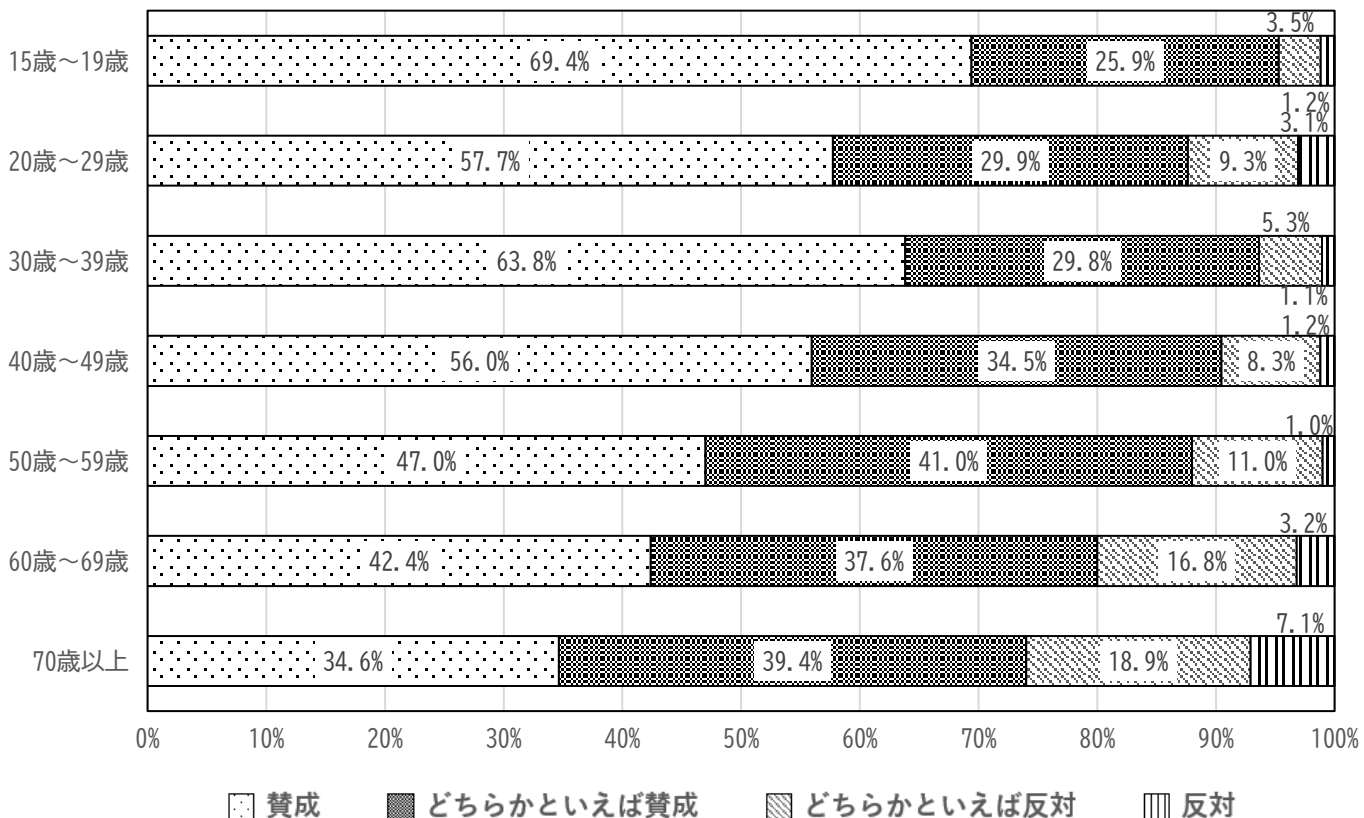
F1.性別

図. 3-3-4-1⑤



F2.年齢別

図. 3-3-4-2⑤

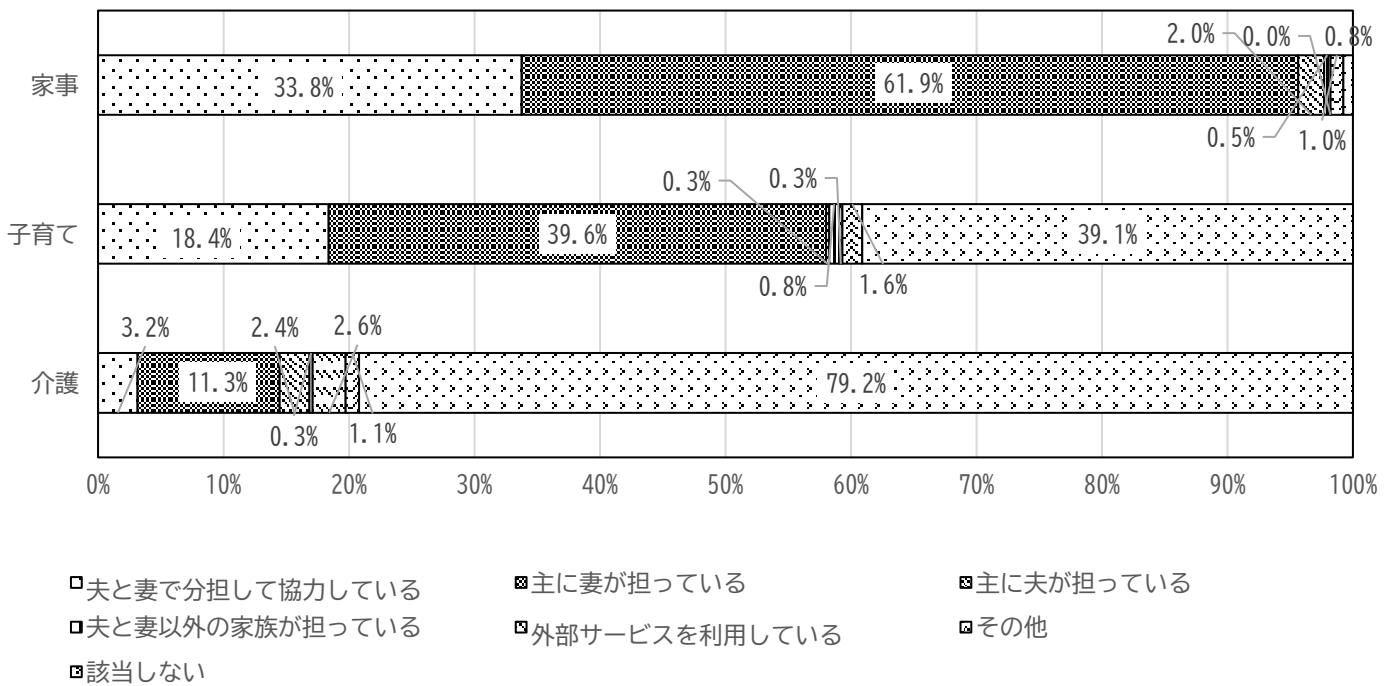


【現在、結婚（事実婚を含む）している人のみ回答】

問5 家事や子育て等は、誰が日常的に担っていますか。

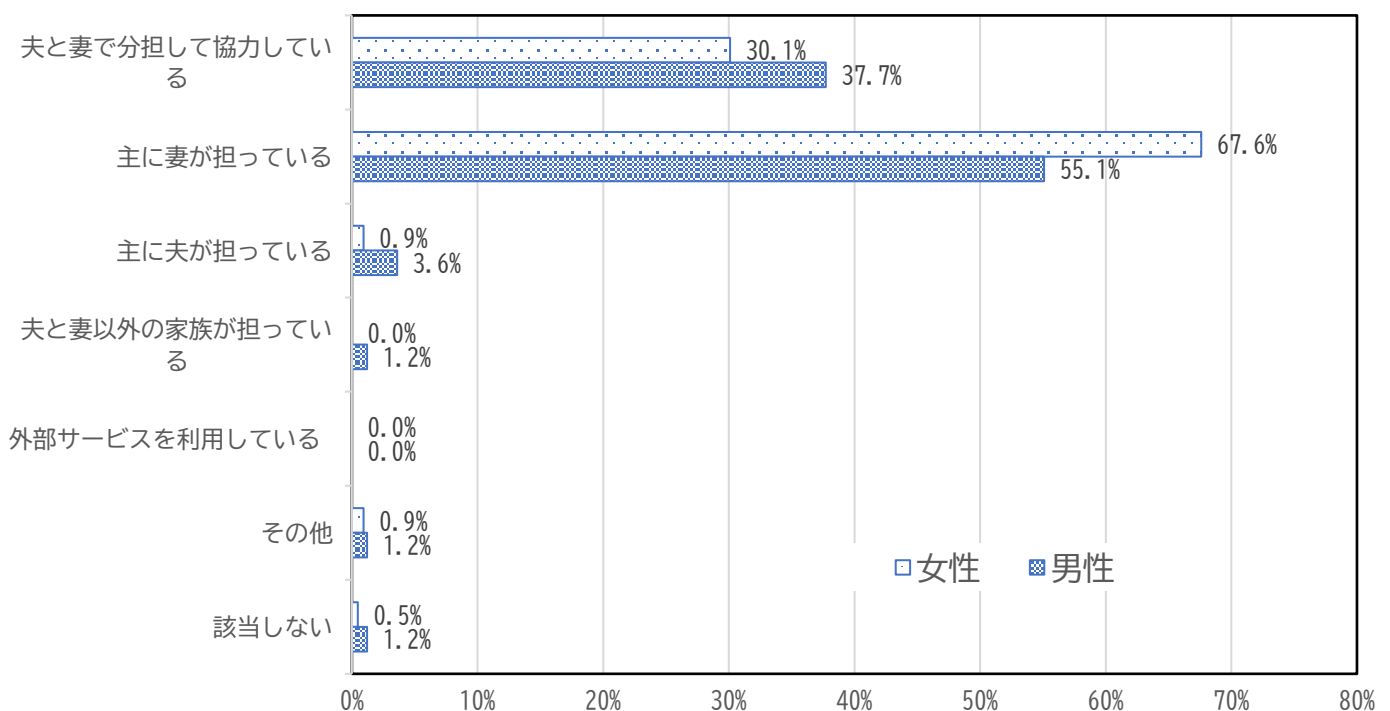
家事、子育ては、「主に妻が担っている」が最も割合が高い。介護も「該当しない」を除くと「主に妻が担っている」が最も高い。男女別でみると、男女とも「主に妻が担っている」の割合が最も高い。

図 3-3-5



F1.性別

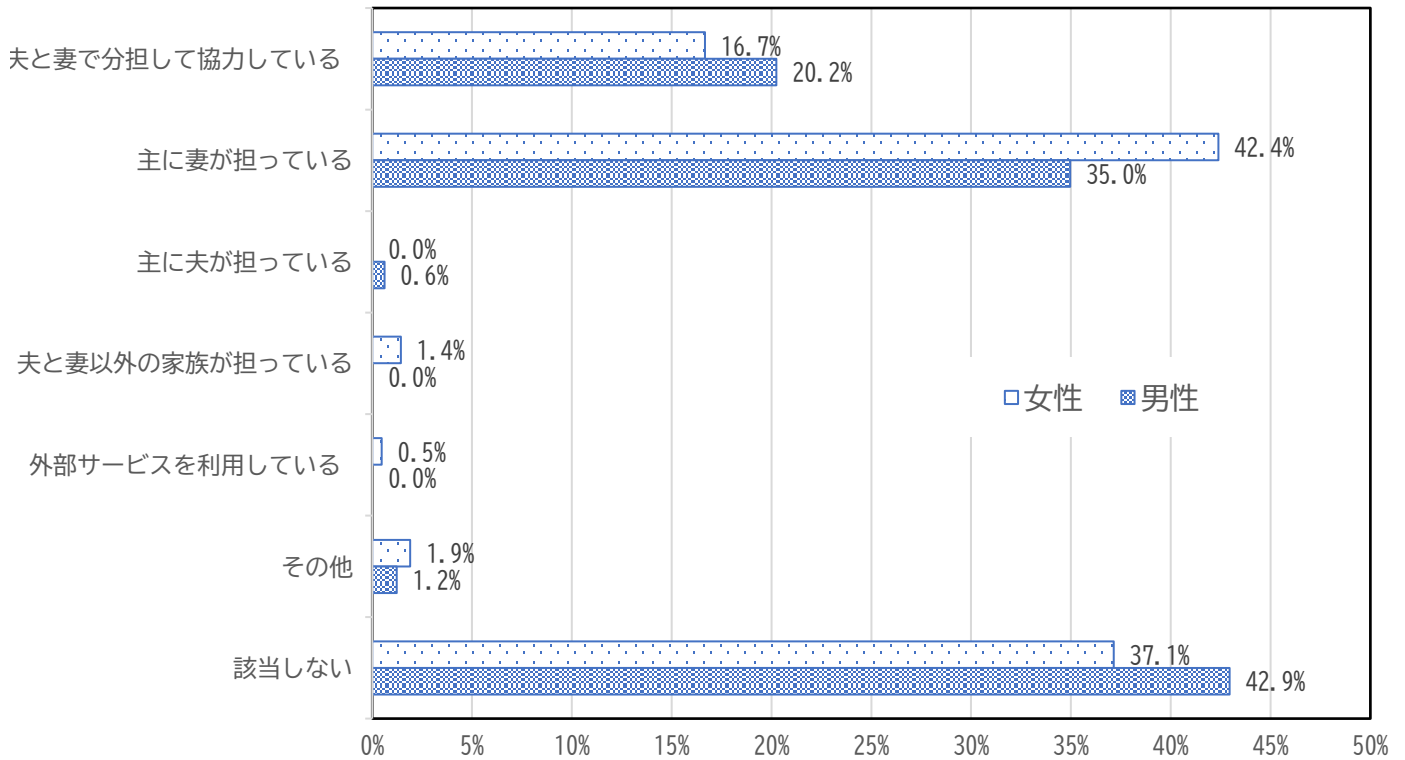
図. 3-3-5-1①家事



		① 家事													
		夫と妻で分担して協力している		主に妻が担っている		主に夫が担っている		夫と妻以外の家族が担っている		外部サービスを利用している		その他		該当しない	
女性	397	65	30.1%	146	67.6%	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	1	0.5%
男性	310	63	37.7%	92	55.1%	6	3.6%	2	1.2%	0	0.0%	2	1.2%	2	1.2%
その他	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答しない	9	3	50.0%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

F1.性別

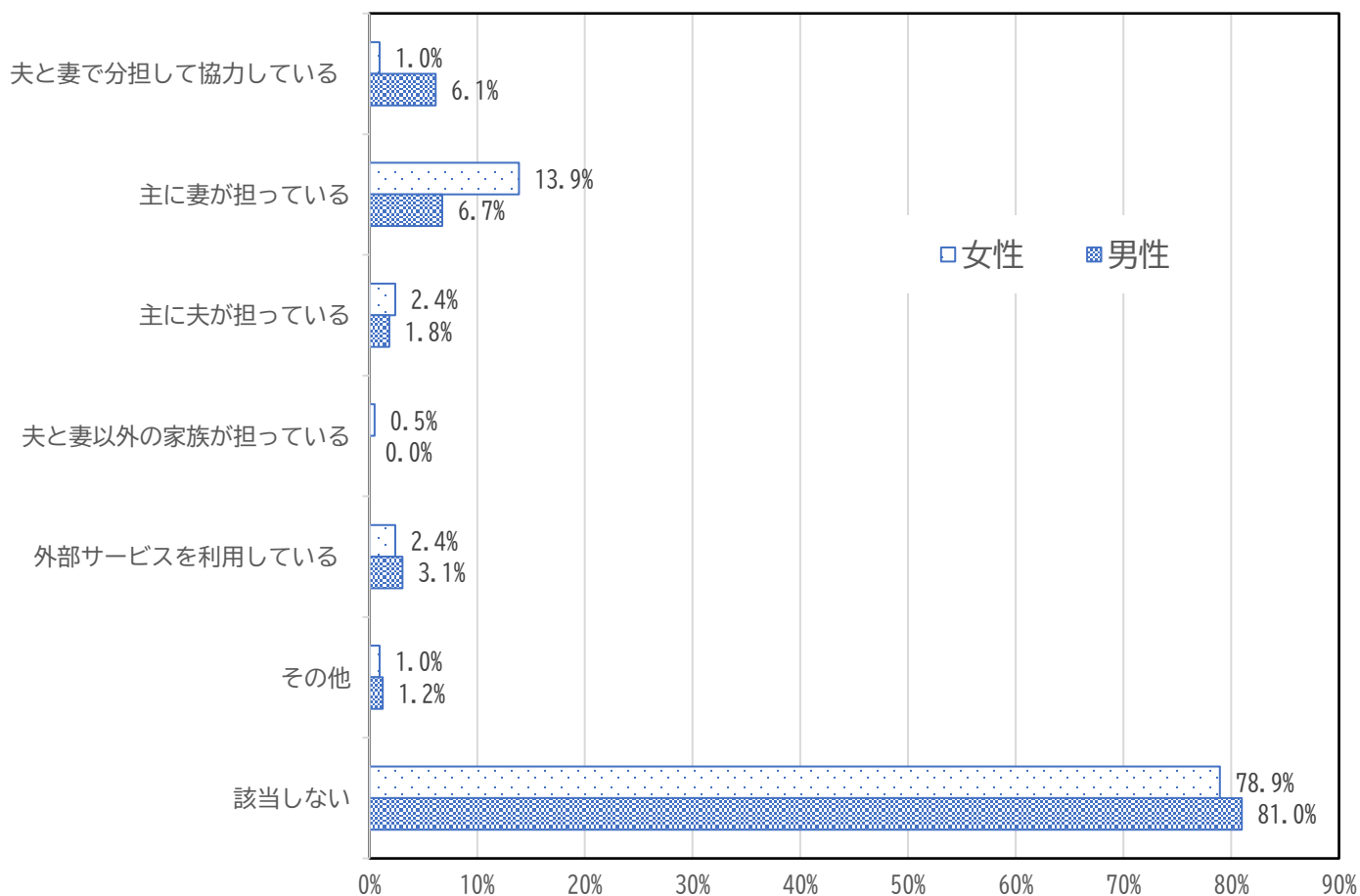
図. 3-3-5-1②子育て



		② 子育て													
		夫と妻で分担して協力している		主に妻が担っている		主に夫が担っている		夫と妻以外の家族が担っている		外部サービスを利用している		その他		該当しない	
女性	397	35	16.7%	89	42.4%	0	0.0%	3	1.4%	1	0.5%	4	1.9%	78	37.1%
男性	310	33	20.2%	57	35.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.2%	70	42.9%
その他	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答しない	9	1	16.7%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%

F1.性別

図. 3-3-5-1③介護



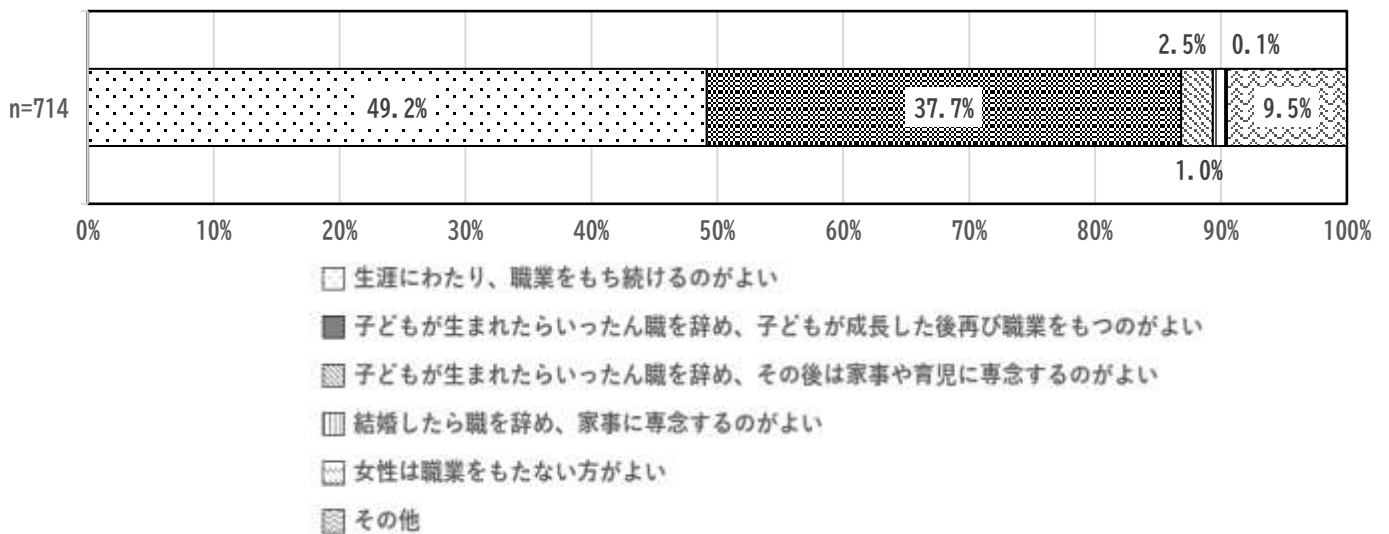
		③ 介護													
		夫と妻で分担して協力している		主に妻が担っている		主に夫が担っている		夫と妻以外の家族が担っている		外部サービスを利用している		その他		該当しない	
女性	397	2	1.0%	29	13.9%	5	2.4%	1	0.5%	5	2.4%	2	1.0%	165	78.9%
男性	310	10	6.1%	11	6.7%	3	1.8%	0	0.0%	5	3.1%	2	1.2%	132	81.0%
その他	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答しない	9	0	0.0%	2	33.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	50.0%

3-4 女性の職業生活における活躍を進めることについて

問6 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。

「生涯にわたり職業を持ち続けるのがよい」が最も割合が高く、次いで「子どもが生まれたらいったん仕事を辞め、子どもが成長した後再び職業を持つのがよい」が高い。男女別にみると、女性は男性に比べて「生涯にわたり職業を持ち続けるのがよい」と回答した割合が高い。働き方別にみると、自営業、正社員・正職員では「生涯にわたり、職業を持ち続けるのがよい」と回答した割合が特に高い。

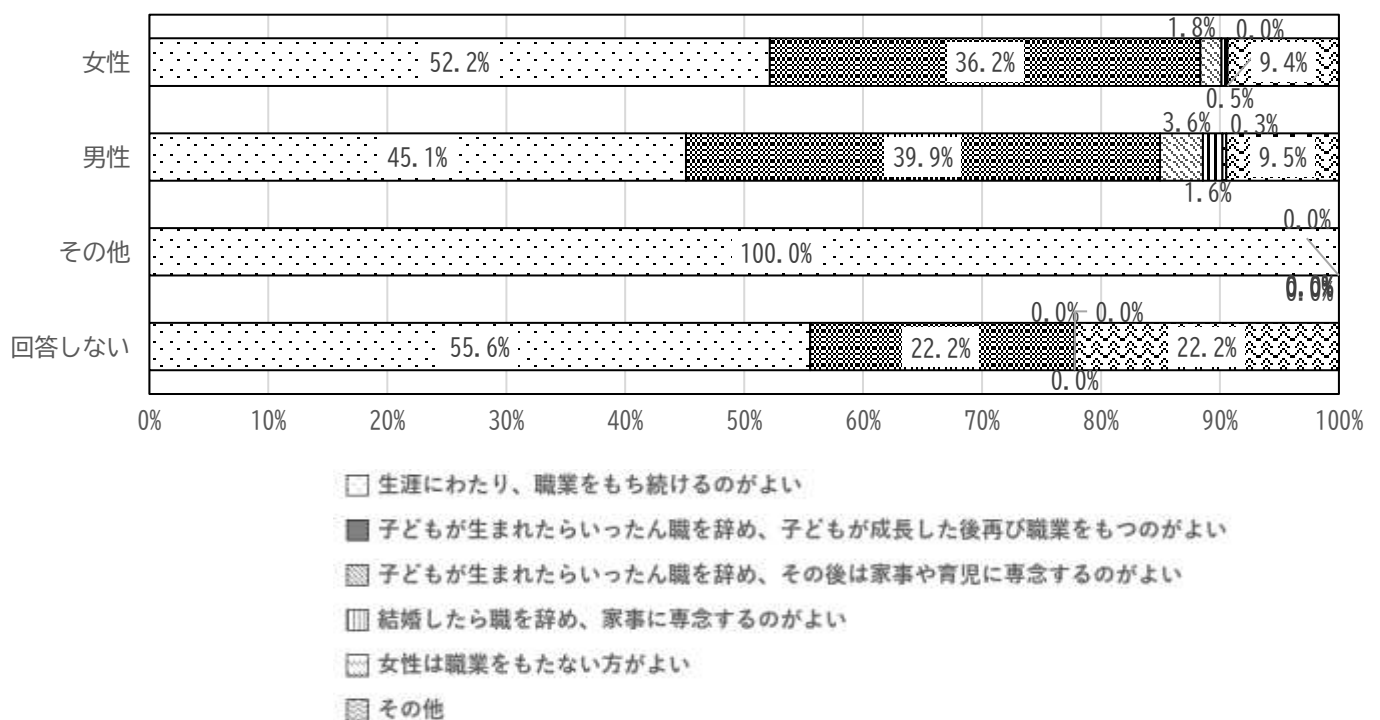
図 3-4-6



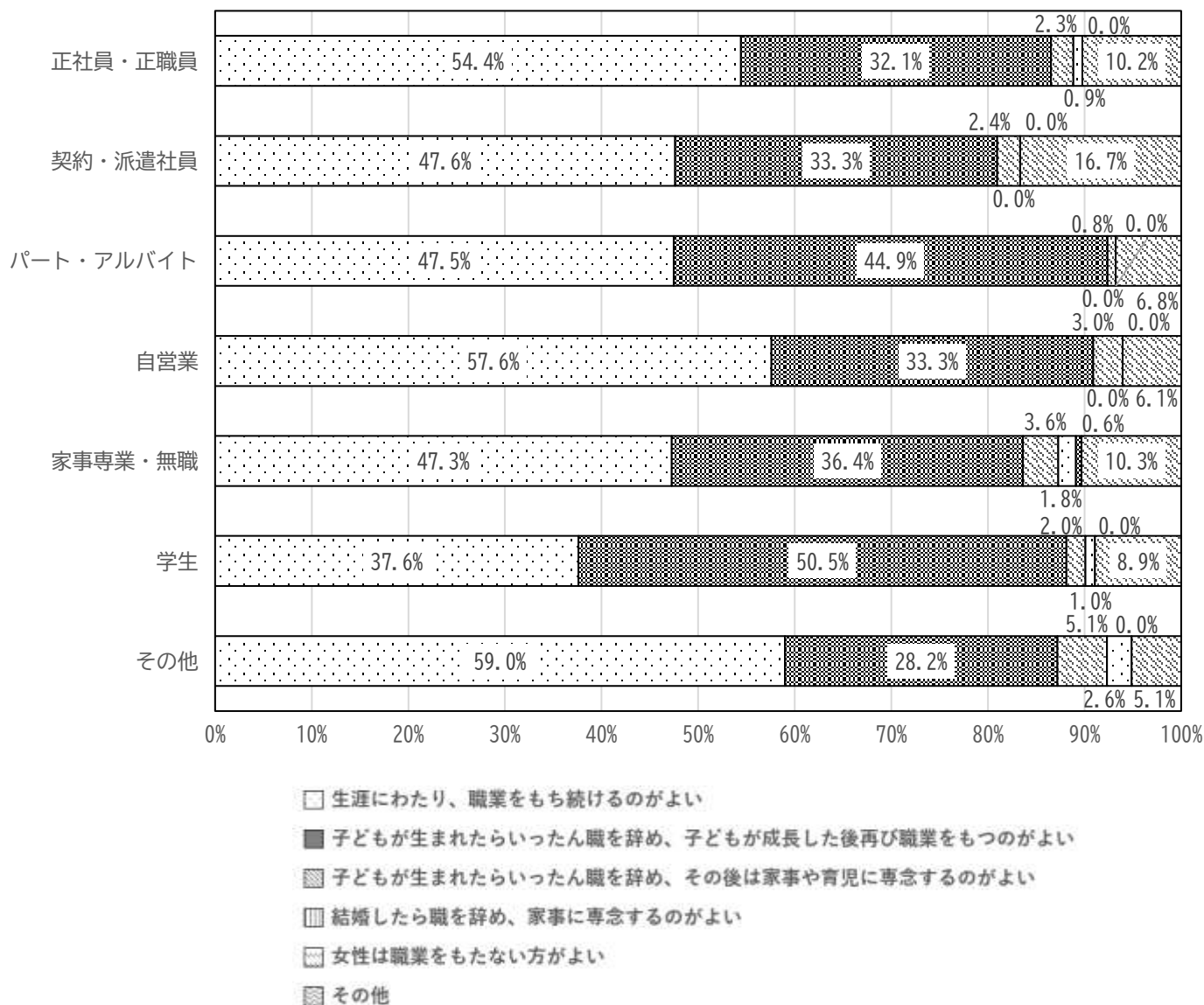
■属性別の特徴

F1.性別

図. 3-4-6-1



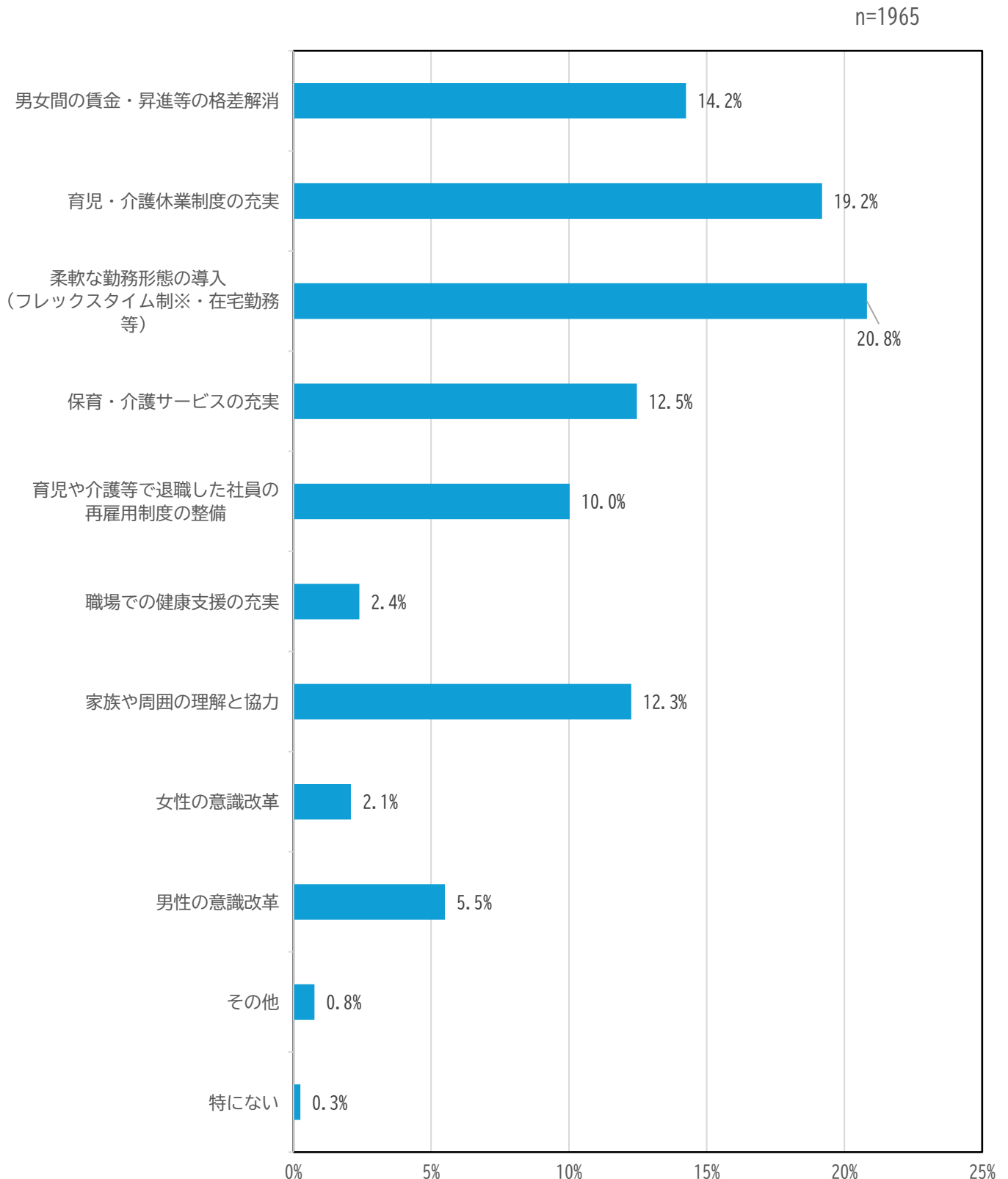
F3.働き方等別
 図. 3-4-6-3



【問 7】 女性が長く働き続けるためには、あなたは、どのようなことが特に重要だと思いますか。

「柔軟な勤務形態の導入」の割合が最も高く、次いで「育児・介護休業制度の充実」が高い。男女別でみると、女性は「柔軟な勤務形態の導入」が最も高く、男性は「育児・介護休業制度の充実」が最も高い。

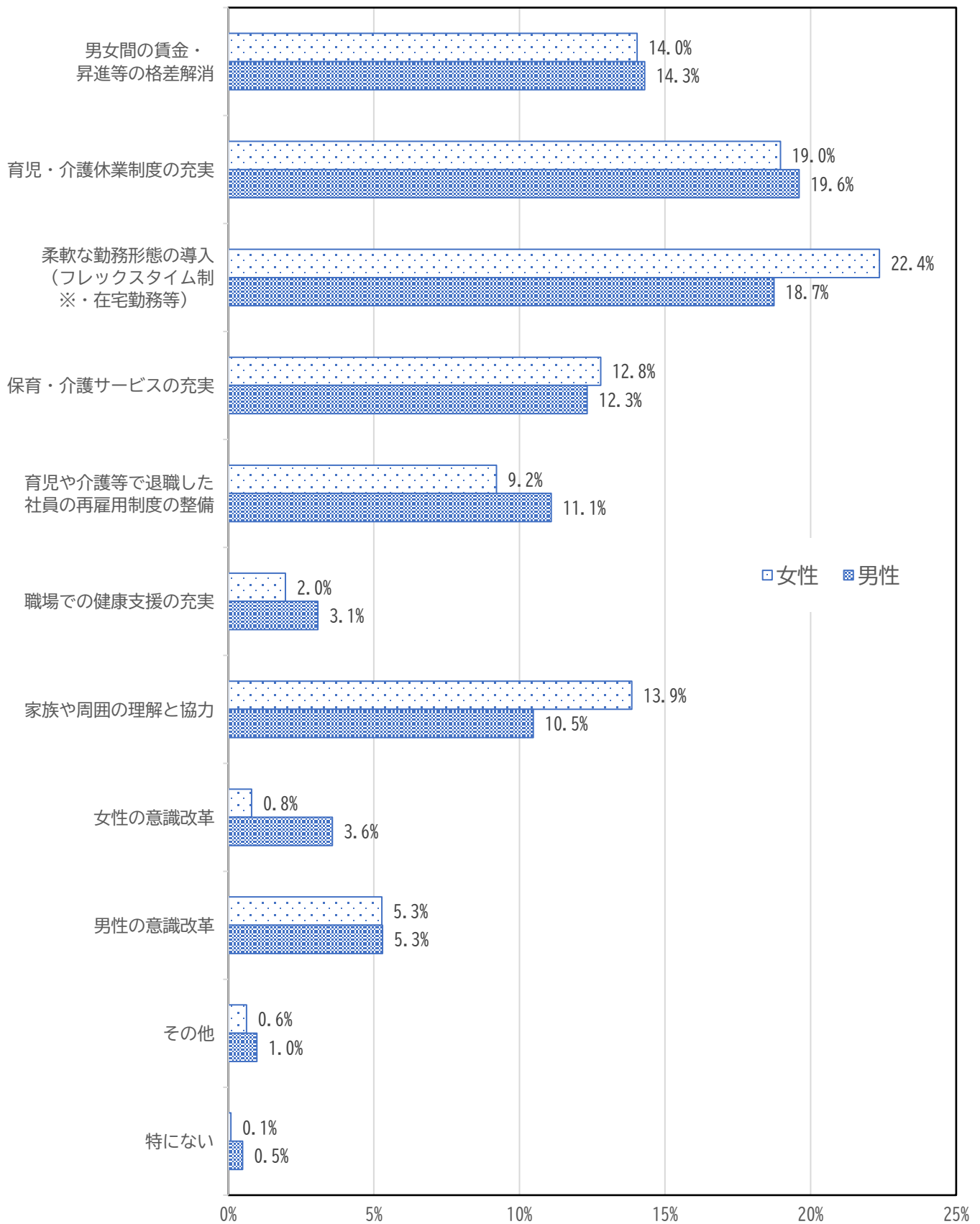
図 3-4-7



■属性別の特徴

F1.性別

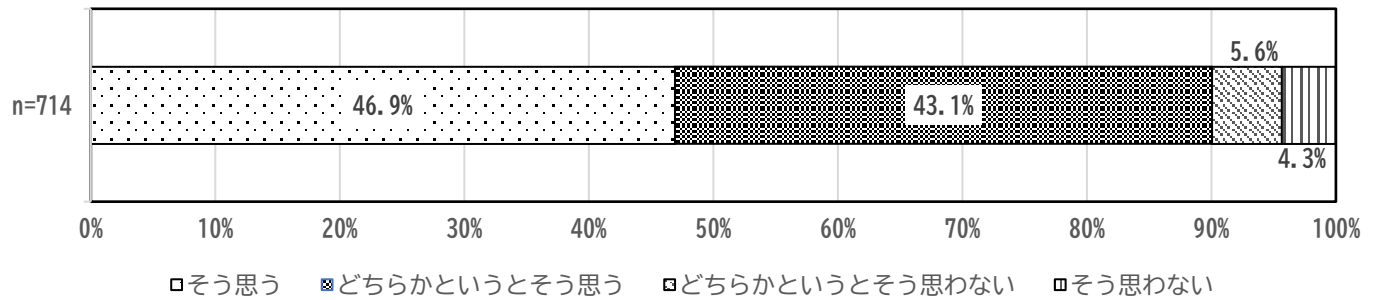
図. 3-4-7-1



【問 8】 あなたは、政治、経済、地域活動において、リーダーや役員にもっと女性の参画が必要だと思いますか。

「そう思う～どちらかというと思う」が90%に達した。男女とも「そう思う～どちらかというと思う」の割合が高く、男女別でみると女性の方が多い。

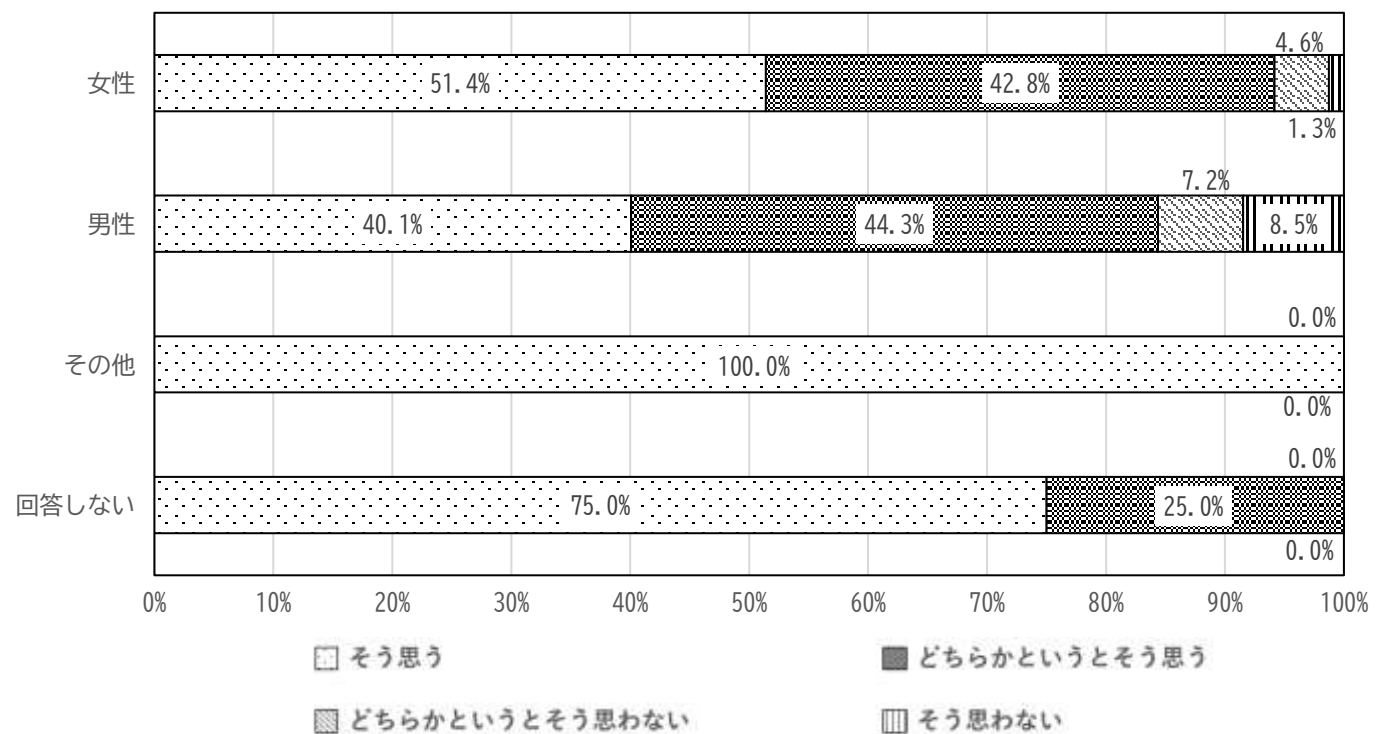
図 3-4-8



■属性別の特徴

F1.性別

図. 3-4-8-1

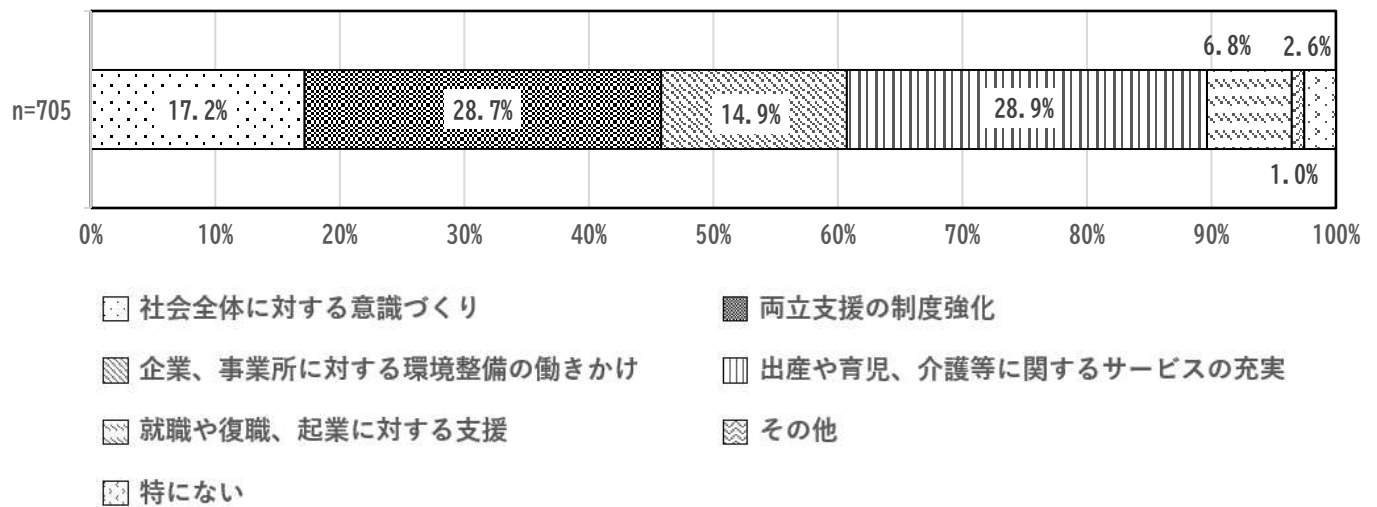


3-5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問9 仕事と生活を両立できるようにするための国や市役所等の公的な取り組みとして、あなたが最も重要だと思う選択肢を選んでください。

「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」の割合が最も高く、次いで「両立支援の制度強化」が高い。男女別で見ると、男女とも「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」が最も高く、次いで「両立支援の制度強化」が高い。

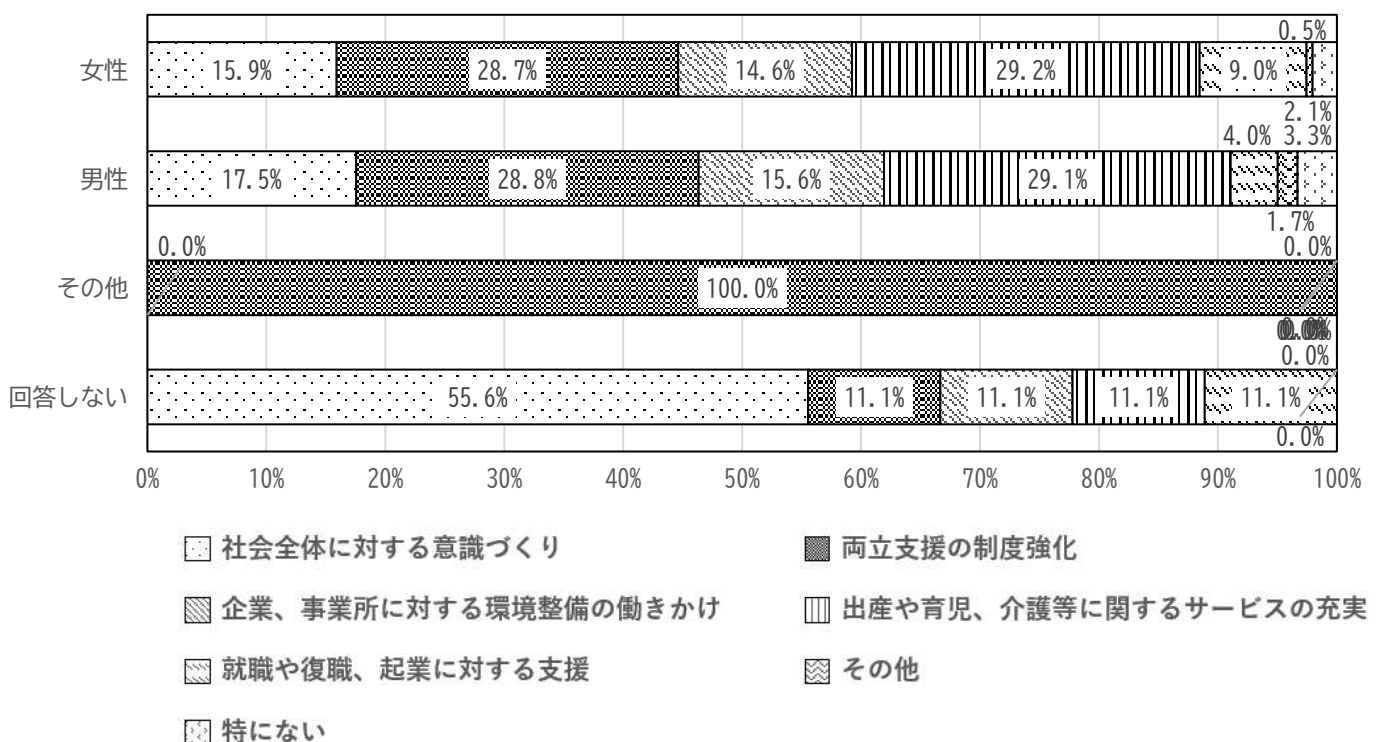
図 3-5-9



■属性別の特徴

F1.性別

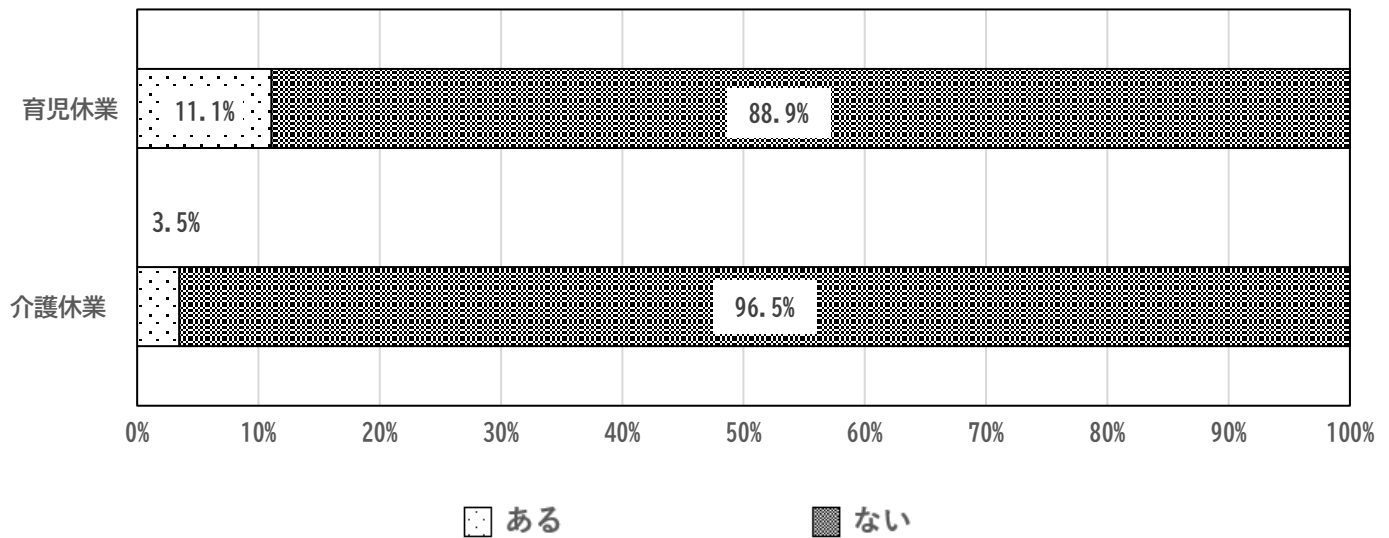
図. 3-4-9-1



【問10】 あなたは、今までに育児休業・介護休業を取ったことがありますか。

育児休業は11.1%、介護休業は3.5%の人が取ったことがある。

図 3-5-10



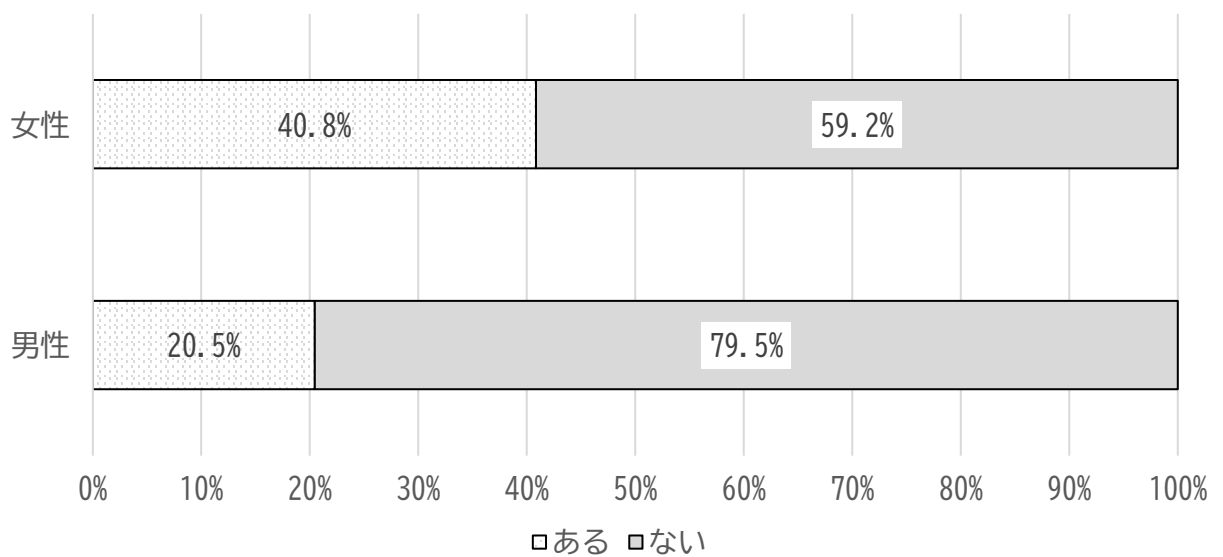
■属性別の特徴

①育児休業について

中学生以下の子どもがいる人の中では、女性が40.8%、男性が20.5%の割合で育児休業を取ったことがある、男女別でみると女性の方が多い。

F1.性別 × F5 で中学生以下の子どもがいる人

図. 3-5-10-1①

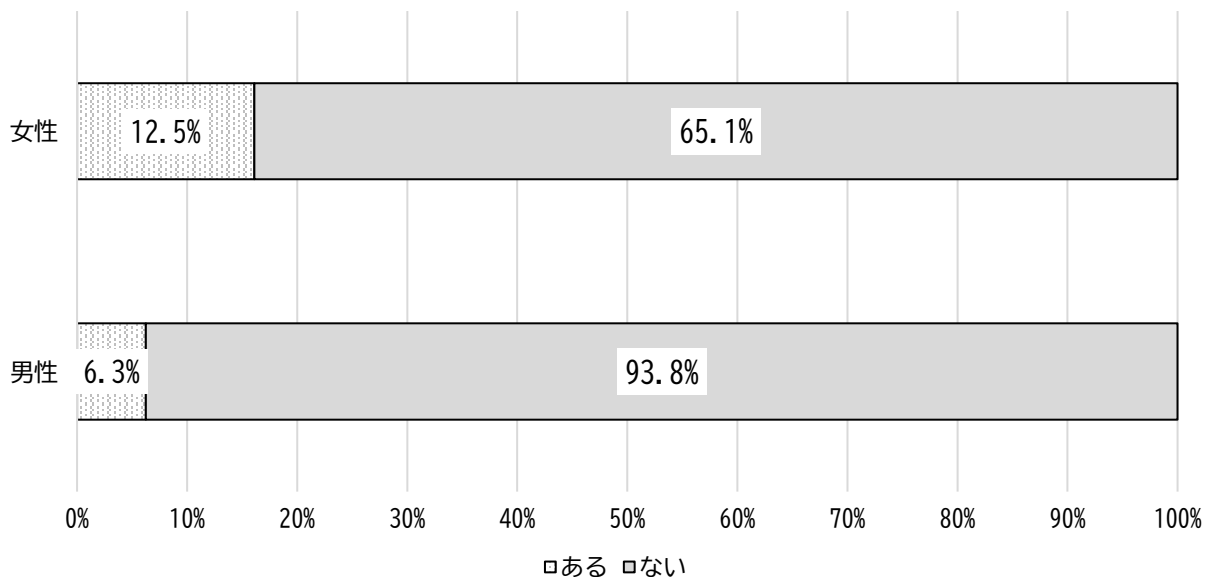


②介護休業について

介護の必要な家族がいる人の中では、女性が12.5%、男性が6.3%の割合で介護休業を取ったことがあり、男女別でみると女性の方が多い。

F1.性別× F6 で介護の必要な家族がいる人

図. 3-5-10-1②

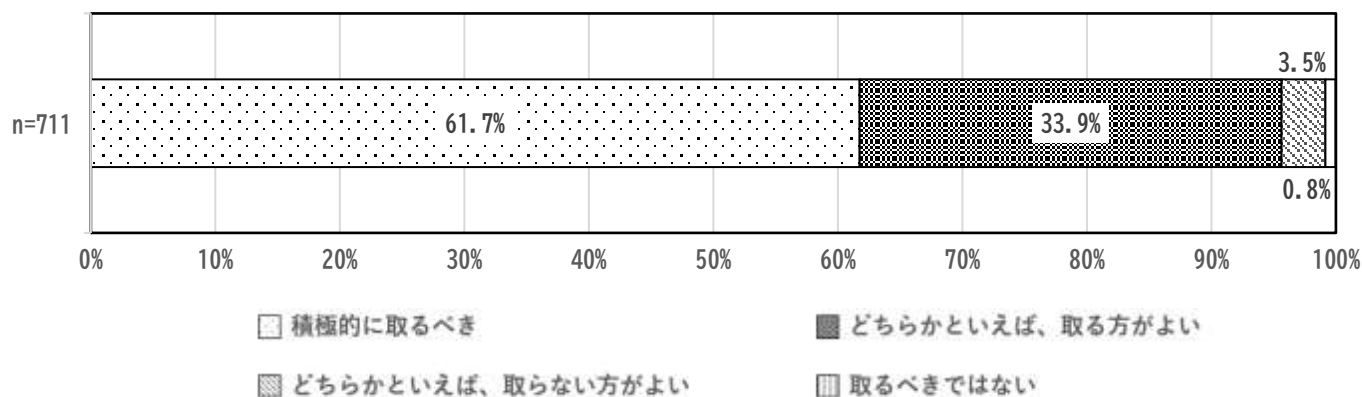


3-6 男性の育児や介護の参画について

問11 あなたは、男性が育児や介護のために休業を取ることにどう思いますか。

「積極的に取るべき」の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば、取る方がよい」が高い。男女別でみると、女性の方が「積極的にとるべき」が多く、年齢別では、20代が「積極的にとるべき」と回答した割合が最も多い。

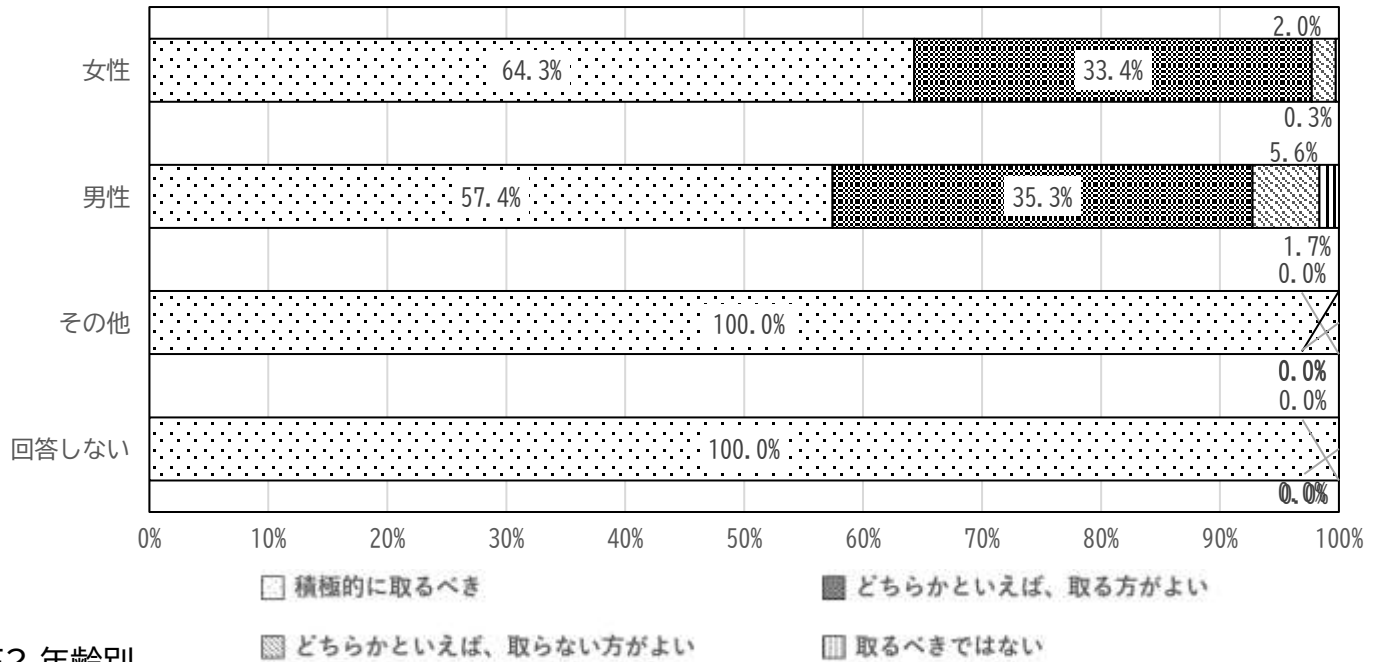
図 3-6-11



■属性別の特徴

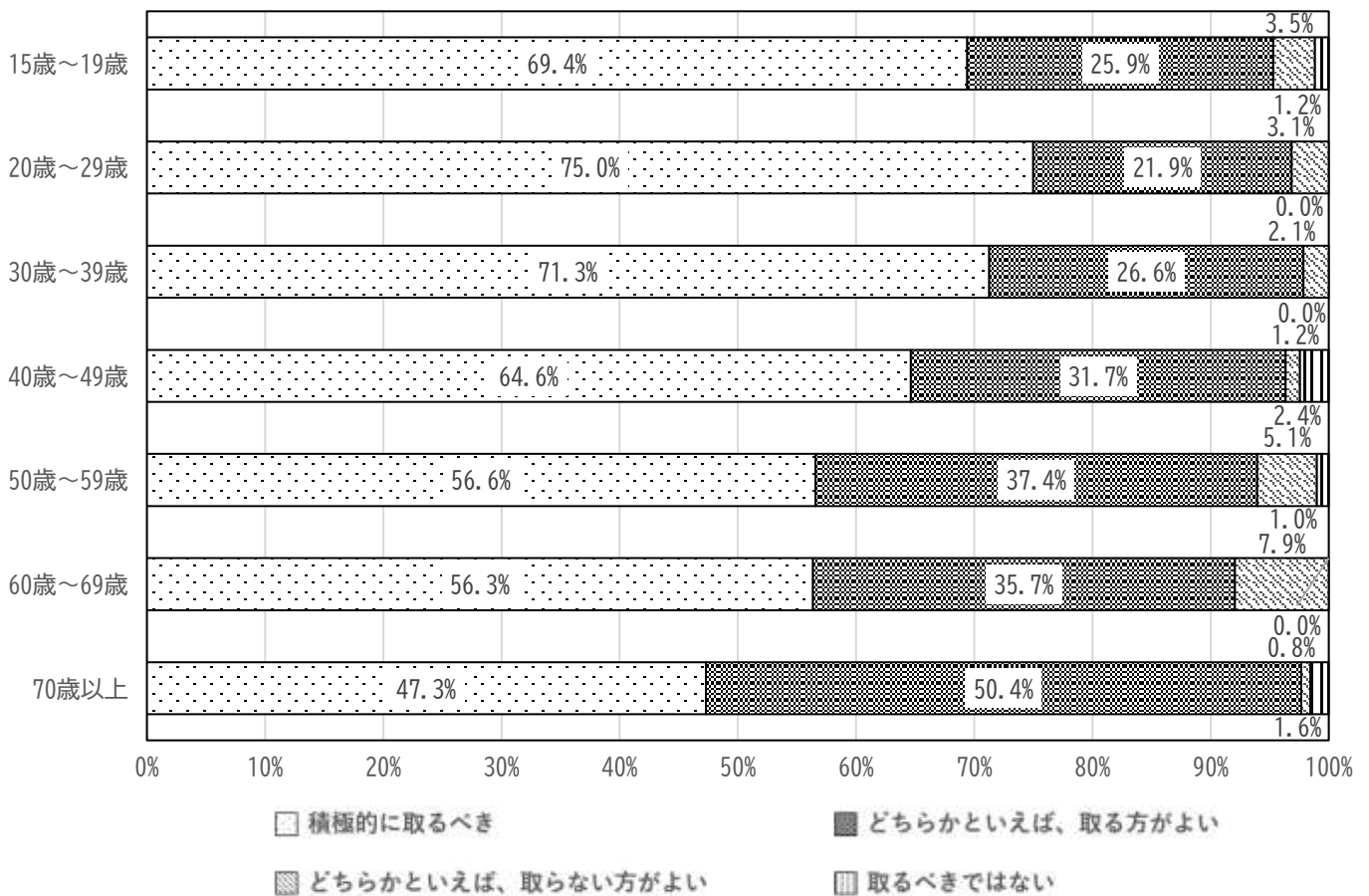
F1.性別

図. 3-6-11-1



F2.年齢別

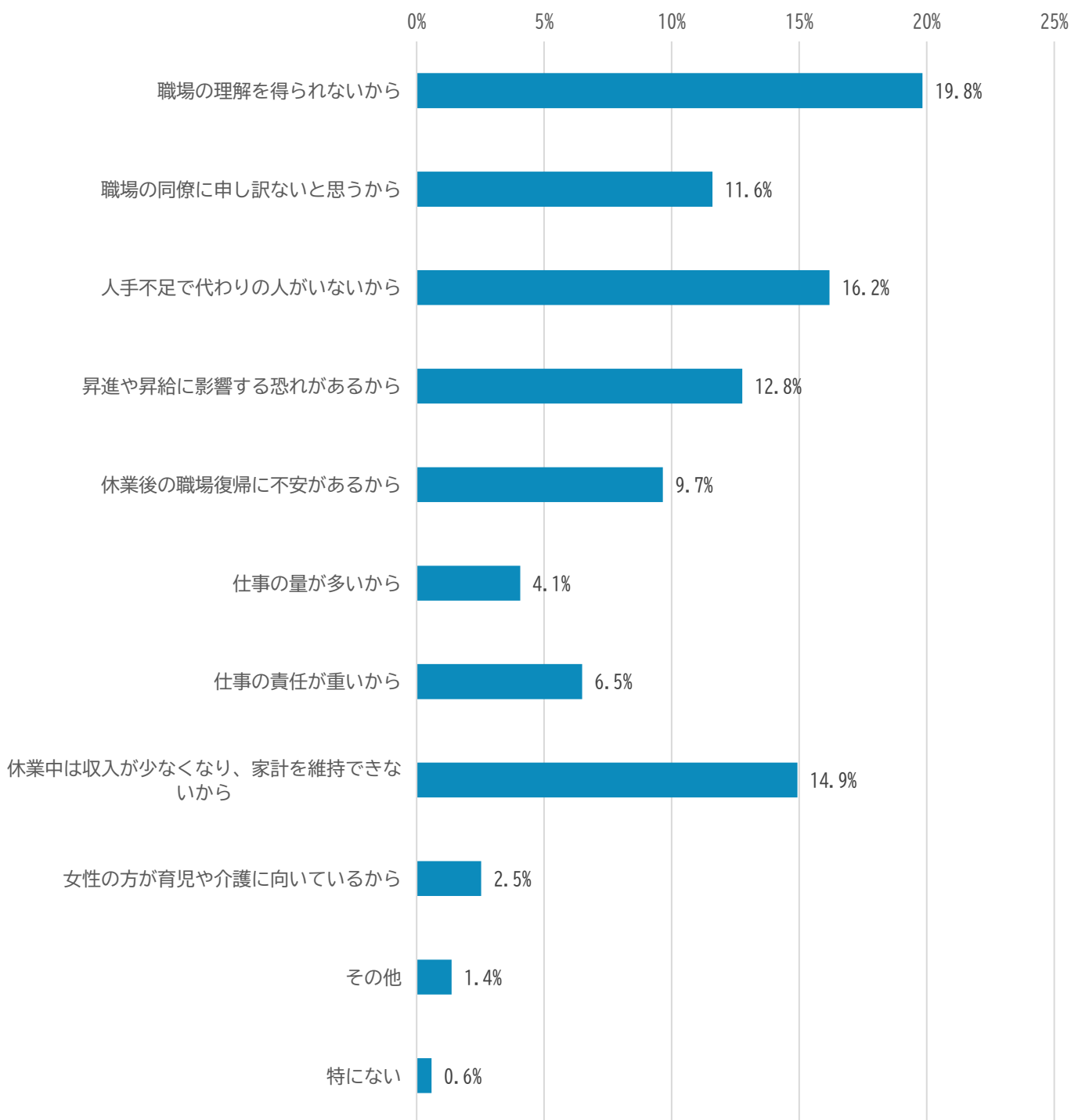
図. 3-6-11-2



【問 12】 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないことや、期間が短いのが現状です。あなたが、特に大きな要因だと思うものを選んでください。

「職場の理解を得られないから」が最も割合が高く、次いで「人手不足で代替りの人がいないから」が高い。男女別でみると、男女とも「職場の理解を得られないから」が最も高く、次いで「人手不足で代替りの人がいないから」が高い。

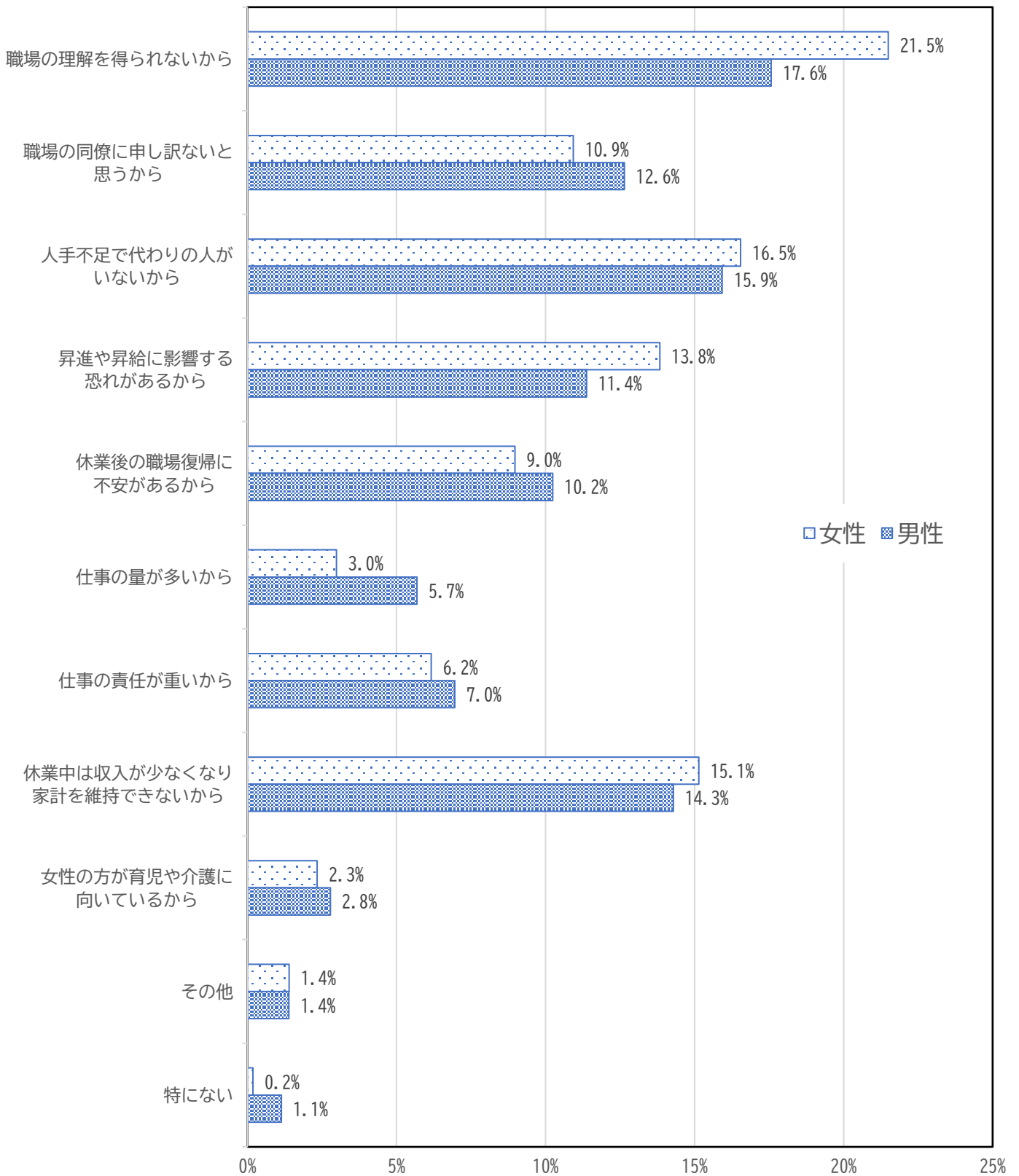
図 3-6-12



■属性別の特徴

F1.性別

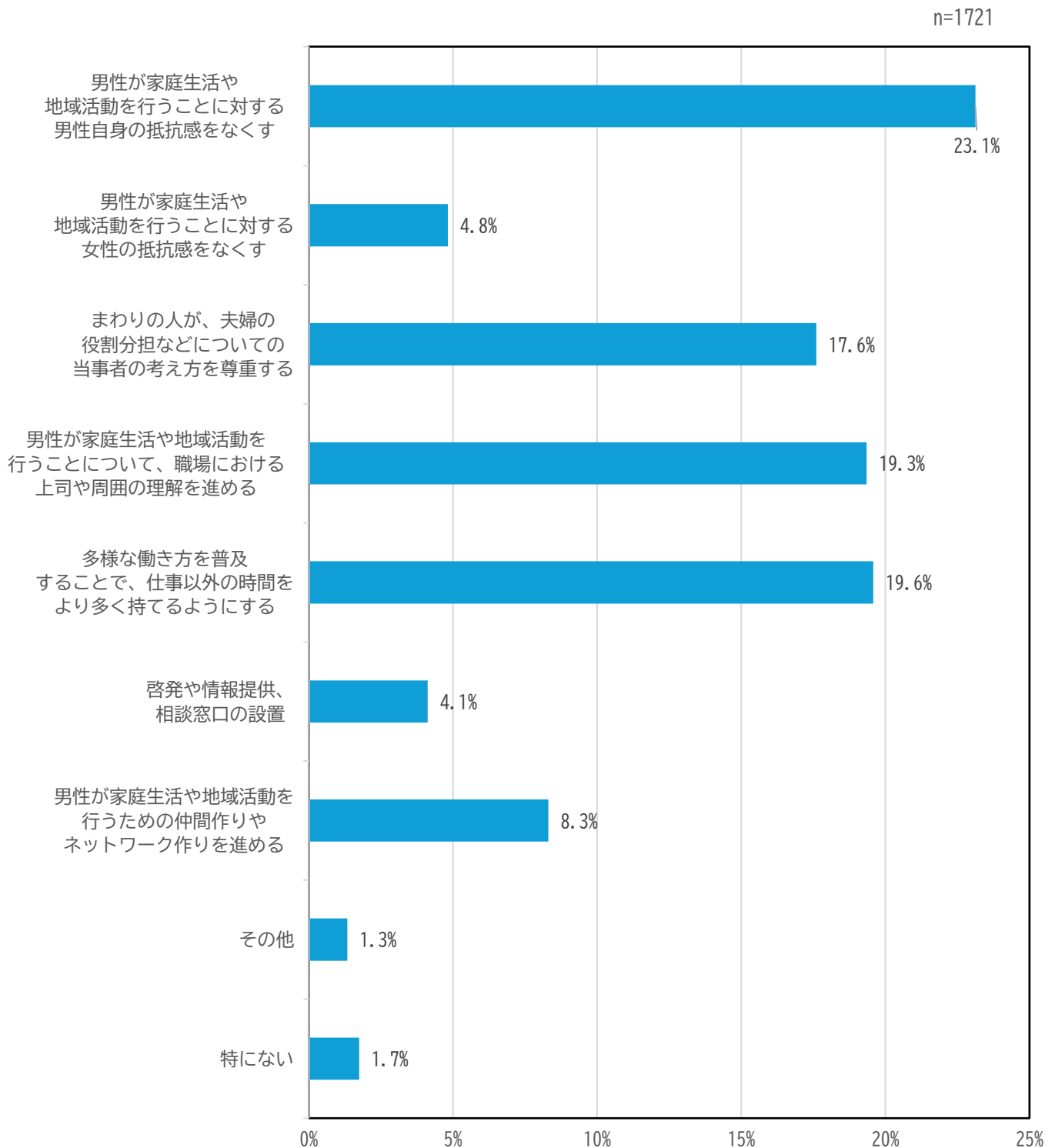
図. 3-6-12-1



【問 13】 あなたは、今後、男性が家事・育児・介護などの家庭生活や、町内会・自治会や PTA 等の地域活動をより積極的に行っていくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。

「男性が家庭生活や地域活動を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」が最も割合が高く、次いで「多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が高い。

図 3-6-13

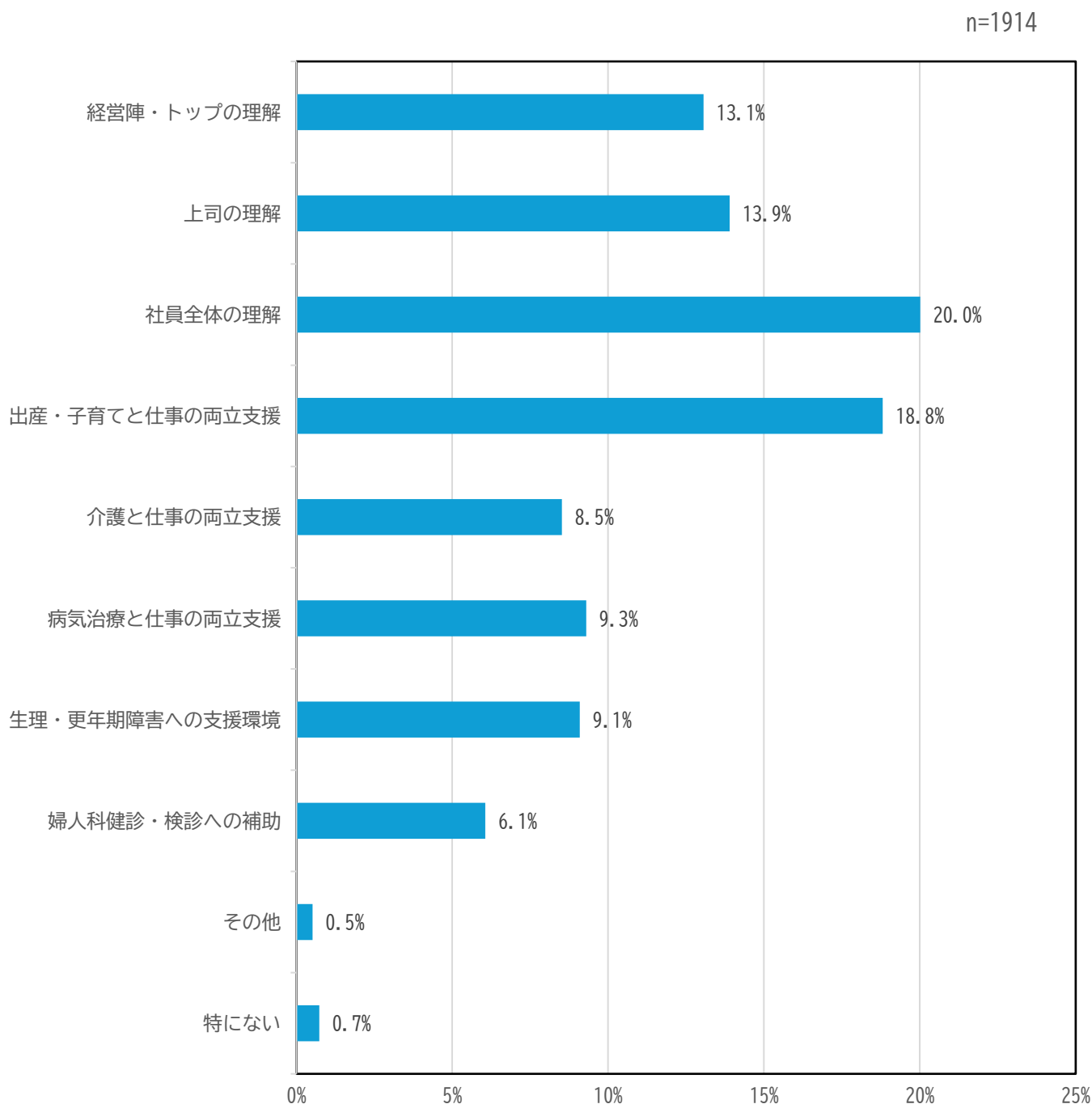


3-7 健康課題について

【問 14】 女性の社会進出等の観点からも、女性の健康課題に対する取り組みが重要視されています。女性の健康課題について、職場でどのような配慮があると働きやすいと思いますか。特に重要だと思う選択肢を選んでください。

「社員全体の理解」が最も割合が高く、次いで「出産・子育てと仕事の両立支援」が高い。

図 3-7-14

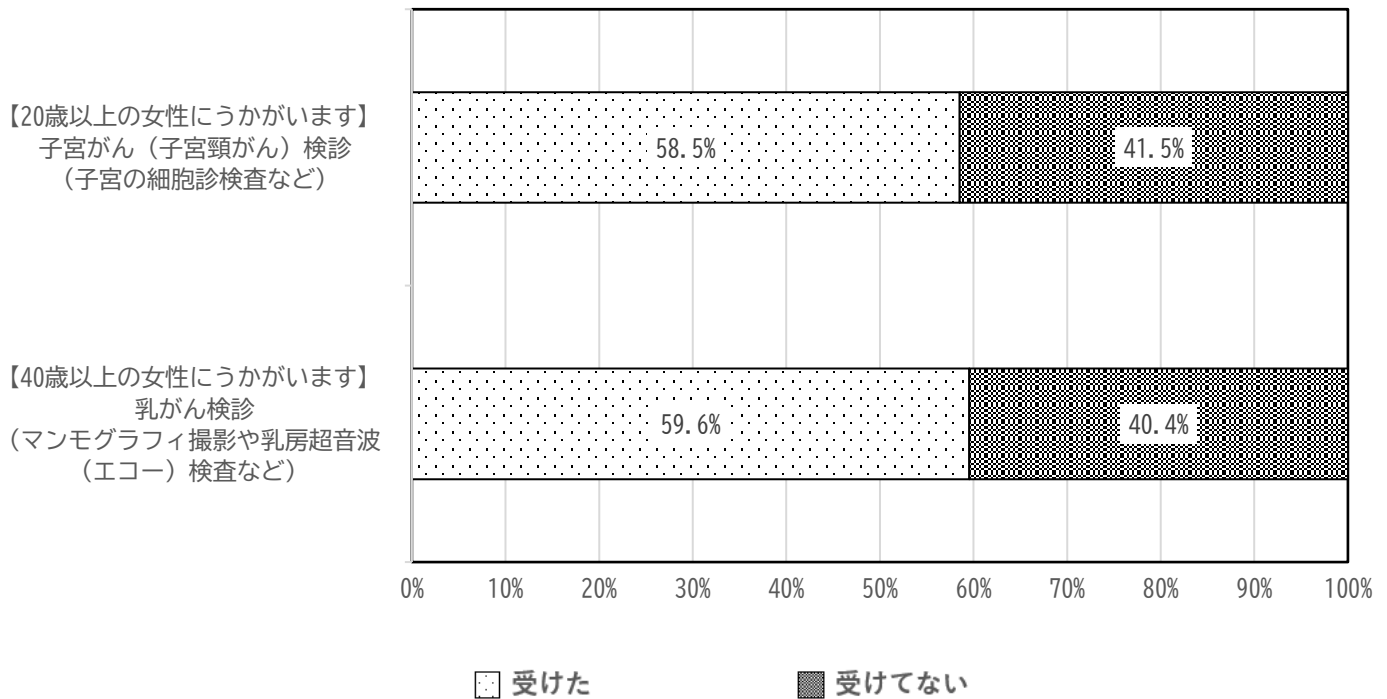


【問 15】 あなたは、過去2年間に以下の2つのがん検診※を受けましたか。

※健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものを含みます。

子宮がん検診は 58.5%、乳がん検診は 59.6%が受診している。

図 3-7-15



■属性別の特徴

子宮がん (子宮頸がん) 検診は 30 代~60 代の受診率が高く、乳がん検診は各層で 50% 以上の受診率だった。

F2.年齢別

図. 3-7-15-2①

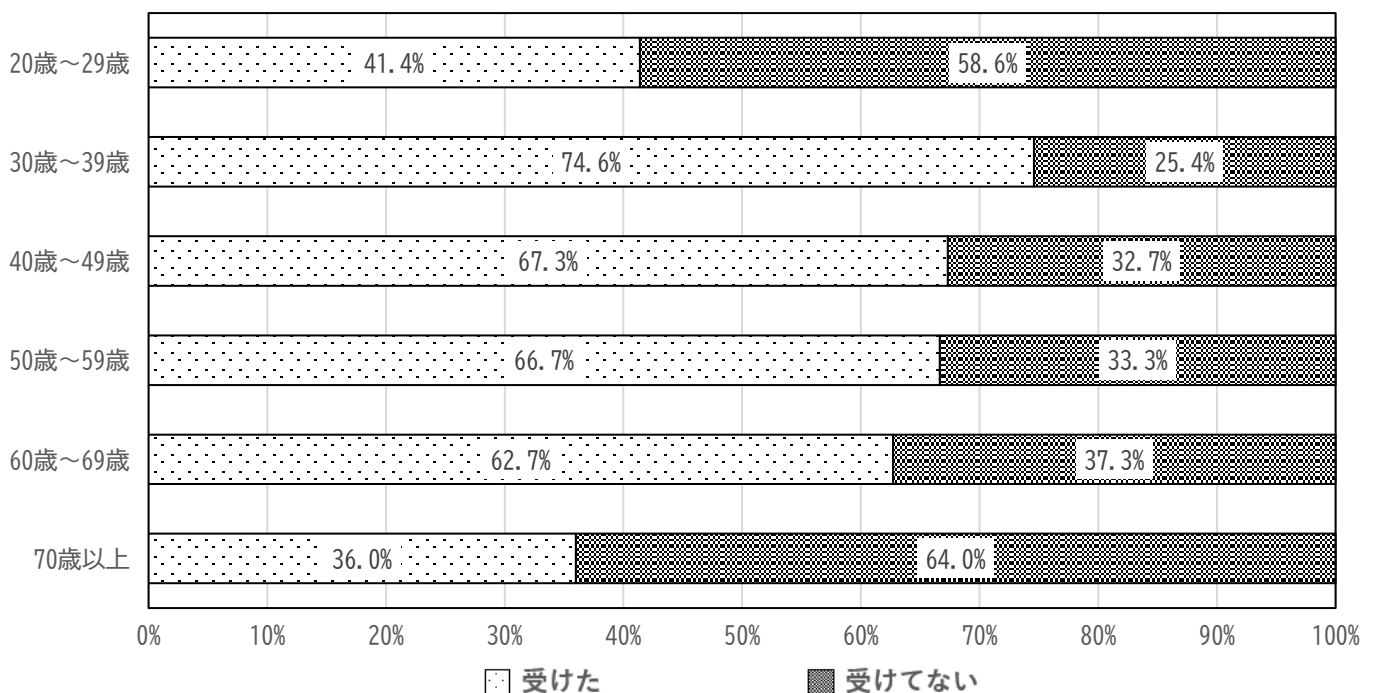
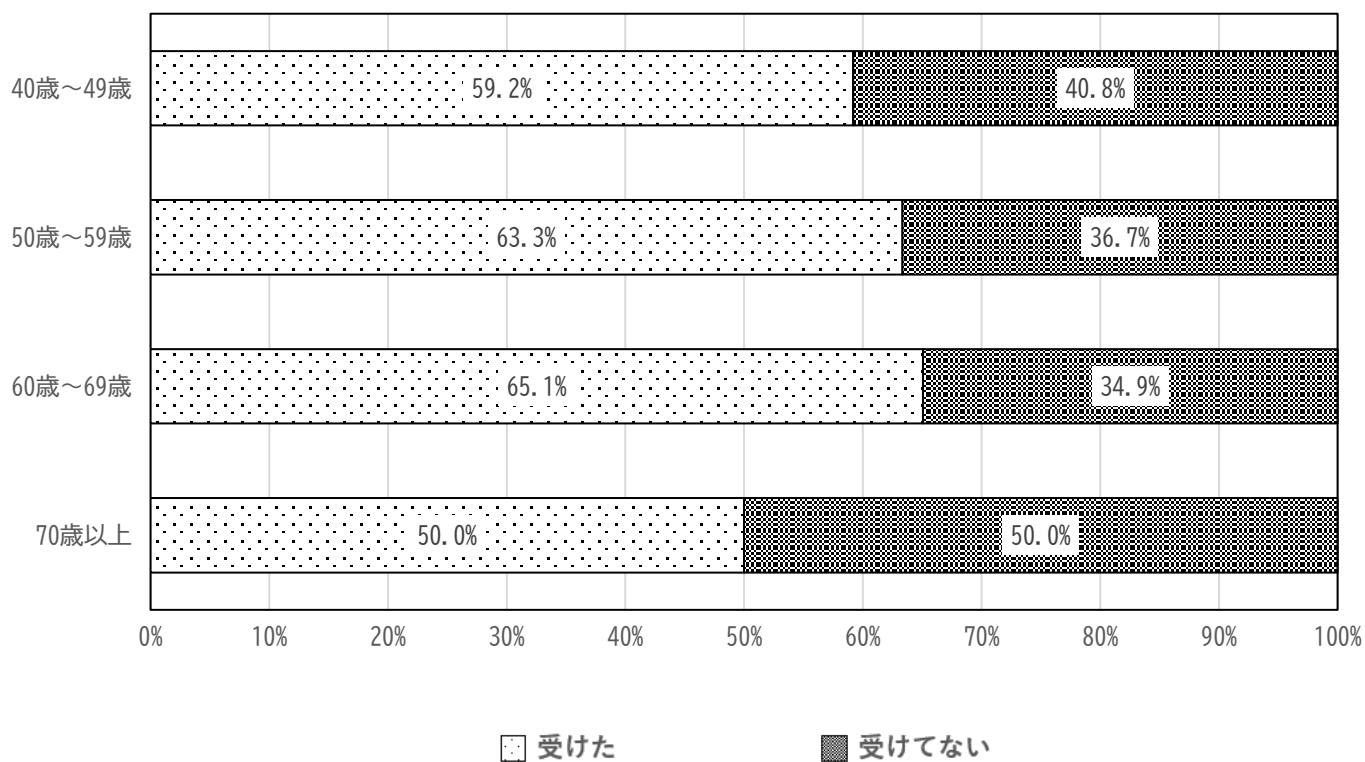


図. 3-7-15-2②

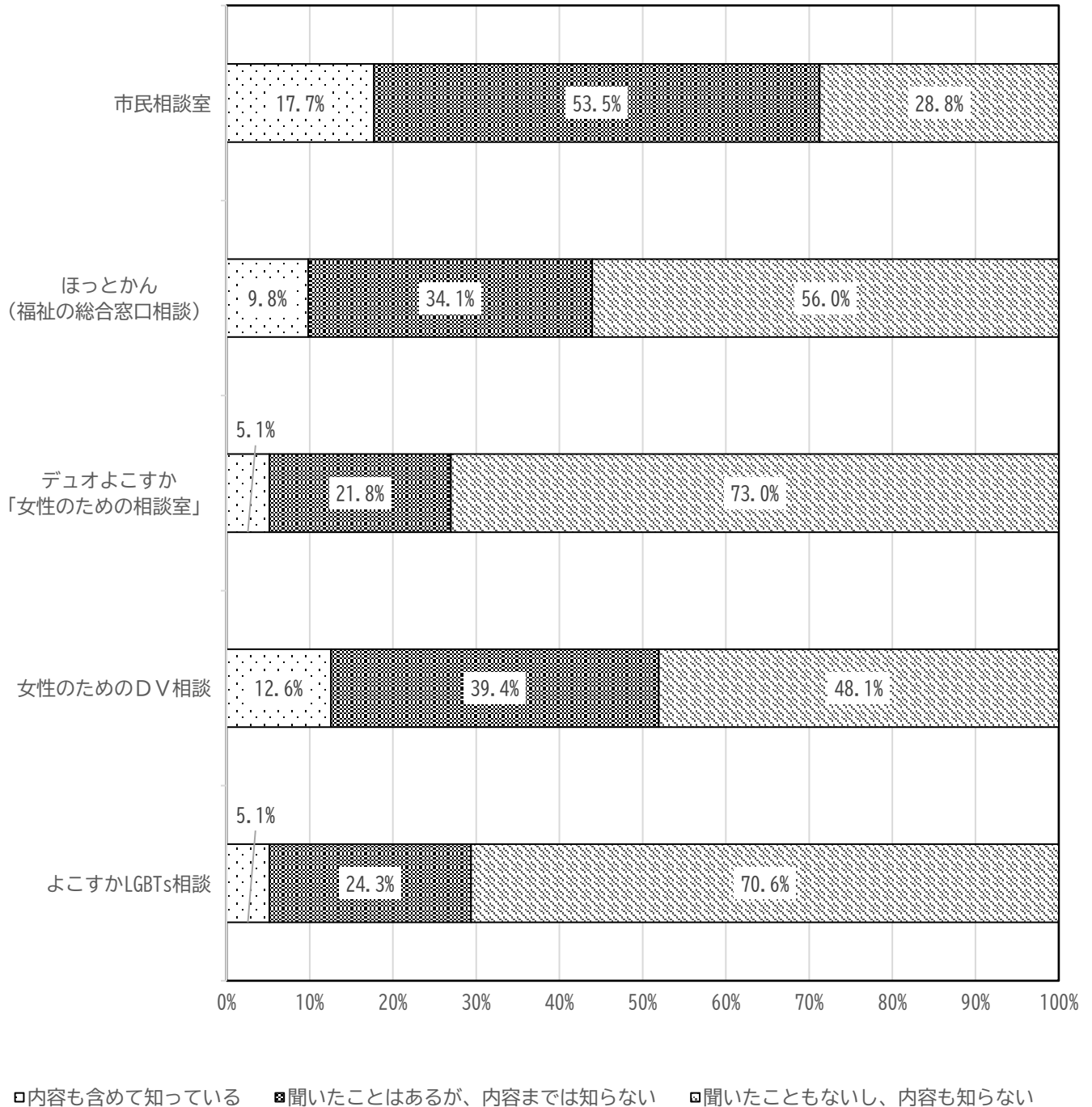


3-8 市の相談支援窓口について

問16 あなたは、次の市の相談事業を知っていますか。

「市民相談室」は認知度（「内容も含めて知っている」+「聞いたことはあるが、内容までは知らない」）が高い一方、「デュオよこすか」、「よこすかLGBTs相談」は認知度が低い。

図 3-8-16



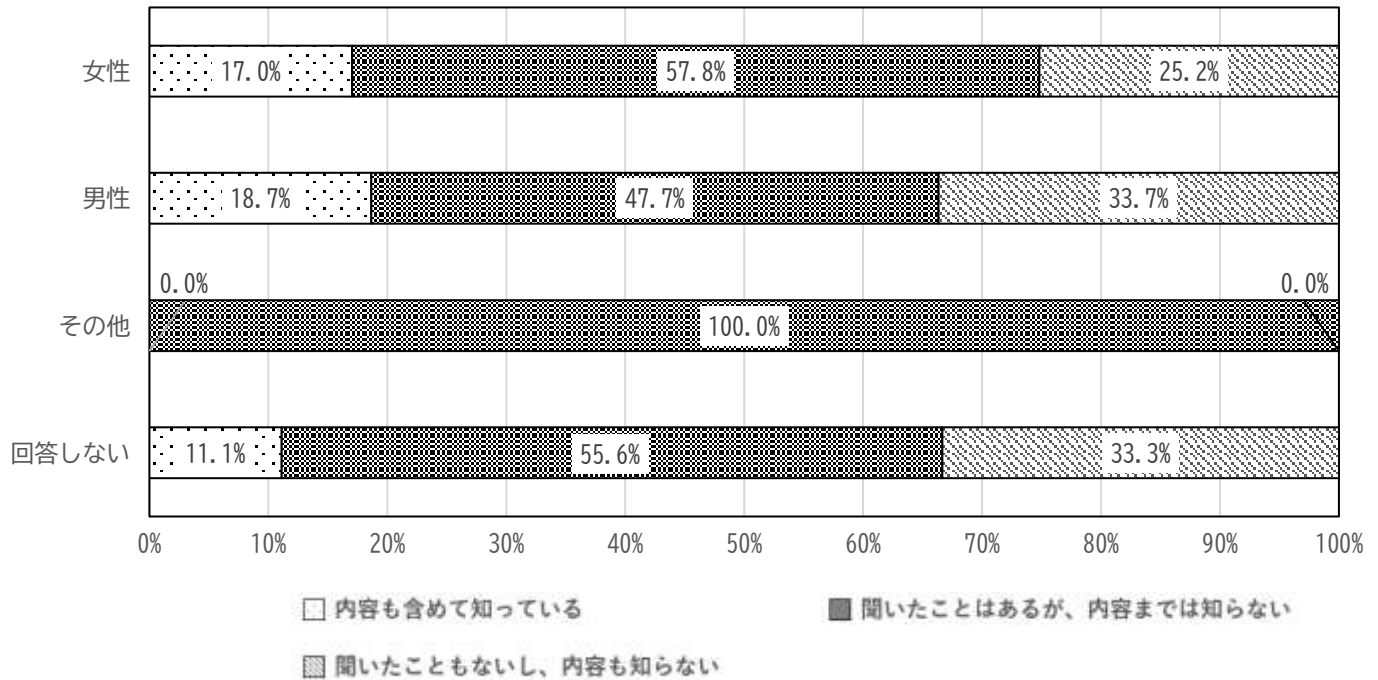
■属性別の特徴

①市民相談室について

男女別でみると、女性の方が認知度が高い。

F1.性別

図.3-8-16-1①

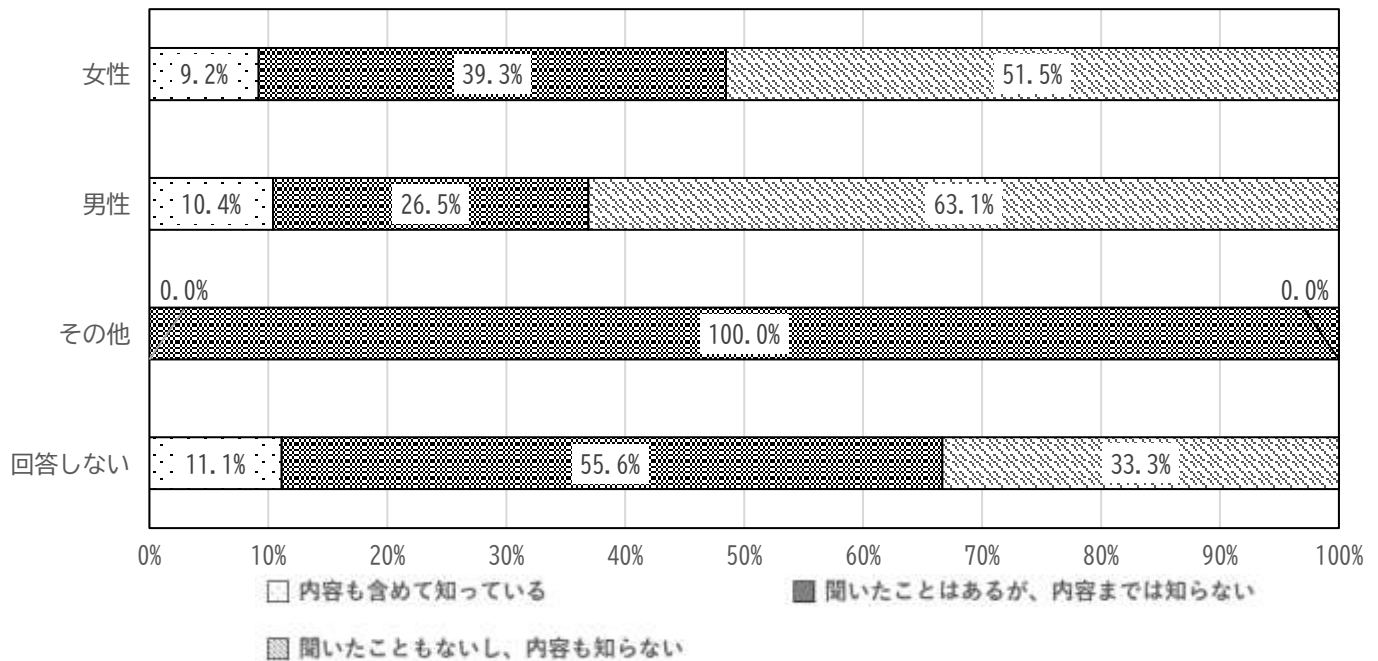


②ほっとかん(福祉の総合窓口相談)

男女別でみると、女性の方が認知度が高く、大きな差が見られる。

F1.性別

図.3-8-16-1②

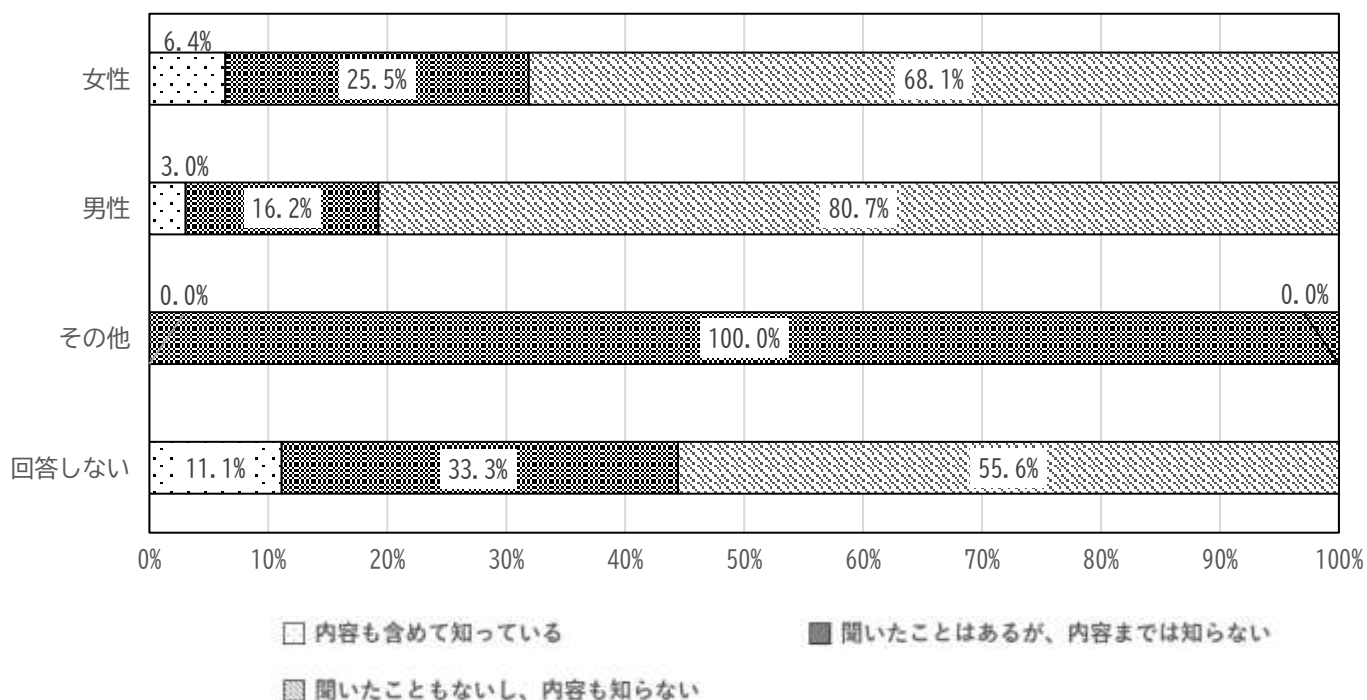


③デュオよこすか「女性のための相談室」

男女別で見ると、女性の方が認知度が高く、大きな差が見られる。年齢別で見ると、50代以上の女性の認知度が高い。

F1.性別

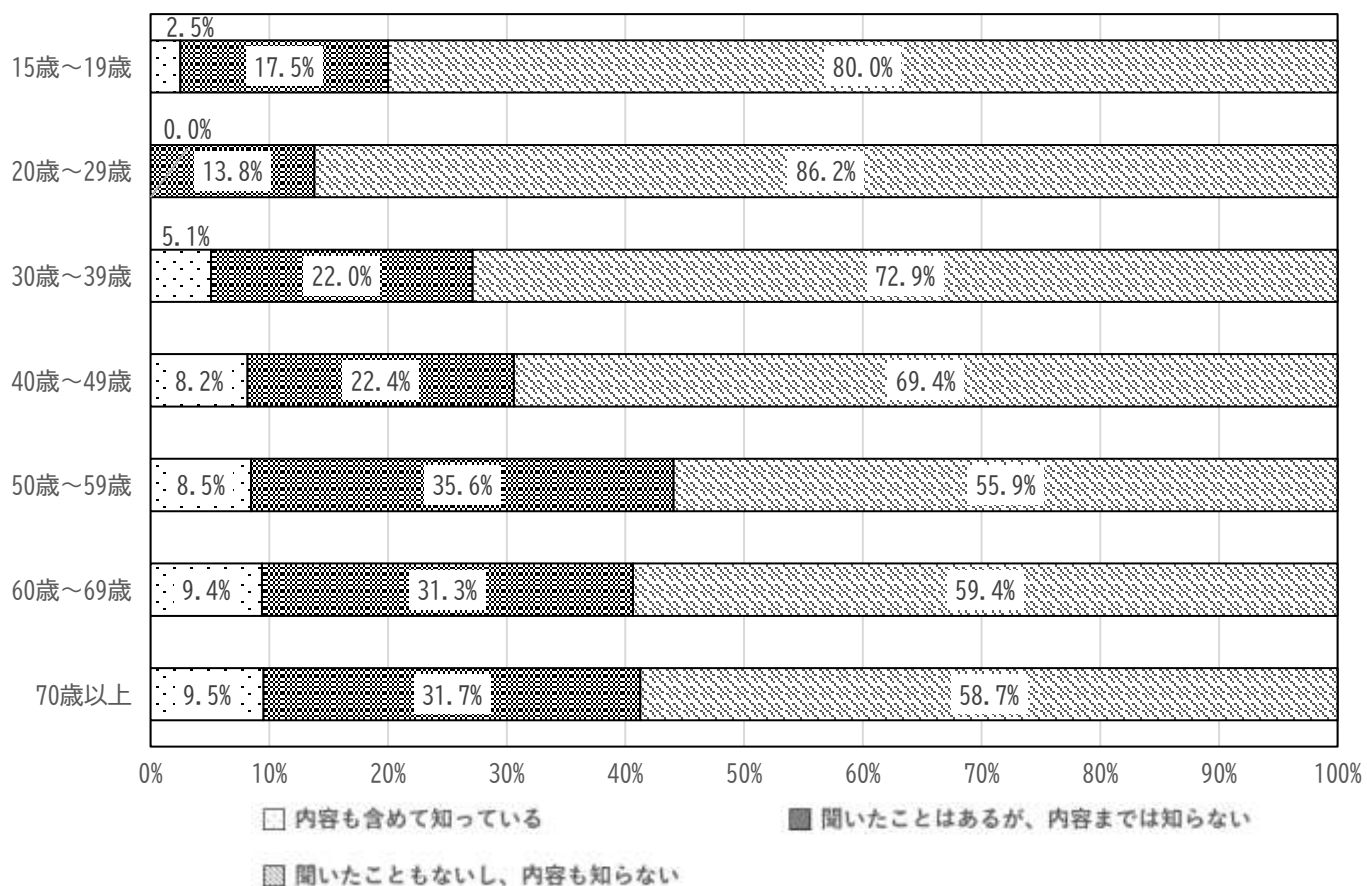
図. 3-8-16-1③



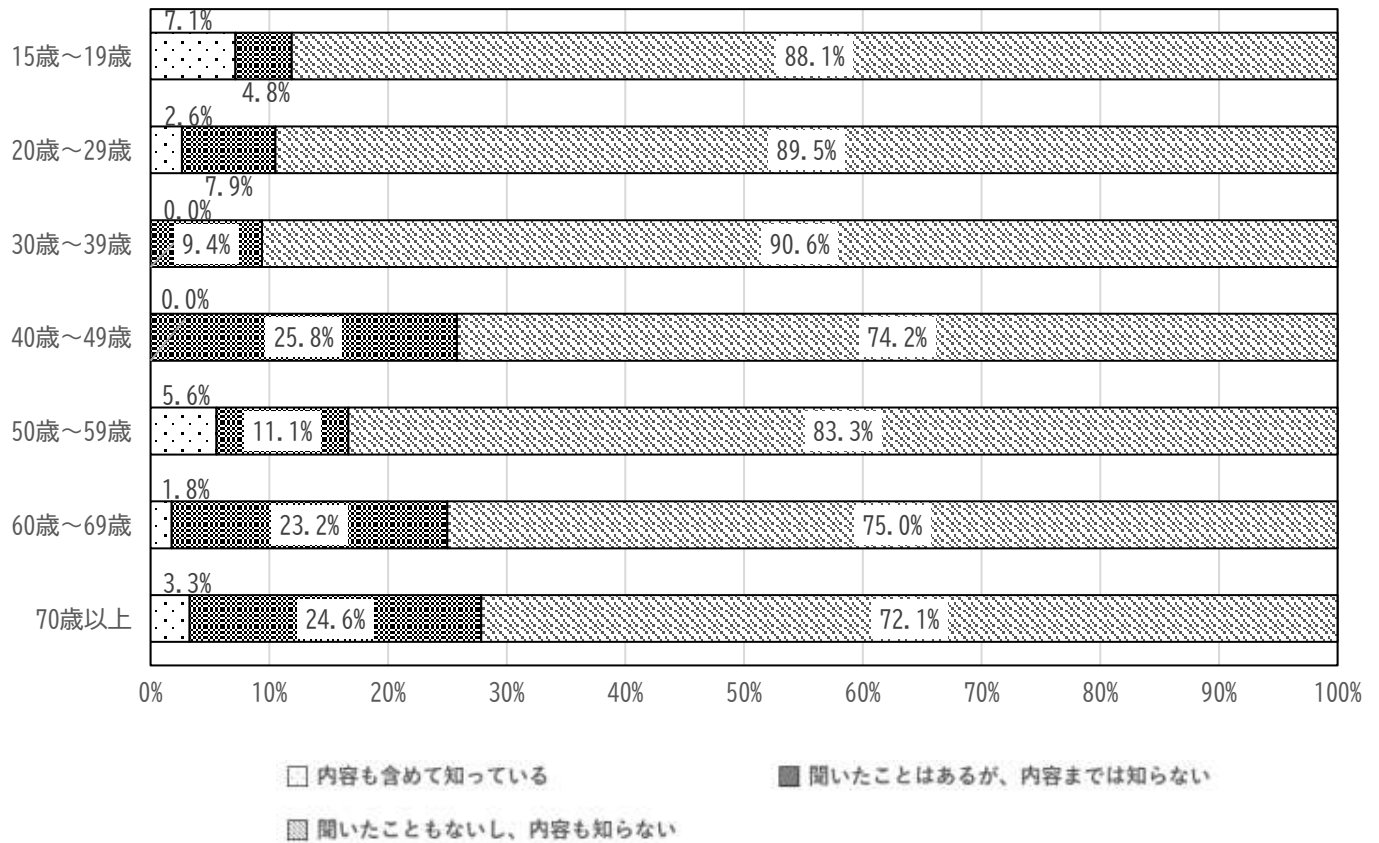
F1.性別×F2.年齢別

図. 3-8-16-1×2③

【女性】



【男性】

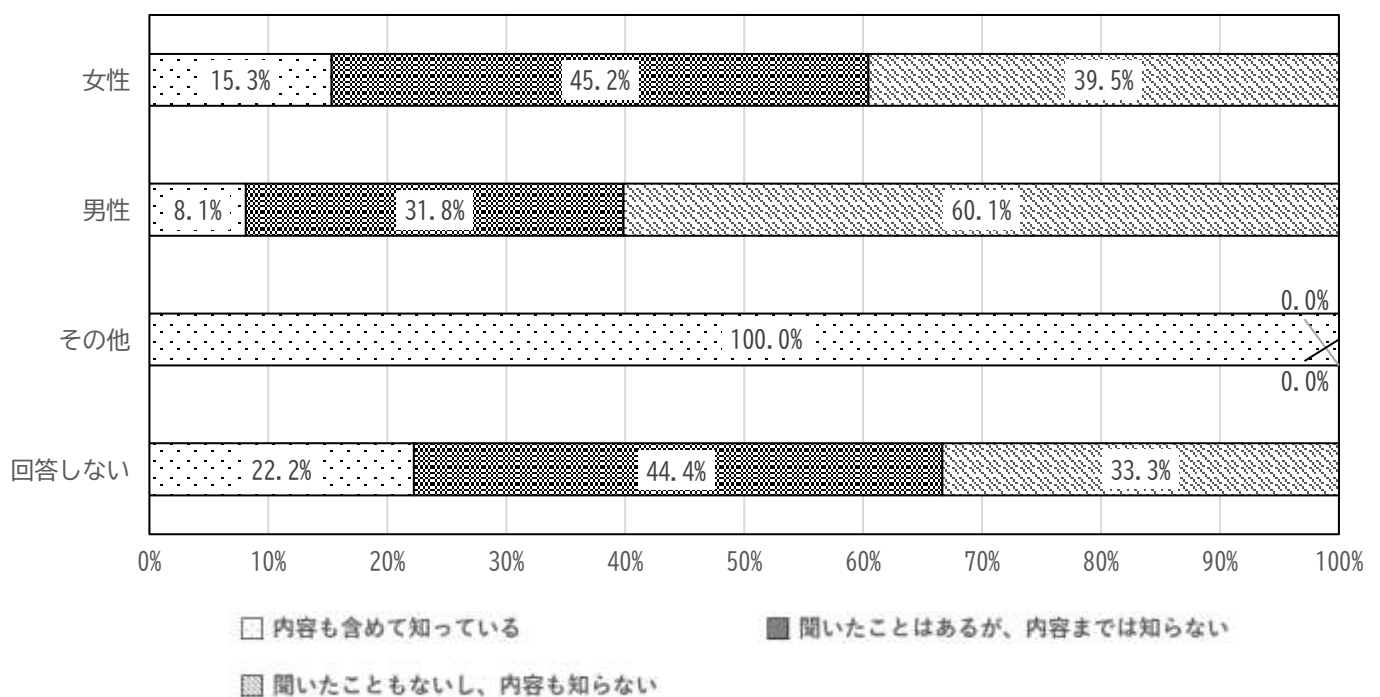


④女性のためのDV相談

男女別でみると、女性の方が認知度が高く、大きな差が見られる。

F1.性別

図. 3-8-16-1④

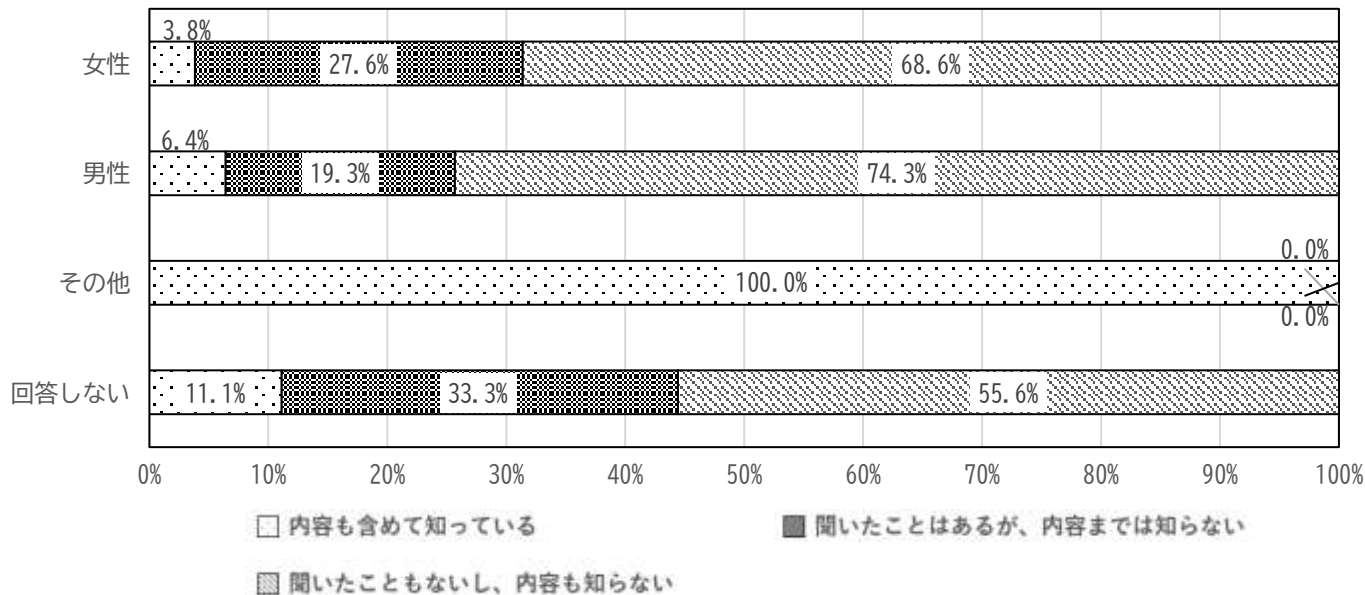


⑤よこすかLGBTs相談

男女別で見ると、女性の方が認知度が高い。年齢別で見ると、50代以上の女性の認知度が高い。

F1.性別

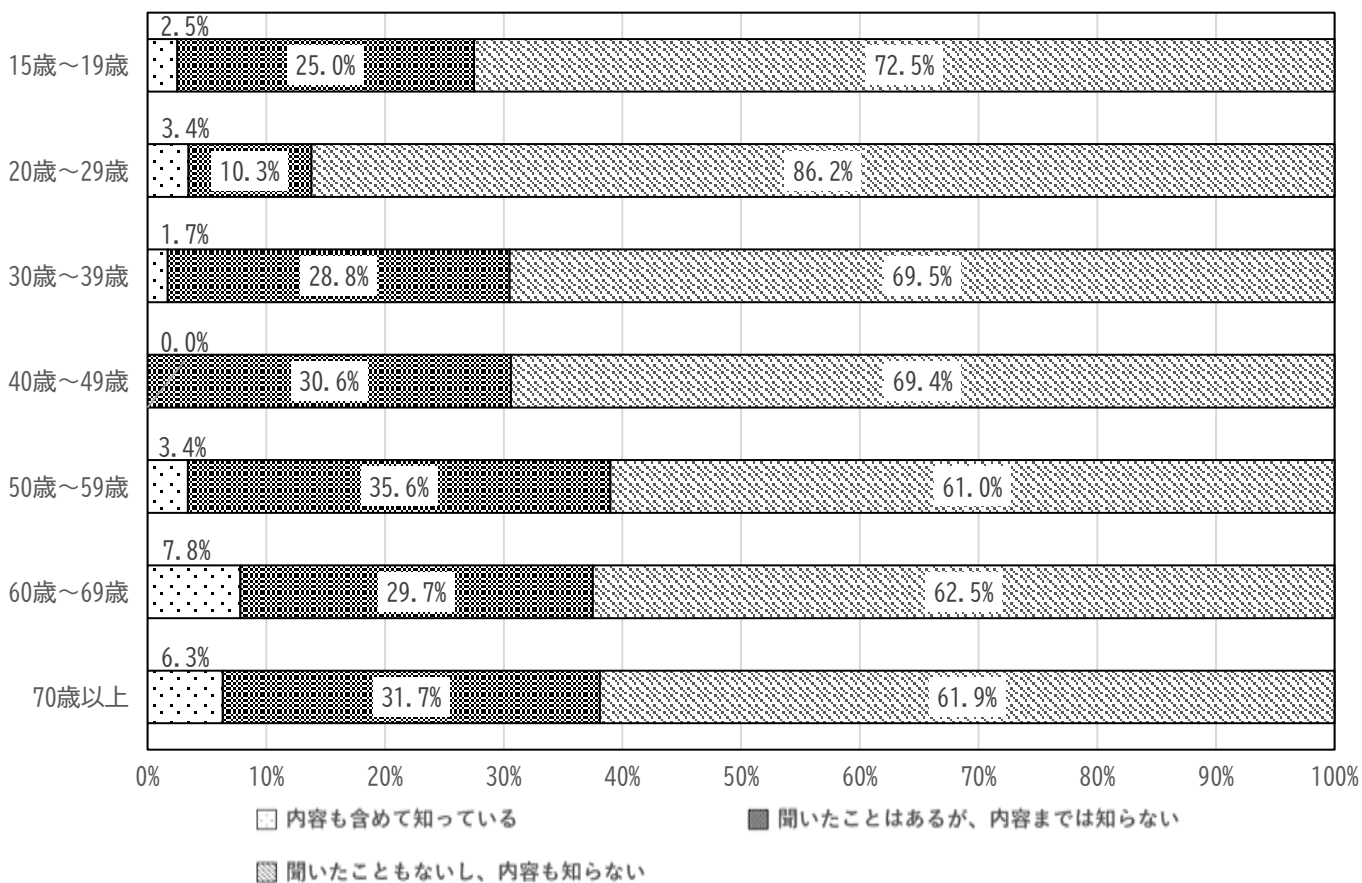
図.3-8-16-1⑤



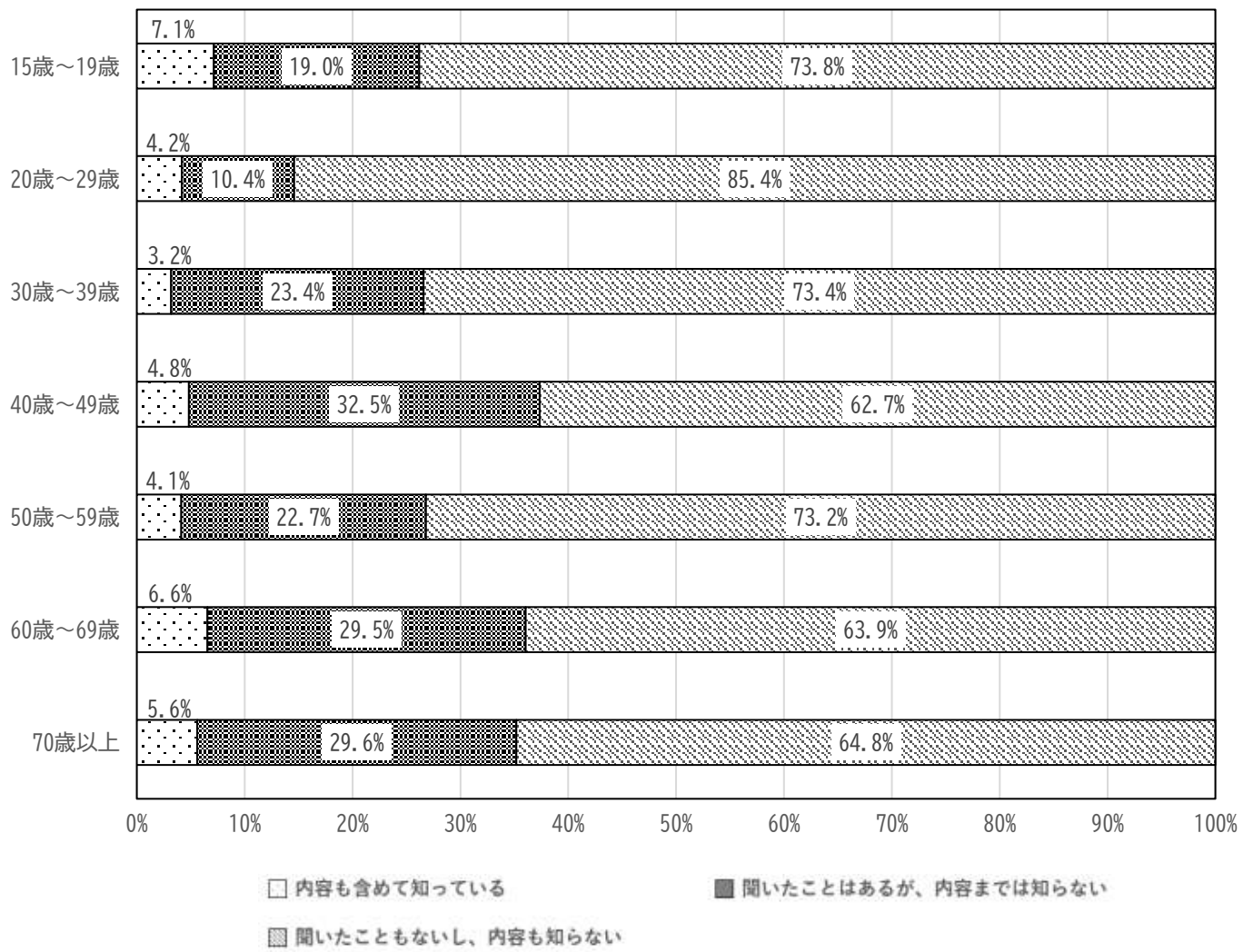
F1.性別×F2.年齢別

図.3-8-16-1×2⑤

【女性】



【男性】

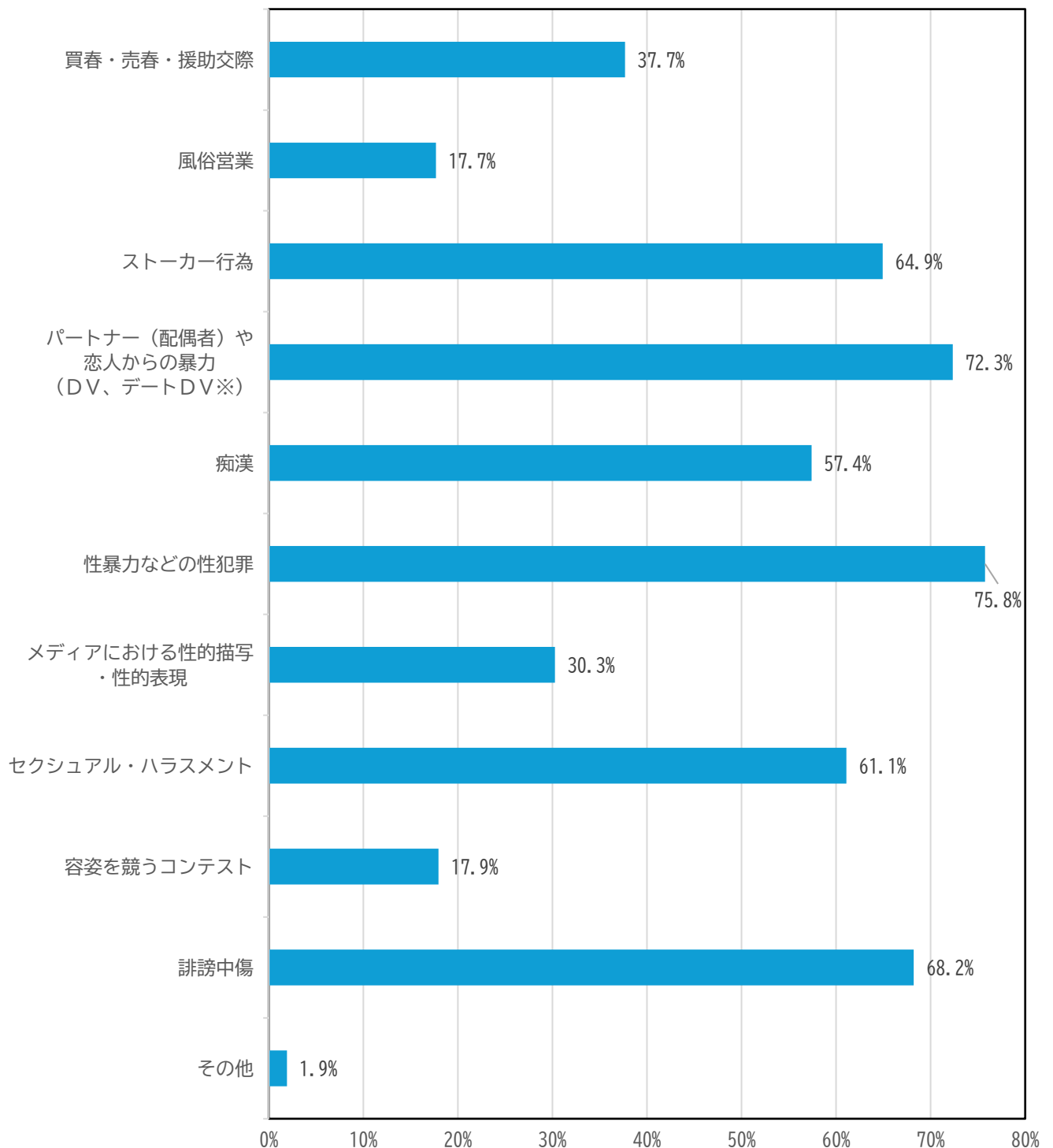


3-9 性別等に基づく人権侵害（DV、ハラスメント等）について

問17 「人権が侵害されている」とあなたが感じるのはどのような場合ですか。
あてはまる選択肢を選んでください。（複数回答）

「性暴力などの性犯罪」が最も割合が高く、次いで「パートナー（配偶者）や恋人からの暴力（DV、デートDV）」が高い。

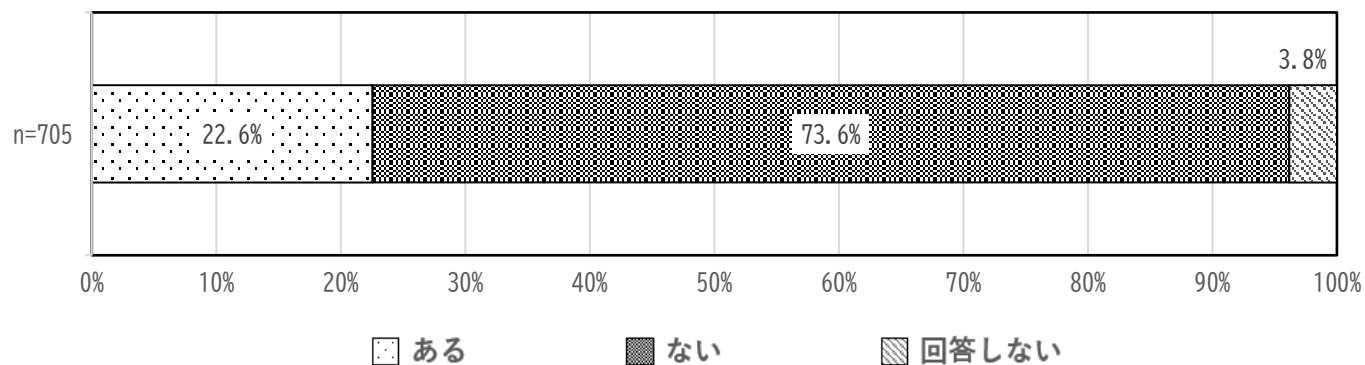
図 3-9-17



【問 18】 あなたは、職場や学校、地域などにおいてセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。

「受けたことがある人」は 22.6% だった。男女別でみると、女性の方が「受けたことがある人」が多く、大きな差が見られる。

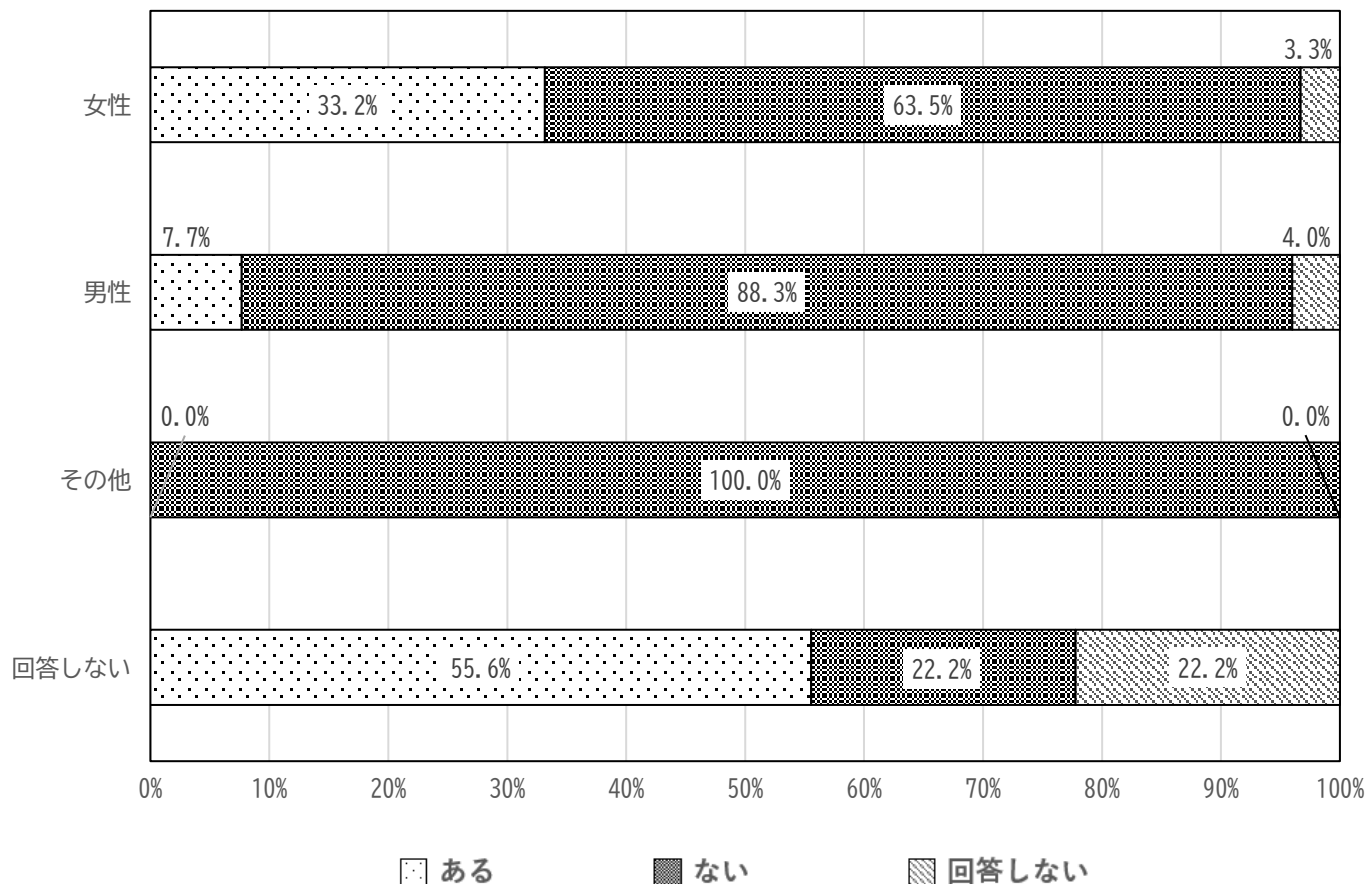
図 3-9-18



■属性別の特徴

F1.性別

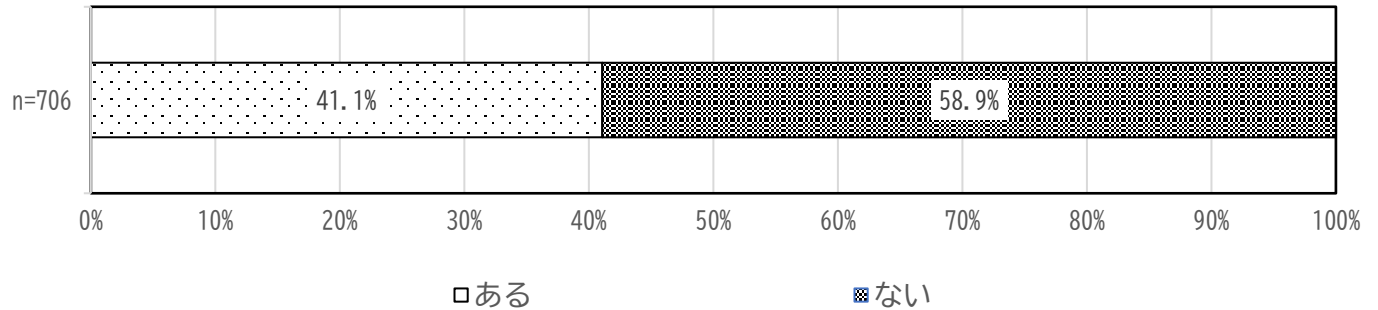
図. 3-9-18-1



【問 19】 あなたは、職場や学校、地域など、あなたの身の回りにおいてセクシュアル・ハラスメントの場面を見たり、被害を聞いたりしたことがありますか。

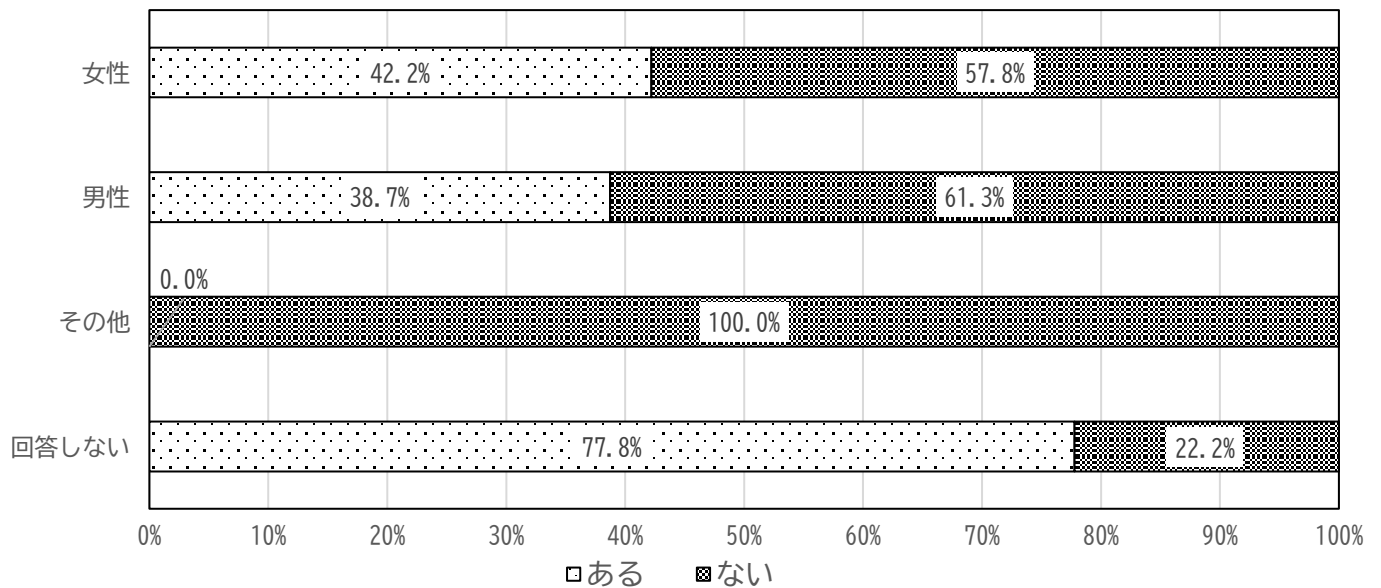
「見聞きしたことがある人」は 41.1%であった。男女別でみると、大きな差は見られない。

図 3-9-19



F1.性別

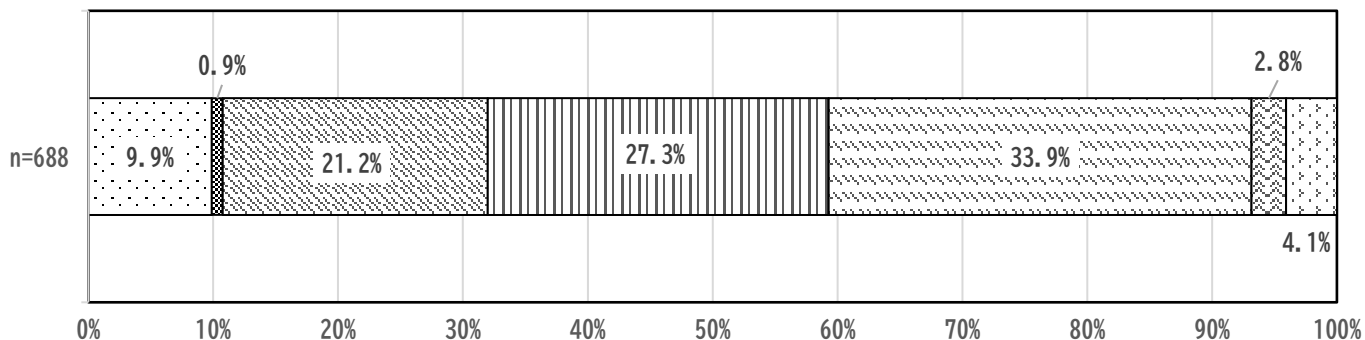
図. 3-9-18-1



【問 20】 あなたは、セクシュアル・ハラスメントをなくすためにはどのような取り組みが最も必要だと思いますか。

「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会意識づくり」の割合が最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化」が高い。

図 3-9-20

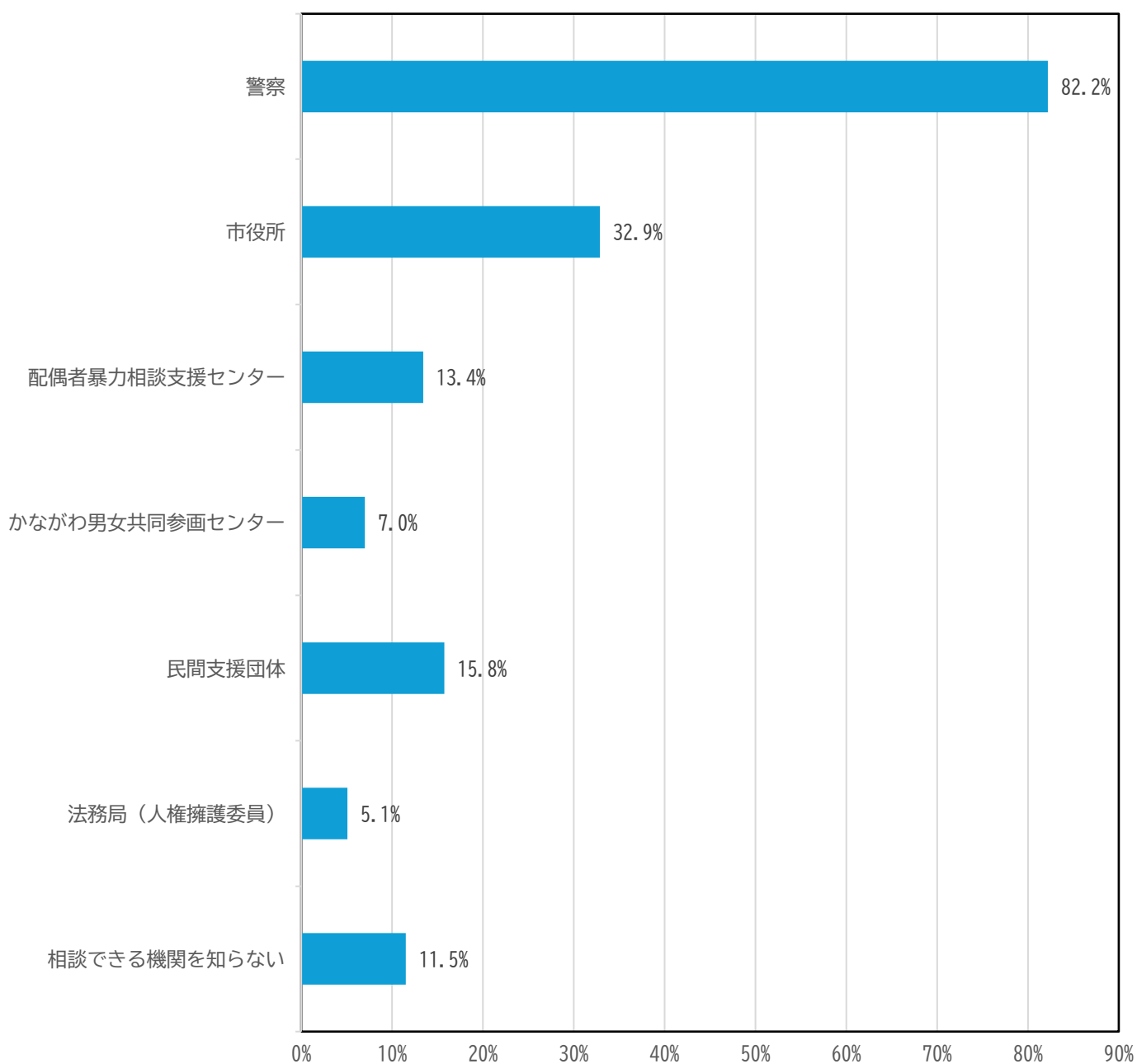


- 公的機関の相談や指導の強化
- 民間ボランティア団体等のチェックや相談
- 職場内でのチェックや相談
- セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化
- セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会意識づくり
- その他
- 特にない

【問 21】 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力(DV)について、相談できる機関としてあなたが知っている選択肢を選んでください。(複数回答)

「警察」の割合が最も高く、次いで「市役所」が高い。

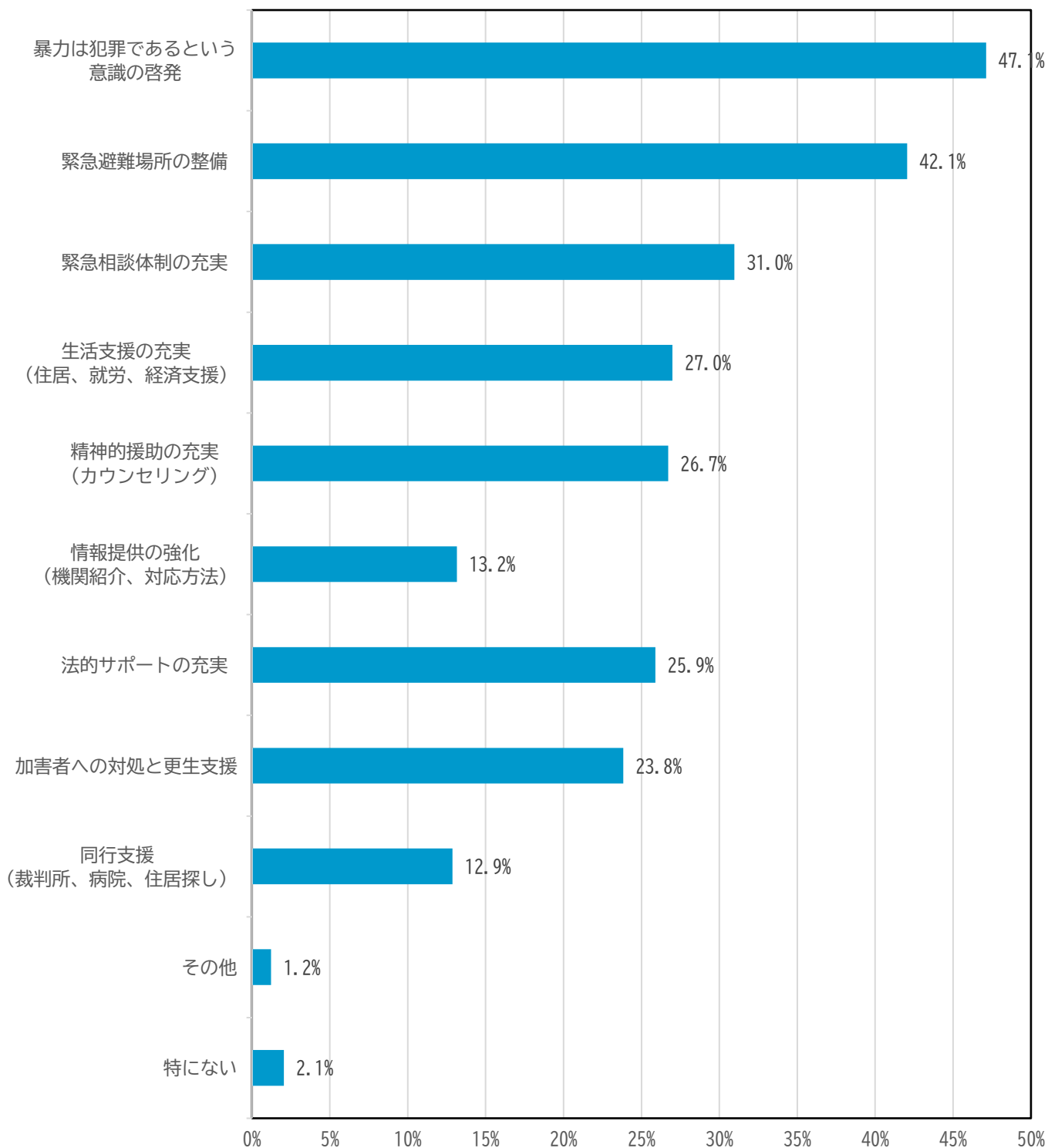
図 3-9-21



【問 22】あなたは、配偶者や恋人など親しい間柄における暴力(DV)に対する対策や支援として重要だと思う取り組みは何だと思いますか。(複数回答)

「暴力は犯罪であるという意識の啓発」が最も割合が高く、次いで「緊急避難場所の整備」が高い。

図 3-9-22

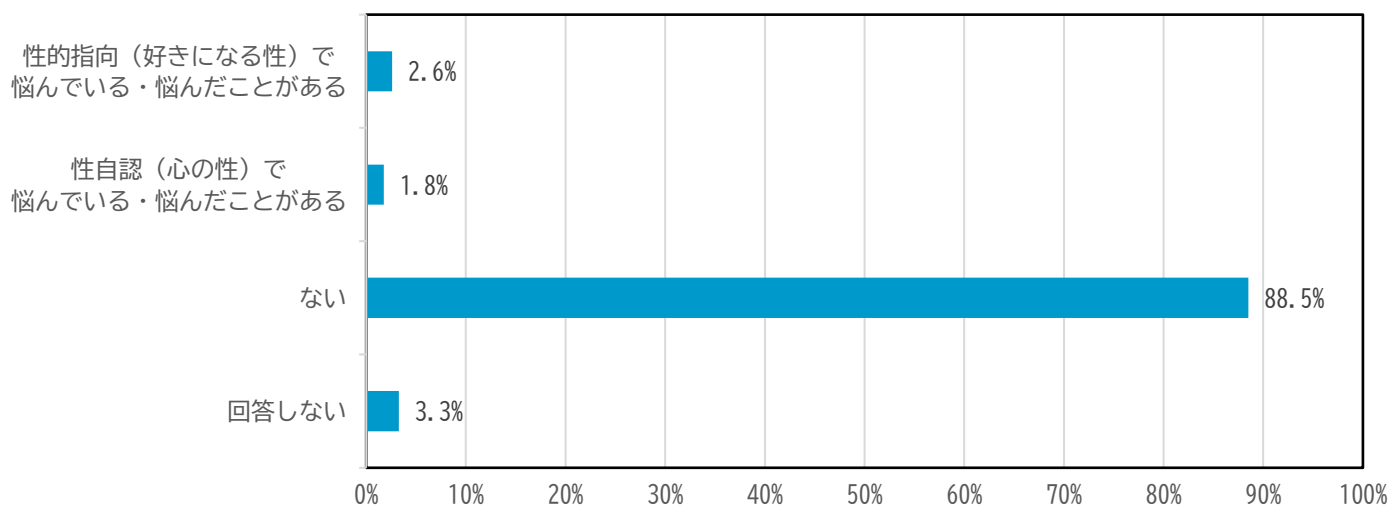


3-10 多様な性・性的マイノリティ（LGBTQ+）について

問23 あなたは、今までに自分の性的指向（好きになる性）や性自認（心の性）に悩んだことがありますか。

「性的指向で悩んでいる・悩んだことがある」が2.6%、「性自認に悩んでいる・悩んだことがある」が1.8%だった。

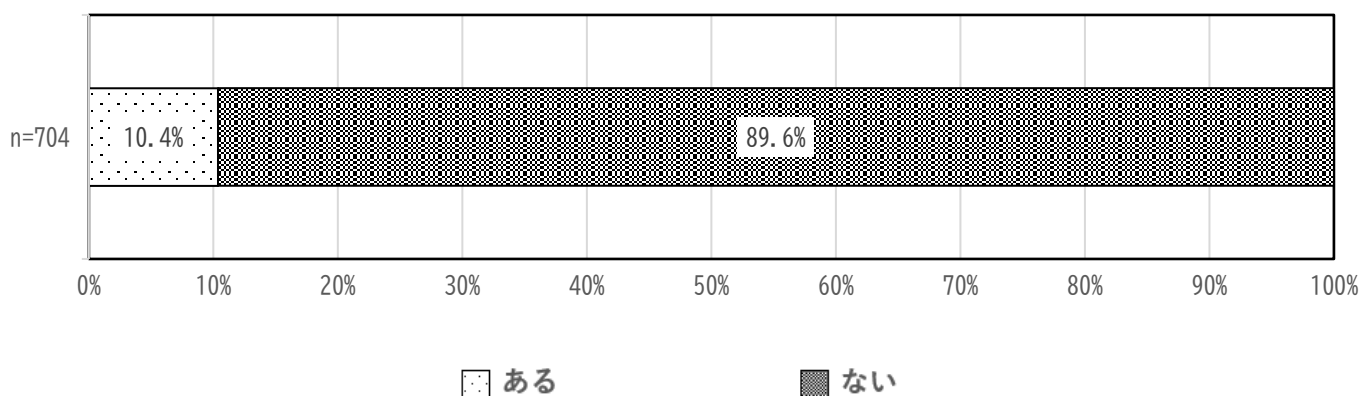
図 3-10-23



【問 24】 あなたは、あなたの身の回りの人から、性的指向(好きになる性)や性自認(心の性)について相談を受けたことがありますか。

「相談を受けたことがある」が10.4%だった。男女別でみると、大きな差は見られない。

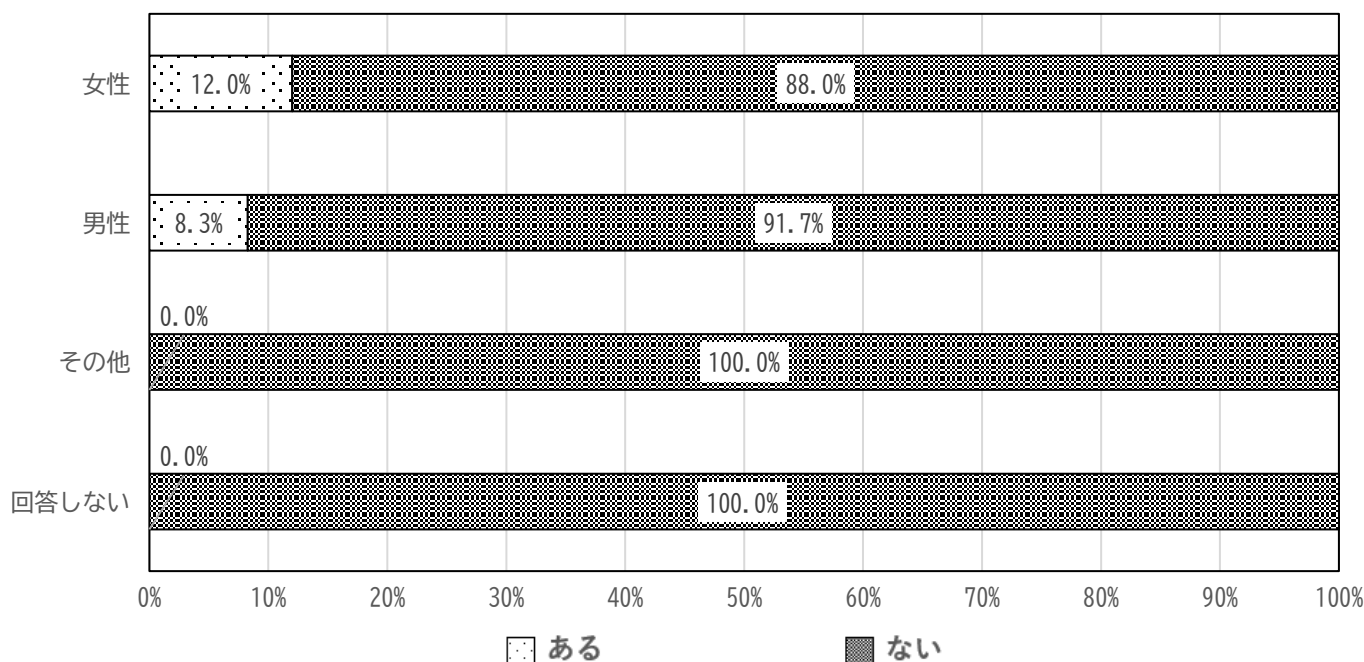
図 3-10-24



■属性別の特徴

F1.性別

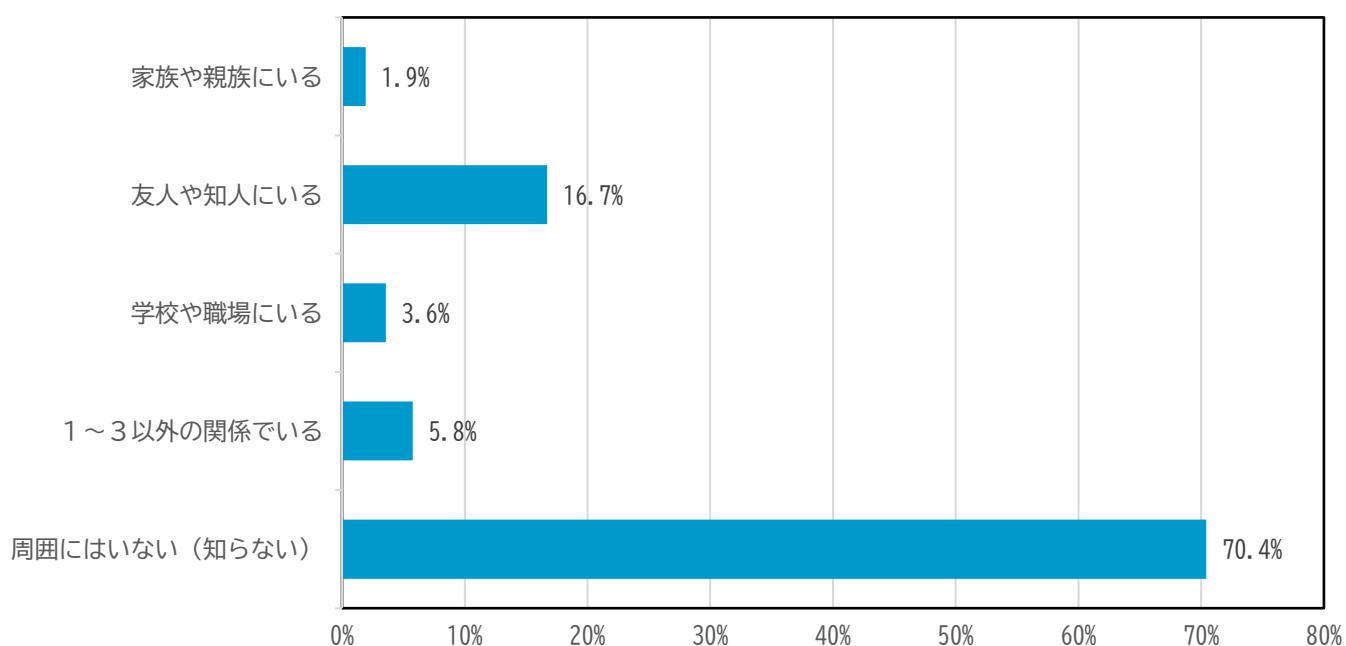
図.3-10-24-1



【問25】 あなたの身の回りに性的マイノリティ（LGBTQ+）の当事者はいますか？

「友人や知人にいる」が16.7%だった。

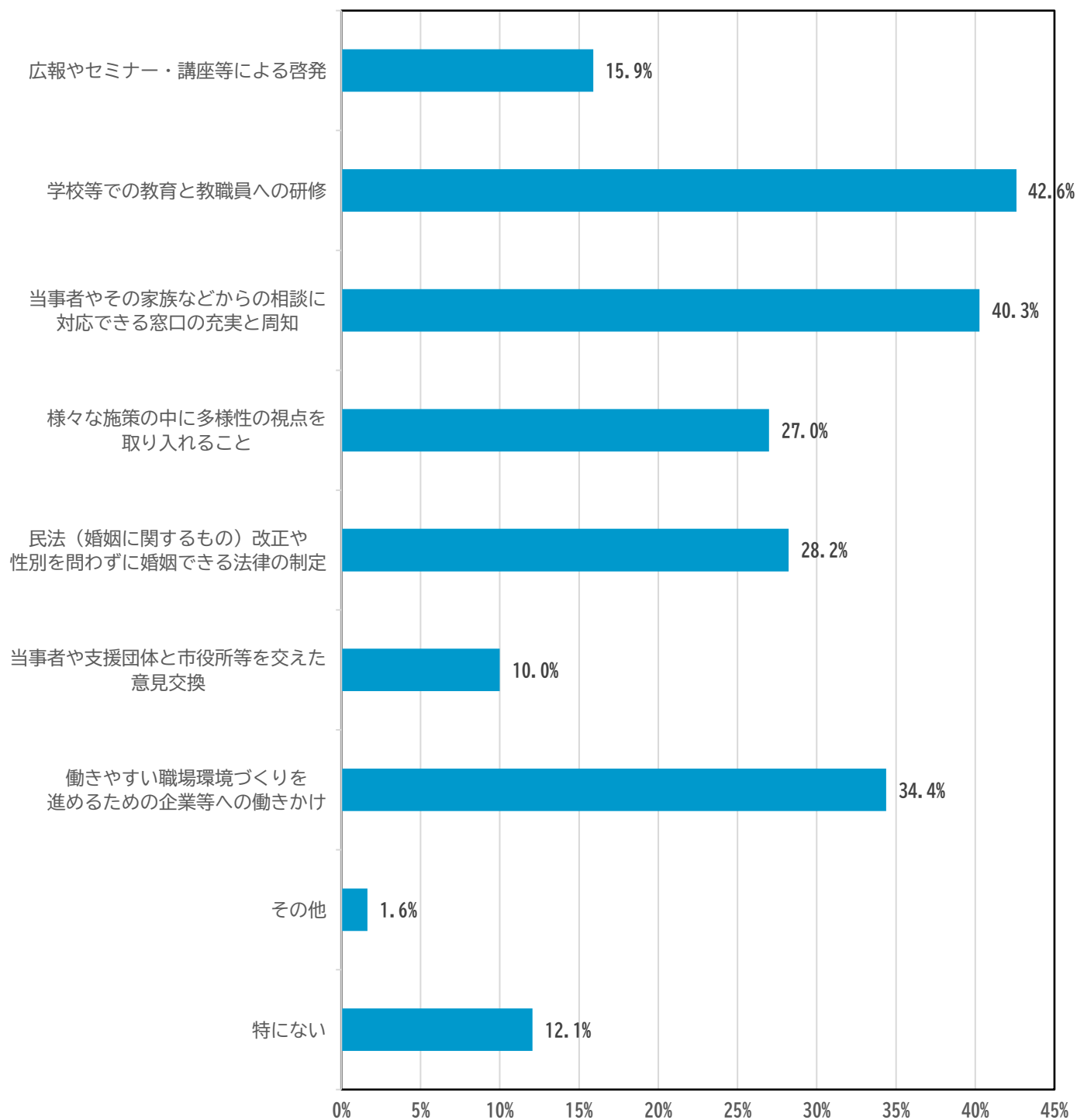
図 3-10-25



【問 26】 あなたは、性的マイノリティ(LGBTQ+)の当事者への支援として、重要だと思う市役所がすべき取り組みは何だと思いますか。（複数回答）

「学校等での教育と教職員への研修」の割合が最も高く、次いで「当事者やその家族などからの相談に対応できる窓口の充実と周知」が高い。

図 3-10-26

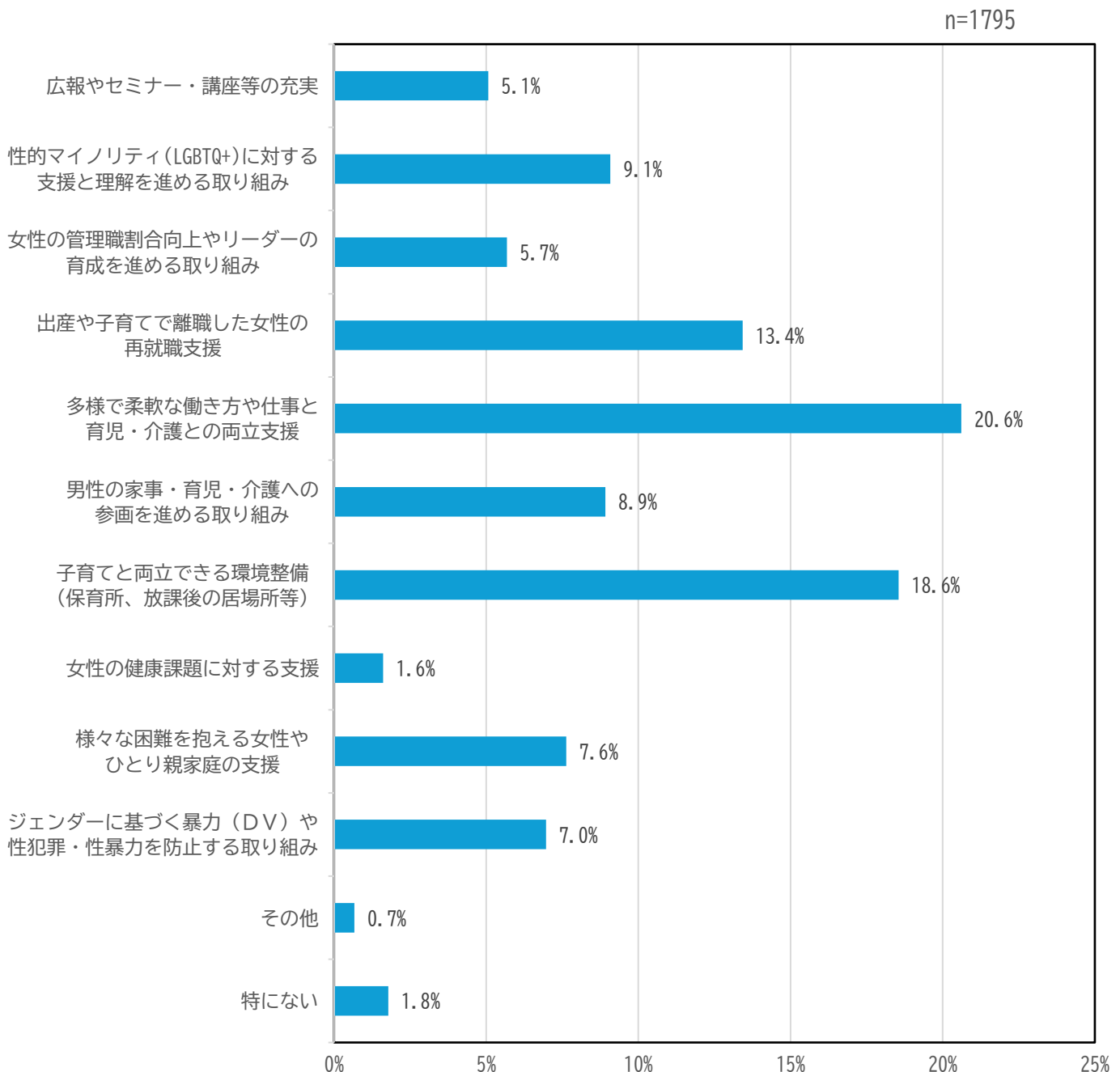


3-11 横須賀市が進める取り組みについて

問 27 あなたが、男女共同参画社会、多様な性が尊重される社会の実現に向けて、横須賀市が特に重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。

「多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援」が最も割合が高く、次いで「子育てと両立できる環境整備（保育所、放課後の居場所等）」が高い。男女別でみると、女性は「多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援」が最も割合が高く、男性は「子育てと両立できる環境整備（保育所、放課後の居場所等）」が最も高い。「多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援」の割合で男女の大きな差が見られる。

図 3-11-27



■属性別の特徴

F1.性別

図. 3-11-27-1

